

川尻文化の会便り綴り

平成二十年（令和元年）



「川尻文化の会」が遺したもの

「川尻文化の会」は、2008（平成20）年春、郷土史家、西輝喜翁（令和元年6月30日逝去）が主唱する「外城のお蔵保存」の熱意に共鳴、賛同する人たちが集まり、会則や組織、活動の経費捻出等を協議する準備期間を経て、同年の9月に「川尻文化を考える会」として発足、活動を始めました。

当初の会員は少人数でしたが、「日本各地の米蔵写真展」を皮切りに、盛岡市や鳥取県湯梨浜町の米蔵保存活動と川尻の米蔵保存を考える「全国御蔵サミット」を開催するなどして、時代の星霜を経た史跡保存の重要さを訴えました。2010（平成22）年8月5日付けの官報に「熊本藩川尻米蔵跡（外城史跡・船着き場跡）」を国指定史跡にしたことが記されました。史跡保存のために手弁当で奔走した会員たちの宿願が叶えられた瞬間でした。さらに、2012（平成24）年には、細川藩時代、「水軍基地」（富合町杉島）と往来した「御船手渡し場跡」（川尻町外城）が、国指定の追加を受けます。史跡の町川尻の発展に大きな基礎固めが出来たのです。

若い方々や小中学校の児童生徒が「郷土の発展に尽くした先人たちの努力」を知ることにより、「郷土により愛着と誇りを持って欲しい」との願いから、2012（平成24）年からは「ふるさとの歴史本」づくりに着手しました。歴史本を作るという士気は高いものの、編纂者たちは高齢で、しかも本の出版は未経験から難産となりました。肥後川尻町史を参考に毎月の編集会議、写真撮影、著作権の許諾、印刷のデータづくりが行われ、124ページに及ぶ「ふるさとの歴史 川尻」が産声を上げるのに企画から3年を要しました。

続いて、「歴史・史跡を散策しようと川尻を訪れる方々へのおもてなし」が求められます。熊本市南部地域歴史研究会へ協力を依頼、「川尻史跡案内人の講習会」を開くとともに、2015（平成27）年から川尻町にある史跡案内板や標木、石碑の調査に入り、それらを記した地図と説明文（案）を作成、その標木が少しずつ建ち始めています。

これらの活動は、川尻町の方々へ「文化の会便り」として、お知らせして参りましたが、その川尻文化の会便りも11年間で57号を数えました。川尻文化の会の終焉に当たり、この57号全てを1冊の本に取り纏め、活動の記とさせて頂きます。

『川尻文化を考える会』発足



9月21日(日)川尻公会堂で「川尻文化を考える会」の発足式が行われました。式には熊本市から西島副市長、小牧教育長、今村文化財課長の御出席を賜りました。また地元川尻からは、雨天にも関わらず118人の方々にお集まり頂きました。

（ご参加ありがとうございました。）

川尻文化を考える会便り

発行人代表=西 輝喜
毎月1回発行

発足経緯



九州新幹線全線開通を3年
後に控えて、熊本城内には桜

の馬場会館の建設、熊本市中

心地区の再開発構想(花畠地

区・桜町地区)が相次いで発
表されました。そこで、加勢川

の船着場の整備は未春完了
します。さらに今月6日には、

九州新幹線の車両基地を持つ
隣接の富合町が熊本市に合併

し、熊本市の政令指定都市化
が加速して行きます。

この時代の移るいの中につ
て、歴史と伝統の町、史跡に
恵まれた川尻には、春夏秋冬
の祭事はもとより数多くの
イベントが存在しますが、それ

ぞれの祭事の連携は薄く、ま
た一過性のものも少なくあり
ません。この現状を鑑みると、
九州新幹線開通という大き
なうねりに川尻は呑み込まれ
て、埋没してしまう恐れがあ
るといえます。

熊本市の政令都市指定が目
前になった今こそ、「川尻に脈
わいを取り戻す」をコンセプト
に川尻地区を広域に見て「河
尻氏に始まった川尻文化圏」
と捉え、歴史と史跡の掘り起
こしを進めたい志を二つに
する人たちが集まり研究して
まいりました。

基本方針



川尻自治会、婦人会、老人会、青年協議会等を中心多く
の市民の理解と協力が不可欠です。しかし、川尻文化を考える
会の事業は、今しがちやんぐの
ない、しかも失敗の許されない
事業であり、「やる人、やれる人
の集まり」として、周りを気に
せずに「不退転の覚悟で事業に
取り組む」方針です。

組織・運営

- 1) 代表協議会といくつかの専門部会を設置。
- 2) 代表協議会のメンバーから会の代表を選出。
- 3) 専門部会と別に広報、涉外、事務等の担当者を置く。
- 4) 代表委員会を毎月1~2回のペースで開催。

急がれる お蔵の保存と運用



今一番急務なのは、お蔵の
保存と運用です。事業の一つ
として船着場の整備終了に合
わせ「お蔵一帯の史跡保存」の
事業も展開していきます。

お蔵の保存と運用です。事業の一つ
として船着場の整備終了に合
わせ「お蔵一帯の史跡保存」の
事業も展開していきます。



え
つ
ぶ
す
の
や
き



熊本市の政令都市指定、九州新幹線の全線開通を目前にして、私たちの周りは大きく変化しようとしています。また、世代の認識や意識も移ろう中、あくまでも、川尻の輝かしい伝統と歴史は、私たちの大きな誇りであり、心の伴であります。

しかし、「この輝かしい歴史と伝統が今、風化の危機に晒されています。川尻の伝統と歴史を何らかの形で後世に残すこと」は私たちに課せられた責務であり、今まで、「水と緑と歴史のまち川尻」に賜わいを取り戻したいと存します。すでに川尻文化を考える会準備会による準備と検討が重ねられてきましたが、ここに川尻文化を考える会を発足させることとなりました。以上の趣旨に賛同を賜り、各位のご協力をお願いする次第です。

川尻文化を考える会
代表 西 錦喜



「お蔵」の見学会を実施します

多くの方々のご参加をお待ちしています。



今月、10月26日(日)「川尻文化を考える会」主催によるお蔵一帯の見学会を実施します。川尻校区外の方も歓迎いたします。友人・知人をお誘いの上ご参加下さい。

- 集合会場所 || お蔵前
- 集合時間 || 午後2時
- (懐中電灯をお持ちの方はご持参下さい。)

代表協議会、結果報告



西代表の説明に熱心に耳を傾ける参加者の皆さん



協議会では、60坪庭を多目的ホールに、200坪庭を資料館とする利用案が提出されました



11月14日金くまもと工芸会館で「川尻文化を考える会」の代表協議会が行われました。10月26日(日)に開催された御蔵見学会の報告に続き、「御蔵部会」の発足について西代表より説明があり、御蔵の利用についての提案・専門委員と部会委員の選任の後活発な討議が行われました。

川尻文化を考える会便り

発行人代表=西 輝喜
毎月1回発行



御蔵見学会の報告

10月26日(日)「川尻文化を考える会」主催によるお蔵一帯の

見学会が実施されました。生憎の小雨の癡る中、遠くは玉名市から来られた方も含め、48人の参加がありました。御蔵を

所有されている渡谷氏の立いでの御蔵を約1時間半かけて見て回りました。

御蔵部会の発足

部会の専門委員として、西

輝喜、吉村圭四郎、重田健蔵、

友清哲之助、福山龍太郎の各氏

が選任されました。ささやかに部会

委員として60坪蔵の担当に

吉村、友清、大川正敏、の各氏

と「南史会」より3人が、200

坪蔵の担当として友清、吉村、

重田、「南史会」、「青年協(以

上)民族諸品目の保管と記録」

西、重田、福山、「青年協(以

上)南史会」より3人が、200

する調査、記録」とそれぞれ

熊本市第6次総合計画(素案)について

《施策の体系》

【施策の目標】

文化財を適正に保存し、積極的に活用する

◇総合計画の定義

○都市が目指す将来像を描くとともに、その実現のためのまちづくりの方向、基本指針、主な施策を定めた長期的なまちづくりの計画

【事業展開の基本方針】

史跡等文化財の保存と整備(A)

歴史的文化遺産にふれる機会の拡充(B)

【主な取り組み】

文化財の調査と保存整備

※有形文化財や史跡、名勝、天然記念物など、市民共有の貴重な歴史的文化遺産を調査し、適正に保存します。

熊本城の保存管理と環境整備

埋蔵文化財の保存と発掘調査

文化財・埋蔵文化財の活用

※歴史産業や史跡めぐり、発掘現場説明会など、市民が文化財にふれる機会を充実させます。

記念館の管理運営と整備充実

※→《事業の概要》から一部抜粋

熊本市がまとめた第6次総合計画・基本計画(素案)の中で「歴史的・文化遺産の継承と活用」が施設とされ、熊本市は市民と協力して適正な保存と整備に努めるとともに、関係機関との連携を図り、歴史的・文化遺産の継承活動を推進する計画です。

会はこの基本計画を大きなかばくボーンと捉え機会を逃さず、川尻地区の文化遺産を広く生かしてゆく必要性を認めました。本会はこの基本計画を大きく進めて行くつもりです。会はこの基本計画を大きなかばくボーンと捉え機会を逃さず、川尻地区の文化遺産を広く生かしてゆく必要性を認めました。本会はこの基本計画を大きなかばくボーンと捉え機会を逃さず、川尻地区の文化

川尻文化を考える会便り



「御蔵前船着場」「川尻奉行上田休」
説明板が新しくなります

川尻御蔵前船着場入口と
川尻公会堂前にある説明板
が古くなってしまって、文面がぼやけて
見えませんでした。昨年から
熊本市観光政策課にお願い
していましたところ、この程、
改修予算がやっと確保され、

① 川尻御蔵前船着場の説明
板②川尻奉行所と上田休の説明
板は川尻月間が始まる来年
2月までには取り付けの予定
です。

川尻の歴史と文化を紹介する TV番組「かわしり“夢街道”」をTKUで放送

歴史文化、職人町としての
香りを色濃く残している「川
尻町」を県民に広く紹介する
テレビ番組の取材が12月11.
12・16日の3日間町内各所で
行われました。「お番組はTK
Uテレビ熊本が年末特別番組
として企画・制作したもので
す。シリーズ第一回の今回は、
川尻町の歴史を探る史跡探
訪編で、史跡と近代文化の混在
する川尻をTKUの田中朝子
アナウンサーがナビゲーターと
して登場。ロケ(取材)は好天に
恵まれて順調に進み、古城神
社、御蔵、延寿寺、大慈禪寺、
法宣寺、御蔵前船着場、川尻
公会堂などが紹介されます。
また、熊本市南部歴史研究会
会長で川尻文化を考える会代
表の西輝喜さんが説明役とし
て登場します。

川尻出身の浅木真由美さん
がディレクターのこのテレビ
番組は12月29日(月)午後5時
から午後5時30分で、TKU
テレビ熊本で放送されます。

発行人代表=西 輝喜
毎月1回発行



取材風景の写真は、①古
城神社②延寿寺③法宣寺
④御蔵前船着場です。



えびすの つぶやき



芽吹き始めた文化を考える会

川尻町にしかない「藩蔵」、昔のままの「船着場」、「お船手渡し」などの得難い貴重な文化財への取り組みが、やっと芽吹き始めました。



新聞を開くと、毎日のように各地の地域づくり活動が紹介されています。マナの活性化を図らねば、マチは寂れるばかりだから。幕政時代、肥後五ヶ町のひとつとして栄えた私達の町川尻も、昔日の面影はありません。昔の河川港は消え、今は大型船が交易主体の海港の時代です。

昔に遡るようすがありません。しかし祖先が嘗々として結いできたこの川尻の歴史に、目をつぶっていることは出来ません。川尻の町には川を中心に発展し

きた独自の歴史と文化があります。「このマチの財産を活かし、町を活性化する取り組みが「文化を考える会」の基本構想です。

古い格言に「ローマは一日にして成らす」とあります。これは「何事も多大の努力をしなければ、成し遂げられない」の意です。

町に住む人達が、マチの誇りを知り、それを生かす町づくり取り組むことこそ、活性化の道です。

川尻の来訪者に満足して頂けるマチの魅力を各地に発信することなど、一丸となった郷土愛の結集こそ、繁栄への道だと信じます。

西輝喜、友清、重田健蔵、福山龍太郎、米村晃、岩屋信愛、西橋勇（諸民俗記録簿記入係）

米村晃（第4回全体会議が12月9日に開催され今後の方針が話し合われた結果、方針が話されました。

月9日に開催され今後の方針が話し合われた結果、方針が話されました。

一、川尻の歴史（観光）散策のガイドマップの作成。
二、御蔵サミットの開催。
三、JR川尻駅前の整備（レンタルサイクルの運営）。

御蔵部会初会議、開催される

11月23日に開催の御蔵部会の会議において各々

の役割がより細かく決定されました。

◎60坪蔵担当

吉村圭四郎、友清哲之

助 大川正敏、葛西宏安（用具・必要施設の記録係）

友清哲之助、大川正敏（諸物件保管係）

◎200坪蔵担当

a. 民俗諸物件の保管と記録

西輝喜、友清、重田健蔵、福山龍太郎、米村晃、岩屋信愛、西橋勇（諸民俗記録簿記入係）

（諸物件の解説と記録係）

福山山西大介、高田敦司（庶務・会議録・会計）

（諸物件の収集）



史跡指定で熊本市、県に要望



川尻文化を考える会便り

発行人代表=西 輝喜
毎月1回発行



御蔵部会の報告

第5回代表協議会会議は平成21年1月9日(金)11人の委員、顧問が出席して開かれました。また、今回から南部市民センター所長の野口恭子さん、南部公民館長の吉田武さんに会議へ参加してもらい、助言・協力を頂くことになりました。会議では、西代表が昨年12月23日開催した「御蔵部会の報告」と「熊本市・熊本県に今後の会の活動方針を説明して指導・協力を頂く」ため訪庁した結果の説明がありました。

川尻には史跡以外に「これと書った名所が少ないので「加勢川の遊歩道の上、下流に桜、松などを植え、住民や観光客の憩いの場にしたい」との趣旨には賛成です。出来ることに意義があると見えますので、「青年協議会の協力」を得たいと思っています。

「趣旨には賛成です。出来ることに意義があると見えますので、「青年協議会の協力」を得たいと思っています。

この趣意は、私たちが汗を流すことに意義があると考えますので、「青年協議会の協力」を得たいと思っています。

大変好意ある返事を頂きました。

西島善義副市長、原幸代子、河上強教育次長、杉原青史郎、生涯学習部長、渡辺義貴、経済振興局次長、黒葛原潔、観光振興部長、平川一喜

* 熊本県の対応者

正治課長、前川清一課長補佐、帆足俊文主任、なお、県庁訪問に際しましては篠田裕景議会議員に大変お世話になりました。



熊本市、県関係への報告

その他の報告、意見

- ①熊本市が現在進めている「第6次総合計画基本構想」の中に盛り込む「歴史的文化財の継承と活用について」、川尻文化を考える会として提案をしました。(本紙裏面に具体的な内容を掲載)
- ②今後、川尻文化を考える会の活動を広く紹介していくために「ホームページ」を有効的に活用して行きたい。
- ③川尻に現存する民俗文化財が流失しているので、流失を早く食い止めて歴史博物館(仮称)に収蔵して欲しい。
- ④南部市民の会が再構成したので、新生南部市民の会とどんな連携が図れるのか検討すべき等の意見がありました。

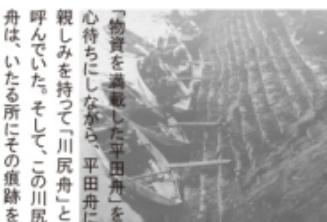
えびすやき



水の駅 川舟考
陸上交通を中心と考えれば、川は障害のひとつに過ぎないだろう。しかし、昔は全く違っていた。川は水路であり、自然が与えてくれた水の道であった。

明治初期の北海道開拓史を紐解けば一目瞭然である。人々は海から川を通して物資を運び、次々に新天地を開拓していく。開拓したそれらの土地と土地が道路で繋がったのは、ずっと後のことである。

世界史的につて、海の男たちがクジラを追つて大海原を駆け巡ったとき、世界の七つの海がひとつに結ばれた。黒船による日本の開国は、そのひとつある結果に他ならない。



「物資を満載した平田舟」を心待ちにしながら、平田舟に親しみを持つて「川尻舟」と呼んでいた。そして、この川尻

舟は、いたる所にその痕跡を残している。小川が流れている熊本市東部の健軍神社近くにもその言い伝えが残っており、「川尻舟だけではなく遠く中國のジャノンクの足跡さえ残っている。同じく熊本市東部を流れる秋津川の畔(秋津町)には、三官屋敷という地名がある。三官とは中国官吏の登龍門「科舉」に合格した人が、貿易の実務担当者として日本に派遣され、その仕事に従事していたことの名残である。

さて、世の中には賃があれば必ず賃がある。川尻の繁栄の陰には、水害の復興や水路の開拓などさまざまな住民たちの苦労があつたのである。それらの陰を乗り越えた「先人たちの労苦」を中心刻み「町全体がひとつ心で再生への道を歩み続けたい」と念じている老人のひと言結果に他ならない。

白川、緑川、加勢川の3つの河川は、かつて川尻で合流して九州を代表する大河となり、有明海へと注いでいた。

①藩政時代の加勢川沿いに設けられ、年貢米等の集積、積出しに利用された御蔵前船着場(13段、1,500メートルの石段)の修復工事(200万円→2009年、総工費1億円)が今年3月に完工するのに合せて、年貢米を収納したうつ御蔵(1980年築、200坪蔵・60坪蔵)の整備保

先祖は海を伝い交易、また川を利用しても上流域の人々と物資の交換を続けて町に繁栄をもたらした下流域の人たちは、1日に幾艘もやって来る

残している。小川が流れている熊本市東部の健軍神社近くにもその言い伝えが残っており、「川尻舟だけではなく遠く中國のジャノンクの足跡さえ残っている。同じく熊本市東部を流れる秋津川の畔(秋津町)には、三官屋敷という地名がある。三官とは中国官吏の登龍門「科舉」に合格した人が、貿易の実務担当者として日本に派遣され、その仕事に従事していたことの名残である。

1. 肥後細川藩の海の玄関口として栄えた熊本市川尻町には、水運を利用して毎年20万俵の年貢米が集積、積出しを行った貴重な遺跡が多く現存しています。また、川尻は港町、軍港の顔とは別に町屋作りが数多く残る宿場町・伝統工芸の側面を残す歴史の町です。私たちは、この貴重な史跡、文化を本市のマスターの趣旨に沿って、次世代に継承して行くために次の事項を提案させて頂きます。
- ②御蔵前船着場と並び加勢川のもう一つの遺跡、お船手渡しの整備・修復を行い、「川の街跡の町」の顔にしたい。
- ③また川尻には、東京日比谷、大阪中之島と並び全国でも3か所と言われる公会堂が健在。地区住民が利用していく。老朽化したの公会堂の修復を図り、前記の御蔵、御蔵前船着場と川尻公会堂を本市のかけがえのない歴史的文化遺産として継承することとともに、町活性化の起爆剤としていきたい。

熊本市第6次総合計画基本構想(案)の項目④ 第5章第3節歴史的文化遺産の継承と活用

意見・提案等の内容

西輝喜



存・活用を図りたい。



「御蔵前船着場」川尻奉行上田休 説明板が新しくなりました

老朽化して、文面がはつきり見えなかつた御蔵前船着場入口の「御蔵前船着場」と川尻公会堂前の「川尻奉行上田休」の二つの説明板が新しくなりました。これは熊本市觀光政策課が昨年から改修を進めていたもので、一月二十日業者の方がクレーンを使って一日がかりで新説明板を設置しました。

川尻文化を考える会便り

発行人代表=西 鮎喜
毎月 1 回発行



富合中と川尻小の生徒、児童らが御蔵を見学



御蔵見学に訪れたのは、富合中学校の伝統文化活動部(郷土史)の生徒十八人と川尻小学校六年生の児童六十九人です。二月十日午後、先生たちの引率で御蔵を訪れた両校の生徒は、川尻文化を考える会の西代表の説明を受けて後、早速に「一百坪蔵の中に入りました。電気設備の

ない真っ暗な御蔵の中で、子供たちは先人が残した大きな遺産に驚いていました。見学に参加した川尻小六年生、溝上美希さんは「初めて御蔵を見て、思った以上に大きくてすごいなあとと思いました。大変貴重なものが見れて大変良かったです」と話していました。

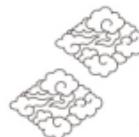
え び ぶ や き



「坂の上の雲」

指折り繰れば、今から三十年ほど前、作家の司馬遼太郎氏の「坂の上の雲」という題名の本が出版されました。この本の紹介が坂の上にぽつりと雲が浮かんでいます。その雲を見つめて人々は一步一步坂を登って行く、そこで題名を坂の上の雲としたと確かこんな文でした。私はこの題名に魅せられて、書店に足を向けました。内容は、明治黎明期の青春群像が青空に湧き立つ白雲のよう爽やかに描かれており、私は深い感銘を受けたのを覚えています。では私たちの坂の上の雲とは…。

昨年八月十五日、川尻の伝統行事「精靈流し」に加え、十三日から十七日まで工芸会館で「水あかり展」が開かれました。入館者を幽心に残る催しでした。統いて



西輝喜

八月三十日には、新町橋近くの加勢川河川敷で「夜市」

が開催されました。川尻青

年協議会の若者たちが企画

したこの夜市には、千五百人

の人々が集い、食事やゲー

ムに興しました。これら地域

を活性化する行事が次々と

展開され、新しい風、新しい

息吹に心を動かされたのは

私だけでしょうか。

御蔵サミット開催を検討

「第六回代表協議会」

二月十日代表協議会が開

かれ、今後の川尻文化を考

える会の運営、事業計画等

が討議されました。そこで、

今月中に会の会則、規約等

の草案を取りまとめて三月の

代表協議会に提案すること

内外に広く募つて、協賛を頂き事業展開を強力に推進

する。また、代表協議会の

会議に南部地域歴史研究会

や青年協議会の方々にも出

席を求めていく等の方針が決まりました。

にし、来年度の事業としては、

旧池田藩(鳥取県)、旧庄内

藩・出羽鶴岡藩(山形県)

に現存する御蔵群を結んだ

「御蔵サミット」開催を検討

行政の指導を得ながら今後、開催時期、場所、テーマ、出席者、予算措置等を詰めていく。さうして、加勢川沿いに桜を植える事業については、

国土交通省緑川下流出張所と具体的な協議を行い、所と具体的な協議を行ひ、来年度実施を図ることになりました。

一方、会の運営方針については、会が発足して二年目に入る」ともあり、「川尻文化を考える会の事業に賛同される法人、個人を川尻町



市に「花火大会への支援を」を陳情



写真

上：西島副市長への陳情
右：谷口経済振興局長への陳情



8月15日の花火大会



川尻町の「精霊流し・花火大会」は、藩政時代からの伝統行事として、県内外に広く知られています。町民の誇りです。

（伝統行事として、熊本県内外に広く知られています。町民の誇りです。）

（伝統行事の中でも、花火大会について、これまで熊本市から毎年30万円の助成金を頂いていましたが、「この助成は平成二十年度で終了となっていました。

花火大会の存続にもかかる一助成金について、川尻校区の自治会連合会では二月二十七日、熊本市に「本市の伝統行事を存続していくため、今後も何らかの支援をお願いしたい」と陳情しました。陳情に

は、自治会連合会の荒金会長、精靈流し・花火大会実行委員会の重田事務局長、くまとどり芸会館の宅野館長、田邊市議会議員が出て、西島副市長、谷口経済振興局長に対し、「伝統行事を存続させるため、市の前向きな支援」をお願いしました。

議員が出て、西島副市長、谷口経済振興局長に対し、「伝統行事を存続させるため、市の前向きな支援」を

求めました。

代表者の協議会で、本会の会則が審議、承認され会則は四月一日から施行されましたが、決まりました。

三月十一日開かれた第七回代表者協議会で、本会の会則と告げました。

本会の会則、役員、

また、伝統行事の支援に関しては、地域の伝統、文化を活かしたまちづくりは重要なことであり、地域の懸念いや魅力を創出する事業を行う場合には、イベントや他の商店街のモデルとなるような事業を対象とした支援事業

川尻文化を考える会便り

【発行】
川尻文化を考える会事務局
毎月 1 回発行



熊本市議会でも質問

会則では、本会の目的を「川尻

の伝統と歴史を守るために、史跡の保存と活用を図り、水と緑と歴史のまち川尻に賜わいを取り戻すこと」と定めています。また、会員、協賛団体は本会の目的に賛同、協賛する熊本県内外の個人、団体と位置付けています。

完工後に、文化庁や県の現地調査を経て、船着場・御船手渡し・落葉が一体となった国指定史跡になるよう具体的な協議を行い、平成二十一年度中には指定申請をしたい」と告げました。

また、伝統行事の支援に関しては、地域の伝統、文化を活かしたまちづくりは重要なことであり、地域の懸念いや魅力を創出する事業を行う場合には、イベントや他の商店街のモデルとなるような事業を対象とした支援事業、助成制度等を活用して、地域経済の活性化を図つて欲しい」と告げました。

工芸会館バス停前に

「町内観光案内板」を新設

熊本市観光政策課では、川尻町を訪れた観光客や史跡散策の方々が一目で川尻町内の史跡・名勝が分かることによりこれまで、川尻の観光案内板設置の計画を進めてきましたが、「このほど、観光案内板」の製作が決まりました。

観光案内板は、「工芸会館前バス停の前に設置されますが、設置工事は今年度中の予定です。

え び ぶ や き



船の魅力その一
「天の鳥船(あまのとりぶね)」
という古代語があります。海
を住く船を天翔ける鳥に見
立てたのでしょう。船は人間
が造った水に浮かぶ道具にす
ぎませんが、古代人は天まで
駆け上りそうな想像に駆られ
たのでしょう。まさに魅力で
す。

天正十六(一五八八)年、
肥後の国に入国した加藤清正
は、関ヶ原合戦(一六〇〇)の
後に大型の貿易船を建造し
ました。この貿易船は長さが
二十間(三十六メートル)、船の
横五間(九メートル)、船の中
には十六畳もの座敷があり、
風呂まで用意してあつたと
いいます。積載量は二百八十
トンで、豊臣秀吉の日本丸に
匹敵する大型船でした。

この時代、ヨーロッパでは重商
主義の発展期で、スペインや
ポルトガルがアジアに勢力を



通じ、領内とされた小麦を
外國に売って、生糸や鉛、塩硝
を賣り、購入価格の倍ほどの
値段で国内に売りさばいてい



西輝喜

しかし、慶長十四(一六〇九)年、徳川幕府は五百石檣以上
の船は軍艦、荷船を問わず
建造、所有を禁じました。
もし禁じなければ西国の大名
たちが、船を結集して江戸
攻撃を企てたり、資金を蓄え
軍備拡張に走つたりするのを
恐れたのが、禁止した理由の
ようです。

清正は京都の貿易商人を
を通じ、領内とされた小麦を
外國に売って、生糸や鉛、塩硝
を賣り、購入価格の倍ほどの
値段で国内に売りさばいてい



伸び、日本では秀吉の天下
統一政権ができ、アジアでの
外交関係が生じ、いわば明治
維新後の黎明期に似た時代
でした。

幕府が開かれるごとに清正是徳川
家康から西洋、シャム、コウチ
ベトナムへの朱印状をもら
い、自ら貿易に乗り出しまし
た。

ます。これが文禄、慶長の出

なったのは確かです。

熊本市の総合計画基本構想に 本会の意見、要望を補足追加

熊本市が策定をすすめてい
る第6次総合計画基本構想
(案)の中の歴史的文化遺産
の継承と活用について、西代表
より「川尻の文化財の整備・
修復・保存・活用等」のつづ
り意見、提案をいたしました。
(会報第4号掲載・平成二十一
年一月二十日発行)

これに対し、熊本市は「ま
ど当該意見を踏まえて素案
を補足修正または追加する
との見解を発表しました。
熊本市が発表した見解は次の
とおり。

*要望の件は、平成十六年度
から、国土交通省・文化庁・
熊本県・地元と協力しながら
「船着場・御船手渡し・お墓」
について将来の国指定を目指
して整備を進めています。
今年度中には船着場部分の
整備が終了し、その後、申請
する予定です。池辺寺跡
と同様に計画期間内に特に力

「船着き場」の修復完了は夏



「観光案内板」

の修復工事は、七〇メートルの部分がすでに終了し、残りのJR橋りょう下七〇メートルの石段の積み直し等が行われてきました。国交省熊本河川

の修復工事は、七〇メートルの部分がすでに終了し、残りのJR橋りょう下七〇メートルの石段の積み直し等が行われてきました。国交省熊本河川

の修復工事は、七〇メートルの部分がすでに終了し、残りのJR橋りょう下七〇メートルの石段の積み直し等が行われてきました。国交省熊本河川

度から進めてきた加勢川右岸の護岸改修工事のうち、「御藏前船着き場の石段積み直し等の修復工事は、当初の完了予定の二〇〇八年度より遅れ、今年夏になることが明らかになりました。

船着き場(一四〇メートル)の修復工事は、七〇メートルの部分がすでに終了し、残りのJR橋りょう下七〇メートルの石段の積み直し等が行われてきました。国交省熊本河川

国道事務所では、工事は鉄橋の下で重機を使用するため慎重を期した、「造構の調査や作業に予想外の時間を要した」ため修復完了には後二、三ヶ月を要するとの見解を示しました。

「この船着き場の工事が完了しますと秋から「お船手渡し」の整備が行われる予定ですが、今年の夏からは待望の「加勢川の川下り」が運行できることになります。

「この船着き場の工事が完了しますと秋から「お船手渡し」の整備が行われる予定ですが、今年の夏からは待望の「加勢川の川下り」が運行できることになります。

川尻町を訪れた観光客や史跡散策の人々が「川尻の史跡等が良く分かれるようにな」と熊本市観光政策課が設置を進めていたものです。作業は今月十七日、くまもと工芸会館前バス停を降りた方がすぐ目につく場所に設置されました。

会議までに御藏サミット開催される会の代表委員会が開催され、新会則と代表委員会の年度の事業について討議されました。会議では、平成十六年度かたつては、御藏サミット開催に当たっては、行政の指導、地元の協力が不可欠であり、今後各方面へ協力を働き掛けたいことになりました。

なお、御藏サミット開催に当たっては、御藏の文化財保護と御藏の周知(川尻からの情報発信)、御藏を抱える全国各地との文化交流を目的に御藏サミットを開催する提案が出され承認されました。この中で、これまで現存する国内の御藏は3ヶ所と言われていたが、調査の結果、岩手、秋田、山形、鳥取、熊本の五県での存在が確認され、いすれも文化財の指定は受けいないことがわかりました。そして、今後の調査を含め「御藏サミット準備プロジェクト」(山西委員、福山委員ら五人)を設置、次回

川尻文化を考える会便り

〔発行〕
川尻文化を考える会事務局
毎月1回発行



御藏サミット開催へ



公会堂の

文化財指定を陳情へ

会議までに御藏サミット開催される会の代表委員会が開催され、新会則と代表委員会の年度の事業について討議されました。

会議では、平成十六年度かたつては、御藏サミット開催に当たっては、行政の指導、地元の協力が不可欠であり、今後各方面へ協力を働き掛けたいことになりました。

なお、御藏サミット開催に当たっては、御藏の文化財保護と御藏の周知(川尻からの情報発信)、御藏を抱える全国各地との文化交流を目的に御藏サミットを開催する提案が出され承認されました。この中で、これまで現存する国内の御藏は3ヶ所と言われていたが、調査の結果、岩手、秋田、山形、鳥取、熊本の五県での存在が確認され、いすれも文化財の指定は受けないことがわかりました。そして、今後の調査を含め「御藏サミット準備プロジェクト」(山西委員、福山委員ら五人)を設置、次回

♪ 船の魅力その一

え
び
ぶ
や
き



再び江戸に出た坂本竜馬は赤坂の勝海舟邸を訪ねます。血氣に燃る竜馬は、成り行きでは勝を斬る覚悟でした。

幕府の大船の怖れは的中しました。関ヶ原の戦いから二百五十三年後の嘉永六年(一八五三)六月、ベリー提督に率いられたアメリカ東洋艦隊の黒い大船四隻が突如江戸湾に進入してきたのです。途方もない大きい黒船の到来に國中は騒然となり、幕府はその弱さを世間に露呈し、幕府崩壊の第一歩となりました。

この頃、志ある人々は「尊王攘夷」だ。佐幕開港だ、公武合体だと國の行く末を諭し、さらにその主張を行動に移すなど國内は轟然たる奔騰気氛に包まれ行きました。

さて、土佐高知藩の郷士坂本竜馬は十八歳の嘉永六年(一八五三)、江戸に出て千葉道場で剣術の修行に励み、仲間と時節について研鑽を積んだ後、土佐に帰国して土佐勤王党に参加しました。翌年脱着して

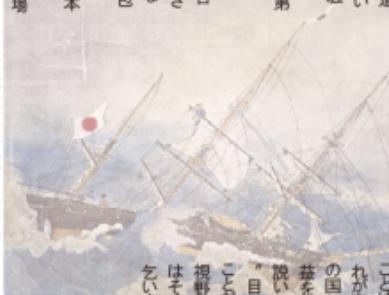
その年、文久二年(一八六二)に幕府の軍艦奉行となぞらいた勝安房守は、そんな竜馬を見ると、ゆったりした表情に時折



坂本竜馬



勝安房守(勝海舟)



西輝喜

遠米使節の隨行艦として、オランダから購入した威臨丸という蒸気軍艦に乗り組み、太平洋を機断した時の感動、そして

知った世界の広さと文化」を語り、日本人が今急いでなすべきことは航海術の習得であり、これが海軍力の強化となり、日本の国益につながると国防と国益を兼ねた開港論議を詳説と

说了。

「目から鱗が落ちる」とほのこねた。 「攘夷」を唱ぶ己の揚げ狹さが恥ずかしく、竜馬はその場で勝安房守に入門を乞いました。

坂本竜馬は赤坂の勝海舟邸を訪ねます。血氣に燃る竜馬は、成り行きでは勝を斬る覚悟でした。

坂本竜馬は赤坂の勝海舟邸を訪ねます。血氣に燃る竜馬は、成り行きでは勝を斬る覚悟でした。

坂本竜馬は赤坂の勝海舟邸を訪ねます。血

氣に燃る竜馬は、成り行きでは

桜花爛漫の下すもう大会

三月二十九日、公会堂裏手にある川尻公園ですもう大会

と女子の子も参加、熊農高相撲部員の指導を受けて早速取組が開始された。元児童約四十人

が参加、熱のこもった取り組みが繰り広げられました。

このすもう大会は、川尻

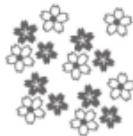
青年協議会が県立熊農高の

相撲部の協力を得て行つたもので、贈りて春だ!花見だ!

川尻わつしょい!

大会には男の子に負けないぞ

と女の方も参加、熊農高相撲部員の指導を受けて早速取組が開始された。元児童約四十人たちの熱戦に校敷席に陣取つた人たちから大きな声援が飛んでいました。 桜の花が乱舞する公園には、校区婦人会と愛育会、青年協議会が焼きそばやカレー、特製チヤンコ鍋を提供、大会に花を添えていました。



川尻文化を考える会便り

【発行】
川尻文化を考える会事務局
毎月1回発行



川尻の御蔵



川尻の御蔵

川尻文化を考える会の第三回代委員会が六月二十五日開催を決めた後全国に現存する御蔵の調査結果が報告されました。報告によると

そして明治初期に建てられた山形県酒田市の山居倉庫十二棟が現存しています。委員会では「川尻の御蔵、御蔵前船着き場(お船手渡し)」を国指定の文化財にするのが急務との観点から、現在脚光を浴びている酒田の山居倉庫は藩蔵ではないので御蔵サミットの対象から除外することになりました。

御蔵サミット来春開催へ

専門委員会発足

(1) 盛岡藩の御蔵
土蔵式に平屋建て、焼瓦葺切妻、外壁は白漆喰塗り、窓は外開きの土壁式防火戸。一八五六年(安政三月)の築。個人所有の御蔵市が購入、現在は藩政時代からの生活用具約千点を展示した歴史資料館となつている。



(2) 川尻の御蔵
一六八〇年(延宝八)岩手郡盛岡川瀬の年貢米収納庫として築。藩政時代には米蔵、中蔵、外蔵にそれぞれ三棟、合計九棟があり、収納された三万石。個人所有の御蔵市が購入、五万俵は水路を利用して熊本御厩場の東蔵へ送られていた。現在は外城蔵の二百疋蔵と六十坪蔵(二棟とも個人所有)を残すのみとなっている。

(3) 岩手の御蔵
一六八〇年(延宝八)岩手郡盛岡川瀬の年貢米収納庫として築。藩政時代には米蔵、中蔵、外蔵にそれぞれ三棟、合計九棟があり、収納された三万石。個人所有の御蔵市が購入、五万俵は水路を利用して熊本御厩場の東蔵へ送られていた。現在は外城蔵の二百疋蔵と六十坪蔵(二棟とも個人所有)を残すのみとなっている。



(4) 宇土の藩蔵
宇土市馬之瀬町にあり御蔵市(藩蔵)と呼ばれる。個人所有。一八五七年(安政四年)御都代・手水堀庄屋が勤貢された藩蔵をかけての御作事で造られた。一八六年(文久元年に増築)。

② 池田藩の御蔵
藩津の藩蔵(はづのはんそう)と呼ばれ鳥取県指定文化財。藩政時代に一五棟の蔵があつたが現在は三棟(二棟は私有)、一棟は市所有を残すのみ。一六三五年(寛永十二年)頃の蔵。今年度中に個人所有分を町が購入予定。

資料

えびすのつぶやき・



「船の魅力 その二」

帯刀は長崎に彼らを連れて行き、長崎の豪商、小曾根家

当代隨一の国際通、勝海舟の援助を得て亀山社中を結成の「もの」見方に接した坂本竜馬は、その説に心酔し、己のの誕生でした。

道が開けた感動に駆られていました。

童馬の率直な人柄を愛した勝は、新しく聞いた神戸海軍操練所の塾頭を任せます。

ところが元治(げんじ)元年(一八六四)の池田屋事件と禁門の変(蛤御門の変)で、操練所の塾生が加わっていたことが発覚し、勝は幕府に咎められ失脚、操練所も閉鎖されました。

この時、行き場を失った童馬ら塾生三十名を勝が託した相手が薩摩藩の若き家老、小松

帶刀(そわき)でした。元治元年の暮れ、大坂薩摩藩邸で

帯刀と童馬の運命的な出会いとなつたのです。共に「無私の精神」で新しい日本の実現に奔走しました。主義主張が異なり、大猿した童馬と童馬。これが回天の大事業の切っ掛けでした。

帯刀は長崎に彼らを連れて行き、長崎の豪商、小曾根家

の援助を得て亀山社中を結成します。後の海援隊(貿易商社)

八六五(第二回長州征伐の年)薩摩から長州への武器転売と長州から薩摩の米の売買といふ水面下での取引を成功させると一気に両藩の連携を説き始めました。勿論、長州征伐は腰砕けに終わりました。

翌、慶応二年一月下旬、童馬立会いの下、京都の小松帯刀の私邸に長州藩から桂小五郎、薩摩藩から大久保利通、西郷隆盛らが席に着き、奇跡的な薩長同盟の締結となつたのです。



幕末の板島(『羅英粧争図』より)

対峙できる。それどころか討幕も夢ではない。若い二人が考えたのは、「あ連帯策」でした。

薩摩は動いた。慶応元年(一月、三十六歳の若さで他界しました。とともに日本のために

痛恨の極みです。

さて、「えひす」は七福神の一つで生業守護の福神です。長い間の鎮國で行き詰っている我が国の政治、経済の仕組み

を改め、船を駆使して海外との交易を回り、国を富ます想

う構想を練つて、勝海舟は、明治三年(一八七〇)七月、三十六歳の若さで他界しました。とともに日本のために

地元の研究者や住民と一緒に、それで、「えひす」はシンボルマークは、十日(土)が川尻町内の史跡等の見学会、十一日(日)に川尻公会堂に熊本市長、日本地名研究所谷川所長らが出席して、前熊本地名研究会長、鈴木喬氏、民族学者東靖善氏の講演や川尻再興への提言と題したパネルディスカッションなどが予定されおり、約三百人の参加が予定されています。



坂本竜馬

勝海舟

西輝喜

最後の将軍慶喜は大政奉還を表明し、童馬、帯刀が共に夢みた新生日本へ一步を踏み出しましたが、その一ヶ月後の十一月十五日夜、童馬は京都の近江屋の二階で反対派に襲われ暗殺されます。享年三十三



熊本地名シンポジウム川尻 を今秋開催

地元の人たちも知らない港町川尻の歴史の真相を読み解き、地域の活性化に貢献しようと、熊本地名研究会、日本地名研究所、熊本南部地区歴史研究会、川尻文化を考える会等が開催するものです。地元の研究者や住民と一緒に、それで、「えひす」はシンボルマークは、十日(土)が川尻町内の史跡等の見学会、十一日(日)に川尻公会堂に熊本市長、日本地名研究所谷川所長らが出席して、前熊本地名研究会長、鈴木喬氏、民族学者東靖善氏の講演や川尻再興への提言と題したパネルディスカッションなどが予定されおり、約三百人の参加が予定されています。

御蔵サミット来年五月開催



川尻文化を考える会の第4回代表委員会が七月二十四日、第五回が八月二十六日に開かれ、御蔵の文化財的価値の検証と発信アーティストに開催予定の御蔵サミットに関するタイムスケジュールと予算案、主催・後援等について協議がなされました。討議の結果、御蔵サミットは、平成二十二年五月十五日(土)・十六日(日)に開催、一日目は川尻の史跡見学、二日目には川尻公会堂で実施する案が了承されました。

御蔵サミットは、平成二十二年五月十五日(土)・十六日(日)に開催、一日目は川尻の史跡見学、二日目には川尻公会堂で実施する案が了承されました。

御蔵サミットを開催するに当たり、事前にサミットの周知を国るために、来年春に実施予定の川尻民間の期間中に「全国に現存する御蔵の写真展」を開くことが決まりました。

御蔵サミットの前に 写真展

また、予算案については自治体に協力を仰ぎながら経費を極力抑えたサミットを目指すことをとし、了承されました。

加勢川岸に サクラ並木を

御蔵前船着き場の改修工事が終了するに当たり、加勢川の遊歩道の上、下流に桜や松などを植えて、住民、観光客の憩いの場所作りをしたい」と西会長らが昨年から国土交通省・県川下流出張所と協議を続けてきた結果、「あまど加勢川右岸の新町橋と加勢川橋の間に「サクラの苗」を植樹することになりました。

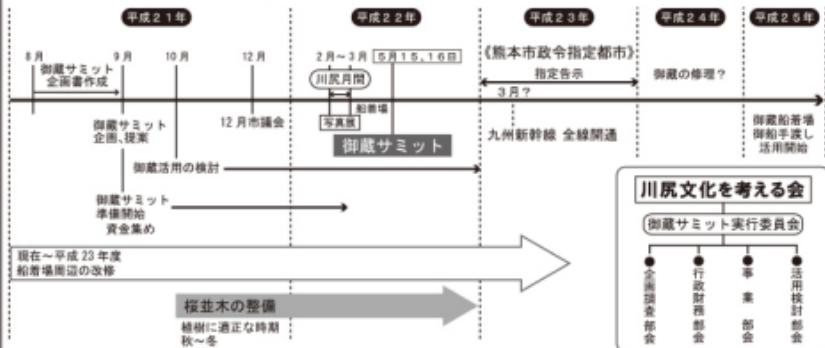
サクラの苗の植え付けは根付きの良い秋が最適とされていました。今秋から順次実施されます。



〔発行〕
川尻文化を考える会事務局
毎月1回発行



御蔵サミットの位置付け



△先進的大名 その一

島津齊彬

黒船に驚いた日本中國が「攘夷」「開国だ」と騒いでいた時、そんな単純な議論に感わされるとなく、藩の近代化を進め、外國に追いつくことに専心した大名が九州に二人いた。薩摩藩が二十八代藩主島津齊彬(なりあきら)と肥前佐賀十代藩主鍋島直正(なおまさち)である。

齊彬は部屋住みの頃から洋学につよい関心があり、歐米並みの軍事力や新しい産業技術を興そうと考えていた。

その当時、長崎から流れ来る情報に、イギリスと薩摩清との間で起きた「ペニン半島戦争」それにより受けた不平等条約・重税による民衆の惨状等を聞き、齊彬が強い危機意識を持って取り組んだのが海防問題である。



歐米並みの軍艦、大砲を製造する施設として城内に精錬所、礮御殿に反射炉や溶鉱炉などを持つ近代的工場集成館を設計するなど着々と準備を進めた。

さらに齊彬は薩摩藩が率先して近代化を成し遂げ日本の四年(一八五二)四十三歳で政治を改革することを志して、薩摩、安政五年の他界までいたのである。洋式紡績工場の開設など明治政府の「殖産興業」の先駆けをなしている。

齊彬は倒幕論者ではない。朝廷・幕府や薩摩が力を合わせて、(公武合体)新しい国造りを行ふことを理想としていたのである。目指すところは日本

の近代化であった。

ところで、各國とも船にはその國の旗を掲げている。國際的慣行により掲揚船はその國の領土と同じだと言う。齊彬は、早速我が國の旗印は、日本へ出る國に相応しい太陽をかたつて日章旗をさし幕府に意見書をだして解禁願いを、

特にペリー来航後は軍艦には軍艦で対抗するしかない」と、幕府に大船建造の解禁願いを出し、蒸気機関を持たない東洋諸国の二つの舞にならぬよう、先進国と対等の交易と外交を強く推し進めたのである。

しかし、安政五年(一八五八)志半ばにして世を去った。鹿児島市の照国(てるぐに)たちに手始めに作らせている。

えびすのつぶやき



西輝喜



館
フックス・096-3500-
6562

熊本地名シンボジウム
いの川尻

熊本地名研究会、日本地名研究所、熊本市南部地域歴史研究会などが「古来から火の国有数の繁榮地として中國・朝鮮半島まで知れ渡っていた川尻川の歴史遺産と地名にスポットを当て、開催するシン

ボジウム」が十月十日(土)、十一日(日)に開催されますが、そのスケジュールが決まりました。「熊本地名シンボジウム」の詳しい内容は、熊本市の市政だよりのHPの「くまべーじ」に紹介されています。(2日間の参加費が四千五百円となりますが、四千円です)また、くまもと工芸会館に案内のパンフレットが置いてあります。なお、申し込みは「ガキかファクスでくまもと工芸会館までお願いします。

御蔵サミット - 熊本市教育委員会が共催 -



来年五月十五、十六日
開催予定の「御蔵サミット」に
ついて、九月十七日に田邊
正信市議の案内を得て、
西郷善吾氏、山西大介監事、
重田健蔵、宇野謙二朗委員
が熊本市教育委員会に御蔵
サミット企画説明と御蔵、
御船前船着き場・御船手渡

西郷善吾氏、山西大介監事、
重田健蔵、宇野謙二朗委員
が熊本市教育委員会に御蔵
サミット企画説明と御蔵、
御船前船着き場・御船手渡

しの国指定文化財の早急
実現を陳情しました。
応対に当たった小牧幸治
教育長、河田田出男文化財
課長は、御蔵サミットの開
催は、市が開催してもおか
しくないものであり、市教育
委員会も全面的に協力
することを明言し、サミット
共催の承諾を頂きました。

そして、今後
の方針として
の文化を考える
会の議論に
参加する件に
よる。②御蔵
サミットの助成
金などが協議
されました。

長補佐が出席
する。②御蔵
サミットの助成
財課の宮崎課
文化を考
る会の議論に
参加する件に
よる。②御蔵
サミットの助成
金などが協議
されました。



鳥取

いよいよ「川尻文化を考える
会」の事業が始動しました。
「御蔵等の文化財価値を検証
し、後世に貴重な文化財を残
すとともに川尻に應わい取り
戻そう」と産声上げた川尻文
化を考える会は準備会設立
から一年半が経ちました。
毎月一回から二回の会議を開
いて会の目的のひとつである
「御蔵を中心とした国指定文化
財申請」にも道が開けました。
先人たちの汗の結晶である、
貴重な歴史を川尻、熊本市、
日本の財産として守るのが私
たちの責務と考えて、御蔵サ
ミット開催を企画しました。
御蔵サミットの総事業費は二
百万円を見込んでいます。現
在、行政・財務部会(重田部
会長)の方々が会費・協賛金
のお願いに伺っています。
当会の設立趣旨を理解の
上、各位のご協力をお願い
いたします。なお会費は一口
三千円、協賛金は一口一万元
となっていますが、おひとり様
何口でも結構です。なにとぞ
よろしくお願いいたします。

川尻文化を考える会便り

【発行】
川尻文化を考える会事務局
毎月1回発行
発行責任者 西 郷喜



今秋盛岡、鳥取に 視察、取材

第六回代議員会が九月
二十五日、くまもと工芸会
館で開かれ西会長、山西監
事から御蔵サミット開催に
当たり熊本市教育委員会、

申請を来春に 御蔵などの 申請を来春に



御蔵、御船手渡し一帯を国指定
御船手渡し・御船前船着き場、
御蔵、鳥取県湯梨浜町の
文化を考
る会の議論に
参加する件に
よる。②御蔵
サミットの助成
財課の宮崎課
文化を考
る会の議論に
参加する件に
よる。②御蔵
サミットの助成
金などが協議
されました。

変化し、文化財の方針、予算
等が現在不透明である。
また、申請に不可欠な「工
事請の宮崎課
文化を考
る会の議論に
参加する件に
よる。②御蔵
サミットの助成
金などが協議
されました。

いたしま
す。な
お会費は
一口一
万元と
なって
いますが、
おひとり様
何口でも
結構です。
なにとぞ
よろしく
お願
いいた
します。

会費、協賛金 ご協力のお願い

いよいよ「川尻文化を考える
会」の事業が始動しました。
「御蔵等の文化財価値を検証
し、後世に貴重な文化財を残
すとともに川尻に應わい取り
戻そう」と産声上げた川尻文
化を考える会は準備会設立
から一年半が経ちました。
毎月一回から二回の会議を開
いて会の目的のひとつである
「御蔵を中心とした国指定文化
財申請」にも道が開けました。
先人たちの汗の結晶である、
貴重な歴史を川尻、熊本市、
日本の財産として守るのが私
たちの責務と考えて、御蔵サ
ミット開催を企画しました。
御蔵サミットの総事業費は二
百万円を見込んでいます。現
在、行政・財務部会(重田部
会長)の方々が会費・協賛金
のお願いに伺っています。
当会の設立趣旨を理解の
上、各位のご協力をお願い
いたします。なお会費は一口
三千円、協賛金は一口一万元
となっていますが、おひとり様
何口でも結構です。なにとぞ
よろしくお願
いいた
します。

えびすのつぶやき

「先進的大名 その二」



*川尻に宿泊した島津斉彬

斎彬の没後、藩政の実権を握ったのは国父久光斎彬の弟、蕃主忠義の父)でした。久光は「藩兵を率いて上京し、勅命を得て幕政改革を断行する」という兄斎彬が果たせなかたシリオオを自ら実行しようとしたのです。

文久2年(一八六二)三月十六日、兵一千人を率いた久光は上洛の途につく。一行には野戦砲四門、小銃百丁を荷造りして、普通の荷物に見せかけて運んでいます。

同行した大久保利通の日記。(注)*印は注釈。()は時代の時刻

三月二十二日 午後 *印は注釈。()は時代の時刻

今日六ツ半(六時)八代 *八代出発 二里

種子山御小休

小川 御休

一里拾丁

一里

古保里御立場 *休息

川尻 御治

右之通諸所御休二日入前御着

之事候得共供候へ御達可被給申入不達候事

*右の通り諸所お休みにて日の入る前にお着き、今晚五ツ(八時)過ぎ、肥後瀧河上彦賣(けんさい)、青木がまき、是非会いたいとの事あつたが、久光は供頭へ会うよう伝え会わなかつた。宿泊所は現在の瑞應酒造内で、小路町に本陣跡の櫻柱がある。その櫻柱の南東一帯が当時の待賓館で、藩主やその一族の宿泊場所でした。記録はありませんが、一千人の団体、小路町の混雑ぶりが目に浮かんできます。訪ねた肥後藩の

河上彦賣は、通称人切り彦賣と呼ばれる血気盛んな勤王志士で、同志の御船手出身の青木保弘とともに「討幕のため島津

久光が出手する」と勘違いして、同行の懇願に来たのですが、勿論久光が許可する筈はない。供頭は拒絶している。他の藩でも同様なことがあったようです。

三月三日 噠

御目覚七ツ半(四時)

*松井を使わないより朝は薄明かりに出発

川尻 六ツ半(六時)御立 タオは早く宿に着るのが慣例した。

一里半余 熊本入り御小休 *迎町の薩摩屋敷

御馬下村 御立場

*角小屋

木之葉御小休

西 輝喜

御蔵前の船着き場 改修工事で報告会

国土交通省が平成十六年度から進めている加勢川改修工事の内、御蔵前の船着き場(総延長・百四十メートル)部分の終了を記念して、九月三十日現地で報告研修会が行われました。

小雨の中、御蔵前の船着き場で開かれた報告会には、国土交通省関係者をはじめ川尻校区の自治会会長ら十人が出席。国交省熊本河川国道事務所の西会長が中国の交易や川尻から川を利用して健軍、御船などに川尻船が行き来した歴史を講演して、御蔵前の船着き場の改修工況をしました。翌年、国土交通省では今後、加勢川左岸の改修工事を行う予定です。



喜安所長 滾内は

御蔵サミット 盛岡市、湯梨浜町が参加



川尻文化を考える会の
第七回代表委員会が
十月二十七日開かれ、来年
五月開催予定の「全国御
蔵サミット」に盛岡市教育
委員会、鳥取県湯梨浜町
教育委員会が参加したい
との意思表示がありました。



※橋本はしげ藩と呼ばれ
東北指定の文化財である(鳥取)

北上川

盛岡藩の御蔵



※蔵は歴史資料館となつてない
川尻文化を考える会事務局

(宮城)

川尻文化を考える会便り

【発行】
川尻文化を考える会事務局
毎月1回発行
発行責任者 西 郁喜

全国の御蔵写真展を開催

で開催することが報告、
了承されました。

盛岡市と湯梨浜町を訪
問した山西委員らは全国
御蔵サミットで使用する
両地に現存する御蔵のV
TR撮影とスチール写真
(デジタルカメラ)撮影を
しました。今後、川尻と
宇土市にある御蔵の写真
イベントとなるこの「全国
の御蔵写真展」は撮影し
た三百枚余りの中から選
ばれそれを一枚ずつを展示す
定です。なお、展示会は
くまもと工芸会館2階の
ロビーを予定しています。

月から始まる川尻月間

と湯梨浜町を先月(十月
下旬)訪問応対に当たう
たそれぞれの教育委員会
関係者は「前向きに対処
したい」と御蔵サミットに
参加したいとの意思表示。

今後、調査部会で両教育
委員会関係者と打ち合わ
せを重ねてサミット開催に
万全を期したいと報告され
ました。

ヒマラヤザクラを植樹 十一月に

川尻文化を考える会が国
土交通省綠川下流支張所
(江口所長)と協議して進め
ている加勢川河川敷の植栽
は、第一弾としてヒマラヤザ
クラを植樹することになりました。
これは国交省綠川
下流出張所が東京ヒマラヤ
ザクラの苗木を手配、十二
月十一日の植樹が決まった
ものです。ヒマラヤザクラは
その名通り原産地はチベッ
ト、ネバールにまたがるヒマ
ラヤ地方で、秋から初冬に
かけて花を咲かせます。花は
ピンクとホワイトの二種類が
あり、新町橋上流右岸には
この二種類の苗木を植樹予
定です。川尻文化を考える
会では加勢川沿いを、秋の桜
の名所にして行きたいとし
ています。



「先進的大名 その三」

鍋島直正(閑叟)

幕末、佐賀藩ほど近代化された藩はなかった。軍隊の制度も兵器もほとんど西欧の一派流國並みだったという。鉄砲と言えば火縄銃のことだと思われていた頃、佐賀の銃器工場では雷管式のゲーベル銃を製造していた。後進藩が装備は洋式銃」と氣付か始めた頃、佐賀藩はその統制を他藩に見つ、当時世界で最も新鋭な後装式の單発銃を買入れていた。

鍋島閑叟は「葉隠」という独特的の哲学を持った佐賀藩の士族だが、そういう観念よりもむしろ近代工業を信じ、藩国家をヨーロッペの一流国並みの軍事国家に仕立て行く以外は、何も考えていないかった。

嘉永二年(一八四九)日本最初の製鉄所を造り、洋式銃器の製造を始め、安政年間に造船産業を興して国産の蒸気軍艦製造に乗り出している。これらの産業開発のために藩の秀才を選抜して英語、数学、物理、機械学を学ばせ、極端な勉強を強いた。閑叟は秀才たちに「勉学は戦闘と戦え」と訓示した。

えびすのつぶやき



三重津海軍所之図
(財団法人 鍋島報效会蔵より)



鍋島直正

筑後川の河口にある三重津の藩海軍所港内には、敵重な入港禁止がしかれる。そこに改良されたアームストロング砲が横たわる。そこで改修されたアームストロング砲が切られ役割を果たしたことを思えば、どこかに「葉隠精神」に通じるものを感じる。



西輝喜

灰燼に帰す。佐賀藩は本邦台に陣をとり、アームストロング砲を加賀屋敷に据えた。

五月十五日、上野へ進む官

のために藩の秀才を選抜して英語、数学、物理、機械学を学ばせ、極端な勉強を強いた。閑叟は秀才たちに「勉学は戦闘と戦え」と訓示した。

ために藩の秀才を選抜して英語、数学、物理、機械学を

御蔵の運用を検討する部会を発足

御蔵の利用、活用法を用意を取りまとめる必要があると判断し、早急に「御蔵の運用部会」を発足させましたがが決まりました。今後、この部会で二つの会議の意見として御蔵の利

用を検討する部会を発足。十一月二十五日開かれた第八回代表委員会で決議されたもので、熊本市教育委員会から「当初十二月に予定されていた川尻の御蔵、御蔵前の船着き場等を国の史跡指定に申請するための文化庁の現地調査が来年一月に順延になつた」とが報告されました。

史跡指定に申請した後、続いて、御蔵等を国の史跡指定に申請するための文化庁の

ヒマラヤザクラの植樹が
国土交通省緑川下流出張所(江口所長)と協議を重ね進めていた加勢川河川敷の植栽の第一弾として



加勢川橋下流右岸



搬入されたヒマラヤザクラ



ヒマラヤザクラ



ヒマラヤザクラ
来秋にも開花か

協議していきます。ただまどめた御蔵の利用案がそのまま国で認められるかどうかは分からないと

のことです。

十二月十一日に行われました。植樹は加勢川橋下流右岸の堤防外側の緑地帯で行われ、川尻文化を考える会の西会長、山西監事、「まもと工芸会館」所長の見守る中、上りическで運び込まれたヒマラヤザクラの木(高さ4、5メートル)七本が重機を使って次々と植えられていきました。

十二月十一日に行われました。植樹は加勢川橋下流右岸の堤防外側の緑地帯で行われ、川尻文化を考える会の西会長、山西監事、「まもと工芸会館」所長の見守る中、上り

【発行】
川尻文化を考える会事務局
毎月1回発行
発行責任者 西 郁喜



植栽作業

今回植えられたヒマラヤザクラは熊本市河内町野出の有限会社金峰建設(西村社長)の寄贈で、いずれもヒンクの花を咲かせるということです。

会では関係者の協力を得て、周辺の下草刈りなどをいますが、早ければ

来年十一月頃には淡いピンクの花を付けたヒマラヤザクラを見ることができそうです。なお、このヒマラヤザクラを植樹した堤防は来年、護岸工事が計画されています。





川尻小学校

↓ 県下に誇れる
川尻小学校 ↓

その一

一昨年、東京の知人から
「落合東郭の校訓塔は、ま
だあるだろうか」との問い合わせに、まさかと驚いた。
落合東郭は有名な大正、昭和初期の漢詩人だったか
らである。



校訓塔

えびすのつぶやき



(現・出水小校長)に問い合わせた。手に負えない学

校側は川尻青年協議会
(福山龍太郎会長)の協力を
得て、萬かずらの除去を
なされた。

その心を汲み、郷土の偉人に
揮毫を依頼された当時の
先生方に心から敬意を抱
いた。

上での川尻小の位置が標さ
れ、学習環境の整った県下

に誇れる小学校である。
ちなみに現在の校訓は現代
的な自主・礼儀・奉仕の
三つで、児童や保護者、地域
の人たちにすぐ目に付くよ
う、校門正面の二階廊下に
大きく掲げられている。



碑面

塔は全容を現した。大き
な石柱塔には健康、礼讓、
勤労、協和、克己の五つの
標語を記し、下段に「進学
二当り東郭先生二書ヲ乞ヒ
校訓塔ヲ建立シ、実践ヲ
感謝して、記念に校訓塔を
寄贈したのである。私はその
方々の純粋な謝恩と学校愛
の人が母校の優れた調育に
感動したのである。さうい

落合東郭(東郭は号)は
慶応二年(一八六六年)託麻
郡大江村(現熊本県大江)に生まれた。東京帝国大
学(現東京大学)卒業後、旧制

七高(現鹿児島大学)の教授を
経て宮内省に入り、大正天皇
の侍従天皇を補佐する側
近)を務めた人である。なお
明治天皇の侍講(天皇や
皇太子に講義する役)を務
め、教育勅語の起草、発布



標石

に当たった元田永孚の外孫
に当たる方である。

また、この塔の横に標石が
あり、經緯(子午線)は東經
一三〇度四〇分。緯線は
北緯三二度四五分と地球

TKR(テレビ熊本)が制作、
十二月二十六日(土)の午前
十時五十五分から三十分
に放送されます。番組は
番組として放送されますが、
番組では川尻の歴史・文化
から河尻神宮の秋の大祭、
夏だ!夜市だ!川尻わっ
しょい・精靈流し・路あかり、
かわしり熊本など盛沢山のイベ

ントが紹介されます。

川尻の元気を テレビ放送



十日会忘年会(十二月十二日)

川尻の御蔵を国史跡指定へ



これは、十二月二十一日開かれた川尻文化を考える会の代表委員会で熊本市教育委員会が明らかにしたもので、

会議に出席した熊本市教育委員会文化財課の宮崎課長補佐によりますと、平成十六年度から始まつた加勢川の船着き場周辺の整備が昨年終了(お船手渡し等の一部は現在工事中)、御蔵前船

に追加申請する予定です。

これは、十二月二十一日開かれた川尻文化を考える会の代表委員会で熊本市教育委員会が明らかにしたもので、

これを受けて熊本市では、一月二十日までに申請書の原案を取りまとめ、二十六日に川尻で関係者との最終打ち合わせを行なうというものです。

また、申請後のスケジュールとしては、四月に文化庁での審議会が行われなければ六、七月には指定

ければ六、七月には指定の告示が見込まれ、指定告示後に二つの御蔵の修理等が行われる予定です。なお、熊本では現在工事中の船着き場周辺の整備が終了次第、それらの地域も国史跡指定

に史跡指定の申請を進めてきた。そして、文化庁より一月中の申請を認めるとの連絡があった。

これを受けて熊本市では、一月二十日までに申請書の原案を取りまとめ、二十六日に川尻で関係者との最終打ち合わせを行なうというものです。

これは、十二月二十一日開かれた川尻文化を考える会の代表委員会で熊本市教育委員会文化財課の宮崎課長補佐によりますと、平成十六年度から始まつた加勢川の船着き場周辺の整備が昨年終了(お船手渡し等の一部は現在工事中)、御蔵前船



サミット会場となる川尻公会堂

川尻文化を考える会、共催・熊本市教育委員会が一堂に会しての「全国御蔵サミット」は、主催・川尻公会堂で開催され、今年五月十五日(土)、十六日(日)に開催。一日目は川尻の史跡見学、二日目は川尻公会堂でサミットを開催するところですが、

川尻文化を考える会、主催・熊本市教育委員会が一堂に会しての「全国御蔵サミット」は、主催・川尻公会堂で開催され、今年五月十五日(土)、十六日(日)に開催。一日目は川尻の史跡見学、二日目は川尻公会堂でサミットを開催するところですが、

川尻文化を考える会、主催・熊本市教育委員会が一堂に会しての「全国御蔵サミット」は、主催・川尻公会堂で開催され、今年五月十五日(土)、十六日(日)に開催。一日目は川尻の史跡見学、二日目は川尻公会堂でサミットを開催するところですが、

川尻文化を考える会、主催・熊本市教育委員会が一堂に会しての「全国御蔵サミット」は、主催・川尻公会堂で開催され、今年五月十五日(土)、十六日(日)に開催。一日目は川尻の史跡見学、二日目は川尻公会堂でサミットを開催するところですが、

川尻文化を考える会、主催・熊本市教育委員会が一堂に会しての「全国御蔵サミット」は、主催・川尻公会堂で開催され、今年五月十五日(土)、十六日(日)に開催。一日目は川尻の史跡見学、二日目は川尻公会堂でサミットを開催するところですが、

川尻文化を考える会、主催・熊本市教育委員会が一堂に会しての「全国御蔵サミット」は、主催・川尻公会堂で開催され、今年五月十五日(土)、十六日(日)に開催。一日目は川尻の史跡見学、二日目は川尻公会堂でサミットを開催するところですが、

川尻文化を考える会便り

【発行】
川尻文化を考える会事務局
毎月1回発行
発行責任者 西 駿喜



御蔵サミットへ始動

御蔵サミットへ始動

には有限会社P・D・A(企画)、有限会社オウド(運営・進行)、有限会社M・V・P(大道具、看板)、イラスト工房エリオット(小道具、美術)、株式会社放送技術販売(照明、PA)と川尻文化を考える会の山西監事らが出席しました。関係者は会場となる川尻公会堂を視察した後、サミットを成功させる方策と専門分野から見た問題点を提起しました。

運営担当者会議は、三月中旬までにあと三回位の会議を開き、サミット実施計画を取りまとめ、四月上旬には川尻文化を考える会での承認を得て、実務作業に入ります。

来月から始まる川尻月間の協賛イベントとして展示(「いろいろアート四つ切り」)するのです。これら四つの御蔵の撮影はすでに終わっており、現在展示会に向かってのキャブションづくりが行われています。

全国の御蔵写真展の準備も進む

この「全国の御蔵写真展」は、くまもと工芸会館の二階ロビーで川尻月間中の二月十日(水)から二月四日(水)までとなっていました。

岩手・盛岡市の御蔵

鳥取・湯梨浜町の御蔵



えびすのつぶやき



(川尻小学校)その二

川尻町撫存本營址
戦場から川尻を救った奉行

上田
休(やすみ)

上田久兵衛は天保元年(一八三〇)熊本城下の山崎天神小路現在の熊本放送本社付近)の上田源十郎(掾高二〇〇石)の嫡子として生まれた。九歳で藩校、時習館に入り四回も藩主から賞詞を授けるなど英才の誉れが高かつた。

元治元年(一八六四)七月、京都留守居役(肥後藩の代表)を命じられ、足高(役職手当)五百石を与えられた。

ペリー来航(一八五三)以来弱体化した幕府は、公武合体策で政権の安泰を図るなか、文久三年(一八六三)、幕府側の薩摩、桑名等の諸藩は尊王派の長州藩と改革派公卿らを京都から追放し、奉行に任じられた。足高は三百石だつた。長州藩は翌元治元年(一八六四)七月大舉して都に

入り、皇居を守護する薩摩、会津、桑名藩と戦端を開き、長州藩方は終に朝敵として追討された。「禁門の変」とか「始御門の変」とか呼ばれている。

上田久兵衛が京都留守居役として上洛したのは、その後の混沌とした八月一日であった。細川藩は幕府と親しく、公武合体派であつた。久兵衛は段伐とした雰囲気のなか、幕府と朝廷の斡旋に奔走した。久兵衛の誠意は双方から認められ、公武一和の実をあげ、細川藩の一家臣でありながら、朝廷・幕府から相談を受けた。久兵衛は段伐とした雰囲気のなか、幕府と朝廷の斡旋に奔走した。久兵衛の誠意は双方から認められ、公武一和の実をあげ、細川藩の一家臣でありながら、朝廷・幕府から相談を受けた。

正三年である。久兵衛は大雨になれば町奉行所(現在の古城神社からその奥一帯)に高張提灯を立てて町民の通報に備え、自らは川筋の警戒の任に当たるなど率先して町の安全に力を尽くした。また、時折町に出て貧しい身なりの人やお年寄りに会うと、手ぬぐいを配っていたとの逸話もあるほど、當時に任じられた。足高は川尻町奉行は二年餘の期間であったが、その采配に町

民は全幅の信頼を抱いた。着任すると「上田自身に不善があつたら遠慮なく申し出よ。他人の不善はみだりに口外するな。賞罰に不公平である」ことを訓示している。

平あれば申し出よ。良民に書をなすような悪人は決して許さない。老人、貧しい人々に心配りをしてくれば、

川尻の町はますます繁榮するのである」と訓示している。

当時、川尻の町は洪水や加勢川堤防の決壊に悩まされていました。現在の石積み堤防が出来たのは泰養寺前下流

が明治二十四年、上流は大正三年である。久兵衛は大

雨になれば町奉行所(現在

の古城神社からその奥一帯)

に高張提灯を立てて町民

の通報に備え、自らは川筋

の警戒の任に当たるなど率

先して町の安全に力を尽く

した。また、時折町に出て貧

しい身なりの人やお年寄り

に会うと、手ぬぐいを配つ

ていたとの逸話もあるほど、

當時に任じられた。足高は

川尻町に直ちに川尻町

奉行に任じられた。足高は

三百石だつた。長州藩は翌元治元年(一八六四)七月大舉して都に

行動を経て慶応四年(明治元

年二月)藩の奉行副役にな

るなど学校党の重鎮として活躍を続けた。明治二年六月、十一代藩主細川詔邦(慶順)は藩知事に任命され、翌年代わざて弟の謙久が知事になると、藩政は学校党から実学党へと一気に変わつていった。

八十四人が成人に



西輝喜

上田休の顕彰碑(熊本県横手 摂津寺)

野に下つた久兵衛は名を休(ひゆ)と改め、上田家の旧知行地、飽郡半田村(城山半田町)に塾を開き、軍学や論語に時勢などを加えて教えていた。その噂を聞いた人たちが熊本藩だけでなく、九州各地、遠くは尾張の国からも入塾したと伝えられた。それが川尻公民館が主催したもので、今年で五十七回を数えます。

*次号に続く



川尻校区の成人式が一月三日川尻公民会堂で開かれました。これは川尻公民館が主催したもので、今年で五十七回を数えます。

成人式は、お祝いに参集した校区の自治会長、民生委員、婦人会ら各種団体長と見守る中、新成人となられた四十五人(校区出身の新成人は八十四人)が出席して行われ、米澤公民館長、荒金自治会連合会長らがお祝いの言葉を述べました。(この後、成人を迎えた中川恭士郎さん、別府潤さん、西上めぐみさんが成人となつた心境と大人として歩む決意を述べて、出席者からの温かいお祝いを受けました。

御蔵の名称は「熊本藩川尻米蔵？」

川尻の外城にある「御蔵」と「御蔵前船着き場」の国指定史跡申請は、一月に行われましたが、「この申請の際に「御蔵」・「御蔵前船着き場」の名称について、今後検討されることになりました。

これは二月四日の川尻文化を考へる会委員会の席上、熊本市教育委員会が明らかにしたもので、熊本市によりますと、名称については、国民に分かれた土地名を付ける、余り長くない」と、他の史跡名と混同されないと等を考慮して決めるべきとの文化庁の指針を受けた。その後、川尻市川尻船着き場などが検討されました。また、川尻の名稱は見えない」とのことです。

二月六日開幕した今年の「川尻月間」、開幕を飾るのは、開懐世利六葉匠の「和菓子」とのふれあい工房には、初日から大勢の和菓子ファンが詰めかけました。会場の幕藩時代熊本県には細川藩と相良藩があり、肥後の名稱は見えない」とことです。

間で八千人を超える入館者がおりましたが、いずれも長い時間がかかるので、肥後の名稱について、は、川尻の名稱であり、「これらの名稱決定にはしばづく時間がかかるされました。なまらに長い」との説明がありました。

川尻の歴史を満喫しよう！ 脳わう

（左）川尻の御蔵の現状報告、第三回

（右）（左）は三部構成で、第一部は基調講演、第二部は各地の御蔵の現状報告、第三回

（左）は（左）が行われ、翌十六日（日）は午前九時から御蔵サミットが開催されます。

（右）は（左）が行われ、翌十六日（日）は午前九時から御蔵サミットが開催されます。

（左）は（左）が行われ、翌十六日（日）は午前九時から御蔵サミットが開催されます。

基調講演は北野隆 熊大名誉教授

今年五月十五、十六日に川尻公会堂で開催される全国御蔵サミットの内容が決まりました。「これによりますと、初日の十五日（土）は（左）が行われ、翌十六日（日）は午前九時から御蔵サミットが開催されます。



川尻文化を考える会便り

【発行】川尻文化を考える会事務局 毎月1回発行 発行責任者 西 順喜 ☎ 096-358-5711 (熊本市くまと工芸会館)



さるいて、十四日には初の試験と歴史講演会、音楽コンサートでは、DO-YO組の曾我、矢部さんが数々の童謡を披露、二人の美しいハーモニーが会場に詰めかけた人々を魅了しました。

さて、今年から御蔵前船着き場と中無田閑門を復する加勢川下りが復活し、県内外から訪れた方が川尻の歴史、史跡めぐりと合わせ延べ六百人余りの方々が文字通り「川尻の歴史を満喫しました。

えびすのつぶやき



{川尻小学校}その二

川尻郷撫隊本営址

戦禍から川尻を救った奉行
上田 休(すき)(第2回)

明治一年一月十四日、薩摩の先發隊は「栄名敗えて好まねど、非道を売るは天の道もやは」と上忍ばれずせめては尽くす。武士の数万の民を救わんと京(今日)を限りの死んの旅」當時薩摩ではやりだした唄を口吟みながら熊本へと軍を進めた。

二月二十日から川尻の町には、総々と薩摩兵が集結した。町民は街に満ち溢れた薩摩兵に好意的で何かと便宜を図っていたようだった。二十一日、近見村辺りで熊本鎮台兵との小競り合いが続いているとの噂だがたが、二十二日には薩摩の勢が熊本城攻撃に向かうことを告げ、同時に休は川尻に赴くと、有志らを集め、暫くの間、鎮撫隊の名で町民の保護に当たることを請うた。薩軍駐留隊を連れ、薩官軍中立の立場で川尻の静けさに返った。

しかし、戦局がはかばかしくないのに苛立つか、駐留軍は町民を軍夫として駆り出し、弾薬の運搬や兵糧の調達、焼き出し等、過酷な使役を強要した。逆らえば暴力を振るう。労働の代償は払わない。町民は恐怖の底にに戦いた。頼りの戸長役場の役人たちは雪隠れ、混戻に乘じて各地からやつて来るならず者は横行する。家を閉じ近郊へ引っ越す人も増え、残っている人々の不安は募るばかりであった。

途方にくれた町の有志、岡町で米屋を営む米村金八ら十数名は半田村に住む上田休を訪れ、救いを懇願した。

休は熟慮の末、二十六日門弟たちと長子勤(めい)を伴い川尻に赴くと、有志らを

集めて、「人民保護概略」では、薩

兵人夫を駆使す、若し是

をきかざれば刀(銃)を揚

げ是を脅す、市人甚恐懼

してこれを告ぐ、休といえ

ば、相當の代金を取りて是

に応せせしむ。

また次の項には、夜、官

軍の軍艦が二丁港に近付

く、鎮撫の士をもって海岸

を守つて欲しきとの要請が

薩軍からあつたが、「鎮

撫に就くことの了解を

得た。なお、車夫・軍夫の賃金等も定めている。

「河陽保護日記」(河陽は川尻町)によると鎮撫の実動は即日、正月十四日

(陽曆二月二十六日)から

であるが、その様に賊匪侵暴の報あらば、札の辻の版を急打し、各寺是に応じて巨鐘を撞撃し、防

火手、是を聞いて会所に

集まり、

つまり消防夫を招集し、義勇が隊長となつて指揮する。自警団の結成で義勇には休の門下生が大部

分であった。

江戸時代、飢饉に見舞われた細川藩は幕府の許可を得て、蕪茶を発行しました。その藩札を銀貨等と交換する札座を藩内の八ヶ所に置きましたが、その一つは川尻町外城の元札座御服店に置かれしていました。現場には、札座跡を示す標木が建てられていますが、歳月が経ちました。このため、熊本市観光政策課が今年度中にこの標木の文面を新しく書き直すことになりました。

「川尻の札座(ふださ跡)」の標木が新しくなります。

と断つた。

体の縛密で迅速な采配により川尻の町はたちまち平穡を取り戻した。そ

の噂は周辺の村々に伝わ

り、鎮撫依頼が相次いだ。

休が各地に出掛ける日も

多くなつたが統々と鎮撫隊

が結成され、休の庇護の下に結束を固め生業に励むことが出来るようになつていた。

江戸時代、飢饉に見舞われた細川藩は幕府の許可を得て、蕪茶を発行しました。その藩札を銀貨等と交換する札座を藩内の八ヶ所に置きましたが、その一つは川尻町外城の元札座御服店に置かれしていました。現場には、札座跡を示す標木が建てられていますが、歳月が経ちました。このため、熊本市観光政策課が今年度中にこの標木の文面を新しく書き直すことになりました。



* 次号に続く
西 繩喜



上田 休の説明板(川尻公会堂前)



川尻の札座

「川尻月間」閉幕



二月六日開幕した今年の「川尻月間」は三月七日、川尻の酒蔵まつりで幕を閉じました。川尻月間は、今年から御藏前船着き場と中無田閘門を往復する加勢川下りが復活し、県外から訪れた方が川尻の歴史、史跡めぐりと合わせて川下りを楽しむなど期間中、くまと工芸会館、川尻公会堂などで二十のイベントが繰り広げられました。今年の月間は二月が天候に恵まれたものの、三月はぐずついた天候となりましたが、全ての行事を無事終えることができました。

川尻を多くの人に知つてもいい、川尻に賑わいを取り戻そうと始まった

川尻文化を考える会便り

〔発行〕
川尻文化を考える会事務局
毎月1回発行
発行責任者 西 順喜
☎ 096-358-5711
(熊本くまもと工芸会館)



小山田、山西家が御藏結婚式を行います。

御藏結婚式を挙げるのは、山西製麿出身のデザイナー・小山田将監さんと川尻出身のパティシエ山西芳枝さんで、ヨーロッパのオランダで仕事をされています。

お二人は生涯の記念となる結婚式を新婦芳枝さんの心を育んだ歴史と伝統の町川尻で挙げることにしたのです。お二人は四月四日(日)に行われます。

芳枝さんは、川尻二丁目山西商店街の若大尉で青年協議会や川尻文化を考える会のキーハーソンとして大活躍されている山西大介さんのお妹さんです。新郎、新婦は青年協議会(福山

会長)が日夜奮闘している

「川尻月間」ですが、まだまだ問題も山積しています。「川尻月間」が九州を代表するメジャーなイベン

トになるよう関係者と町民が一体となって努力を積み重ねる必要があるといえます。

御藏サミットは、全国に現存する御藏を管理している関係者が一堂に会して「御藏」の保存と活用を図るうと今年五月十五日(土)、十六日(日)に川尻公会堂で開催されますが、これは「先人」が築いた大きな歴史遺産、川尻の御藏を後世に残そう」と川尻文化を考える会が全国の関係者に呼び掛けて行われるもので。

川尻に春の訪れを告げる「かわしり朝」が今年も始まりました。毎年三月から十一月の土曜日の朝(午前六時三十分~八時)に開かれる「かわしり朝」、「今年は三月六日」

一、「始まり、十七団体(県立熊農高、優峰園、西村農園、新宅農場、久保田ファーム)、西農園、瑞鷹、出口豆腐店、岳間製茶、松合食品、後藤海苔、杉村洋蘭園、フラワーショップはなまる、芳野の里、改原蜂蜜店、荒木農園のお店が勢揃い。六日は生憎の空模様となりましたが、恒例の朝一を待ちかねた方々が詰めかけ、会場のいたる所で久しぶりの再会に話が盛り上がりっていました。

御藏サミットのスケジュールと「入場受付」の詳細に付きましては次号で紹介いたしますが、入場希望者の受付(先着70人)はくまと工芸会館(096-358-5711)で行います。



「かわしり朝」始まる。

△川尻小学校～その二
川尻鎮撫隊本営址

職満から川尻を救った奉行
上田 休 (やすの)(第5回)

ある日、官軍方に付いていた旧藩士から休のもとに密書が届いた。「椎原伍長を兵候として川尻に出したが捕われたらしい。助けて頂けないか」とあった。休は「一瞬ためらつたが薩軍の基地に出てくと、一人の若者が立木に括り付けられていた。休は咄嗟に「この人は鎮撫隊の者です」と告げ身柄を引き取った。

八代の者だという神原庄一に印鑑(鎮撫隊員の証明書)を与えて帰隊を諭した。然るに椎原は印鑑を得たので、再び薩軍基地に潜入してまたもや捕えられた。上田は詫び椎原庄一を深く戒め、帰隊を約せしめて還したが、椎原は尚戦隊せず三度薩軍に捕えられた。薩軍は間諜の嫌疑を益々深くして、「鎮撫隊は中立ではない、上田は敵とすべし」と決定した。

四月十一日、川尻町は官軍に包囲されるとの噂が飛び交い始める。休は町民にかねての手筈どおり避難を指示した。

翌四月十二日、南の宇土半田村へ退いた。

方面から進撃してきた官軍



上田 休の顕彰碑
(熊本市植木 植定寺)

若し休が椎原庄一を斬らなければ、川尻鎮撫隊は薩軍の攻撃を受ける。上田の目的は川尻地方の治安維持である。已む無く休は、長男の勤をして薩軍に請い、之を斬らしめた。

休は殺氣立つた薩軍基地土手では、点々と炊煙が立ち上り、人影も見える。試しに砲弾を打ち込んでみた。

休は椎原庄一斬殺であったが、この時は四月十三日に川尻へ進駐した山田少将を訪ねて椎原斬殺のいきさつを報告し、賞賛を受けている。自分の行動に何ら疾しことはない。

閑々とした日々を送るうえに、「この気持ちを家族に伝えたが紙も筆もない。休は窮屈の策として、日頃使用していた墨の漆を嘴み込んで溶かして「より解き開いた小紙片に爪楊枝を噛み委らかくして認めた辞世の歌

「みだれ世に みだれぬものは 白糸の

えびすのつぶやき



ただひとすじの

誠ならまし

明治十九年九月三十日、賊名を蒙つて休は斬首された。

享年四十八歳。惜しまべき

人傑は幽界の人となつた。

事前に東京にて上田が処刑されるらしい噂を耳にされた前藩主、前知事の細川

韶邦公は、すぐに上田休助

命嘆願の使者を熊本へ派遣

したが、その着熊を待たず、

また妻子にも告げずに斬り

れたといふ。

休の斬罪を悼んだ川尻町

民を始め、各村々の有志は

献金により、明治二十二年、

休が眠る飽田郡横手村高

麗門(現熊本市横手町)の

植定寺境内左手にその徳

を偲んで大顎碑を建立

し、休の功績を讃え冥福を

祈つた。

直系の御子孫、上田四郎

さんは千葉県に、その娘、

香さんはスウェーデンに在住

されてゐる。

西輝喜



全国御蔵サミット

全国御蔵サミットは、国内に現存する御蔵を管理している関係者が一堂に会して「御蔵」の保存と活用を図ろうと五月十五日(土)・十六日(日)に川尻公会堂で開催されます。これは「先人が築いた大きな歴史遺産・川尻の御蔵を後世に残すこと」



御蔵サミットのスケジュール等のお問い合わせや入場希望者の受付(先着10人)はくまもと工芸会館(096-358-5711)で行っています。なお、入場には資料代(500円)が必要となります。

【発行】
川尻文化を考える事務局
毎月1回発行
発行責任者 西 雄喜
☎ 096-358-5711
(熊本県くまもと工芸会館)



小山田、山西家の御蔵結婚式に三百人



四月四日
(日)、山梨
県出身の
デザイナー
小山田将監

さんと川尻
出身のバティシエ山西芳枝
さんがめでたく御蔵結婚
式を挙げ、町民三百人余
りの温かい祝福を受けま
した。

二人は四日午後一時半、
川尻神社の神前で永久の
契りを結んだ後、人力車
繰り広げら
れました。



で各町内を回わり、午後四時前およそ三百人の町の方々が待ち受け川尻の御蔵に到着しました。

御蔵前広場では、お二人の結婚を祝うセレモニーが行われ、二人の門出を祝つての「振る舞い酒」や「饅頭のブレゼント」、「音楽演奏」など

えびすのつぶやき

御
藏
考



御藏は藩政時代から造りめられたのではなく、それ以前、鎌倉時代の河尻氏、更にずっと遡つて律令国家形成の7世紀後半以来、形こそ違う必要建造物であった。それは租・庸・調の収納蔵が必要だったからである。十津寺町と平田町の境に印にやく神社と呼ばれる小社が鎮座している。八代郡鏡町の印にやく神社の御神体は八代郡の印と、郡倉を開く鍵であるといわれて、肥後の国府である託麻国府は、中央の都が京都の平安京に移ったのちの八四二年ころ、現熊本市二本木に移つたともい。熊田国府の蔵を開く鍵が印にやく社に祀つてあったのかもしれない。

さて江戸時代、幕府も諸藩の大名も年貢米の徵収に、保管に躊躇したことは確かである。肥後細川藩手永の納入量は寛永十一年(一六七一)の「所々御藏入之御都」には記載入り、拾万俵程。* 山本(菊池)合志、南郷。
川尻御蔵入 拾万俵程。* 飯田、託摩、上益城、下益城、宇土。

八代、葦北
八代御蔵入 拾万俵程。
五名、山鹿
高瀬御蔵入 拾五万俵程。
阿蘇谷、小国
鶴崎御蔵入
久住、野津原、鶴崎

これらの年貢米は、藩の役人によつて品質・数量・俵袋などについて厳重な検査が行われていた。ある年、阿蘇葛布布田村(現西原村)では熊本城の東蔵(現県伝統芸芸館辺り)に百三十俵を納入した内八十三俵が不合格となり、納入直行されなければならない。仕方なく検査の役人に賄賂を贈つたり、町の米屋から米を購入して詰め直しなどをして、やつと七日目に納入を終えた。「お米納めほど恐ろしき事はなく」と当地では語り継がれたという。また、次のような事件もあった。

延宝八年(一六八〇)までは、知行取は自分の知行地から直接年貢米を受け取っていた。

宇土郡は松山手永と郡浦手永の二つだった。松山手永に知行地を持つその武士は、ここ四、五年凶作続きで予定通りの年貢が貢えず心を痛めていたが、今年は知行地に何回か出向き農作を感じ楽しみにしていた。同僚間の噂でも豊作だと喜んでいた。

ところが知行地の各百姓とも「今年も不作でした」と僅かの年貢米しか届けなかつた。不審に思い藩に訴えた。藩が責任者の惣庄屋・間系庄屋八名を吟味した結果、惣庄屋は候見役の藩役人を出来病の良くない土地に案内し、この地方は不作だと告げ、收穫の上前の庄屋は止めをしていたことが判明した。

惣庄屋松山吉兵衛は打ち首、庄屋八名には惣庄屋の指示故罪はないとして、年貢米皆削除放してある。川尻・高瀬・八代の御蔵は津端三倉と呼ばれ、川尻武拾万俵のうち拾五万俵は大坂中の島の蔵屋敷へ運ばれる。千石積みの船を緑川河口に停泊させ、川尻船着き場から二百石積み程度の船で連繋し、沖合で横み替えを行つた。

「肥後川尻町史」によれば、宝曆・明和頃の川尻所の御米船は、「幸寿丸(子一百石)」
幸寿丸(子一百石)

御米船
白梅丸 松梅丸(式拾反帆)
老松丸 十七反 武拾反帆
十五反
十八反
十五反
計 拾老松

* 船舶開闢の御米輸送は省略
五万俵は内陸水路で熊本の東蔵へ運ばれた。内陸水路とは川尻・熊本間の物資輸送の大動脈で、鎌倉期まで川尻地区へ流れていった白川の跡を、初代細川藩主忠利公が振り上げ、水路としたものである。当時、川尻港に着いた物資は城下町熊本へ馬で運ばれていた。熊本へ船では便利だと考えた忠利公が、そのことを家庭に話すと「水路を造れば駄賄馬が少なくなり、税のときぎると反対者が多かった。だが忠利公は幕府に高瀬船が通行できるよう強張った旨を願い出、寛永十七年(一六四〇)に認可を得たのである。

水路は「郵便局」とか「らん館」のある川尻市道バイパス(旧川尻電車軌道)を通り、河尻神宮の東側現在小さい水路となっているから市道沿いをJR線路に沿うように三本松川(三本松川から二本木まで)を通じて二本木まで。ここで水夫は船を引き揚げ越えて、坪井川(待船に荷物)を積み替え、現在の熊本市役所前蔵橋まで運び、ここから東蔵(粗大などして運んだ)といふ。

内陸水路の川幅は約七十九メートル、両岸の小道を一體に四十一俵を積み、数隻の船を繋ぎ、船頭は舵を取り、水夫が両側の小道岸からロープで船を引つ張つて運んでいた。

運ぶ方法は坪井川も同じだが、坪井川は川幅が狭いので小舟であった。一艘に何俵積んだかは不明である。

船着き場跡、外城蔵跡が国史跡指定へ



文化審議会は五月二十一日、熊本市川尻にある「船着き場跡(御蔵前船着き場)」と「外城蔵跡(御蔵)」など全国で七件を国の史跡に指定するよう文部科学相に答申、これにより船着き場跡と外城蔵跡が国指定史跡の見通しとなりました。

水運を利用して年貢米の集積・搬出、また肥後藩の軍港として栄えた藩政時代の川尻には、年間二十万俵の年貢米が集まっていました。この年貢米は、船着き場跡から御蔵(東蔵、中蔵・外城蔵)に運ばれた後、五万俵が熊本城東蔵へ、残りの十五万俵は大坂の蔵屋敷へ送られていきました。



船着き場跡(十四段、百五十メートルの石段)、御蔵跡(現存する外城蔵の二棟)はその当時の史実を今に伝える貴重な歴史遺産です。

文化審議会の答申を受け、早ければ七月上旬にも指定が決まりますが、熊本市教育委員会では、国史跡指定が行われた後、加勢川沿いの「御船手渡し」を追加指定申請する準備を進めています。

川尻文化を考える会が「歴史遺産の御蔵の保存と活用」そして「貴重な御蔵を後世に残す」とをテーマに、五月十五、十六日に川尻公会堂で開催した「全国御蔵サミット」は、県内外からの百六十人余の方々が会場を埋め尽しました。

全国御蔵サミットは川尻文化を考える会の

文化審議会は五月二十一日、熊本市川尻にある「船着き場跡(御蔵前船着き場)」と「外城蔵跡(御蔵)」など全国で七件を国の史跡に指定するよう文部科学相に答申、これにより船着き場跡と外城蔵跡が国指定史跡の見通しとなりました。

水運を利用して年貢米の集積・搬出、また肥後藩の軍港として栄えた藩政時代の川尻には、年間二十万俵の年貢米が集まっていました。この年貢米は、船着き場跡から御蔵(東蔵、中蔵・外城蔵)に運ばれた後、五万俵が熊本城東蔵へ、残りの十五万俵は大坂の蔵屋敷へ送られていきました。



西輝喜代表が主催者の挨拶をした後、熊本市教育委員会の廣塚昌子教育長が「全國御蔵サミット」はしか現存しないという御蔵の保存に努めている関係者が一堂に会して、その歴史遺産の保存、活用を考える意義深いサミットとなるよう期待します」との幸山熊本市長の祝辞を代読して会議に移りました。

川尻文化を考える会便り

〔発行〕
川尻文化を考える会事務局
毎月1回発行
発行責任者 西 輝喜
☎ 096-358-5711
(熊本市くまもと工芸会館)



全国御蔵サミットに百六十人

第一部の基調講演で
は、熊本大学名誉教授
の北野隆工学博士が
「御蔵と御茶屋と題し
て、川尻地区には本物
の文化財がある。その
文化財を活用すべきだ
が、本物とは当時のま
まの姿であること。つま
り、それらの文化財に
接した時、私たちは當
時のままの状態を保つ
ことが大事である。また、
川尻には県内最大規模
の御茶屋があった。この
御茶屋跡を発掘して、



北野 隆 工学博士

川尻の大きなまちおこ
しに役立てるべきであ
る」と講演した。



第二部の各地の御蔵
の現状報告では、盛岡市
の教育委員会、鳥取県
湯梨浜町の教育委員会、
川尻文化を考える会か
らの担当者たちが、それ
ぞれの御蔵の現状と課
題について、STRA やパワー
ポイントを使って報告・
説明がなされました。が、
御蔵にしても、当
時のままの状態を保つ
ことが大事である。また、
川尻には県内最大規模
の御茶屋があった。この
御茶屋跡を発掘して、



川尻文化を考える会 西 雄喜 代表



盛岡市教育委員会 花井 正香 主任



湯梨浜町教育委員会 秋久 敏彦 係長



《サミット宣言》
川尻文化を考える会
事務局長
福山 龍太郎



第三部では、熊日新聞
社の松下編集局次長を
コーディネーターに関係
者たちがフリートーク
ングで、「数少ない全国の
御蔵をどう活用、保存
できるか」を一時間に
わたり討議し、先人たち
の作った文化遺産、
藩倉を①後世に残す。
②地域活性化に役立て
る。③御蔵情報を共有
する。を御蔵サミット
宣言として採択しました。

川尻文化を考える会
では今月から、お船手
渡しの指定追加申請請
動とともに、御蔵（外城
蔵跡）の活用についての
検討を始めます。地元
地区の活用方策がその
まま採用されるという
ことではありませんが、
全国御蔵サミットでの
報告を参考にしながら、
まちおこしを含め「御蔵
をどのように活用していく
か」を今後、検討して
いくことになります。

これから 川尻の御蔵は



第二次世界大戦で敗北するまで、日本の小学校には例外なく「薪の東を背負い、書物を手にして歩む二宮金次郎（尊徳）の石像、銅像」が校門近く、しかも一番目につきやすい所に置かれていた。

一、芝刈り、繩綱（なわな）
いわらじをつくり、
親の手を助（す）け弟（おとど）を世話し、
兄弟仲良く孝行つくす、
手本は二宮金次郎。

百姓一揆が頻発していた時期である。十四歳で父が死去。その一年後に母も亡くなり、叔父二宮万衛門の家に預けられ、農業に励む傍ら、寸暇を惜しんで読書に耽（ふけ）った。

唱歌の時間には

二、骨身を惜します、
仕事を勵み、
夜なべすまして、
手習読書
せわしい中にも、
たゆまず学ぶ、
手本は二宮金次郎。



「薪を背負った金次郎の姿はこの頃のもの」である。
荒地を耕して、田植え後
の田圃に捨てられている余った苗を集めて植え、収穫するなど収入の増加を図り、災害で没落した生家を二十歳の時に再興した。三十二歳の時、かつての主家服部家財政立て直しの依頼を受け、成し遂げた。

えびすのつぶやき

（その三）

（川尻小学校）

二宮金次郎像

（その三）



私が小学生の時、修身の時間に金次郎が「子供の頃、わらじを編んでお金を稼ぎ、父のために酒を買った話」や、「両親の死後、叔父の家に預けられる」と寝る間も惜しんで本を読み、油代が勿体ないと叔父に叱られるなど、道端や荒地に菜種を撒き、採れた種と菜種油と交換し、それを皿に入れた灯明で勉強を続けた話」を聞かされ、「こんな人間になれと教えられた。

天明七年（一七八七）二宮金次郎は小田原藩領、相模国足柄上郡柏山（かやま）村（現神奈川県小田原市柏山）に百姓利右衛門の長男として生まれた。天明期は浅間山の大噴火以来、洪水と飢饉に相次いで見舞われ、「薪を背負った金次郎の姿はこの頃のもの」である。



その手腕が認められ、乞われて小田原藩主大久保家の分家宇都(うつ)家の所領桜町領の復興に着手したのは文政五年(一八二二)のことである。この時から金次郎は公人としては尊徳(たかのり)の名を使用した。

桜町領は元禄の頃四千石であったが当時の収量は二千石に減って、農家の戸数も半減していた。尊徳は元禄以来百年間の年貢帳を調べ上げて復興の限度を三千石とし、それ以上の実収は農民の収益とする方法をとった。農民の労働意欲を呼び起したのである。

尊徳は午前四時から回村し、ある時は肥溜や廻まで覗いて農民の栄養状態を把握した。そうした実態の理解のうえ、荒地の開発に力を注ぎ、灌漑用水に取り組んだ。また、農民に無利息あるいは低利のお金を貸し

て米の増収を図った。天保二年(一八三二)には約束の三千石に近い収納を得るに至ったという。

天保十三年(一八四二)には普請役格の幕臣に起用され関東周辺の諸藩領・旗本領・幕領・日光神領の復興に寝食を忘れて尽した。

安政三年(一八五六)十月下野国今市の仕法役所にて没した。享年六十九歳。二宮尊徳を祀る二宮神社は生地の小田原、終焉の地今市にある。

なお、銅製の金次郎像は、

第二次世界大戦中の金属供出によつて無くなつてゐるが、石像も戦後ほとんどの学校が撤去している。川尻小学校では幕末の農村復興の偉人として、今でも金次郎像を安置してあることに、深い敬意と誇りを抱くのである。



川尻小学校



西輝喜

全国御蔵サミット 開催の御礼

前述のとおり、全国御蔵サミットは共催の熊本市から廣塚教育長、三原教育次長に「出席いただき、また各地の教育委員会の協力の下、無事開催できた」とは、偏に文化財の保護に理解いただけた各位のご協力の賜物と関係者一同心から感謝申し上げます。

本来ならば、各位一人ひとりにお会い致しまして御礼を申し上げる処でございますが、取り急ぎ(こ)に紙面をお借りいたしまして御礼を申し上げます。

川尻文化を考える会事務局



国指定の「船着き場跡」、「外城蔵跡」8月29日(日)に報告会



これは七月二十二日に開かれた第十七回川尻文化を考える会で決まったもので、文化を考える会で決まりました。文化を考える会で、川尻の「船着き場跡」と「外城蔵」が国の史跡指定されました。文科省告示第二百一十三号を以て、丸らの史跡の歴史、概要、今後の活用等を地域住民の方々へ詳しく説明することにしたものの、報告会は熊本市川尻公会堂において八月二十九日(日)午後三時より行われます。報告会は、川尻校区自治会連合会で文化を考える会の共同で行う予定です。

設置へ
史跡案内人制度の
史跡案内人制度の
史跡案内板、標識の整備へ

さらに、歴史遺産等の
場所や道順を記した観光
案内板の整備も進めるこ
とになりました。
歴史と伝統のまちと謳
われる川尻地区にあって、
現在JR川尻駅はもよ
り町には史跡、観光の
案内板がほとんどなく、
川尻を訪れた方々に大変
ご不便をおかけしているの
が現状です。文化を考える
会では観光案内板設置を
「九州新幹線開通」に合
わせた「おもてなし事業」
と位置づけ、熊本市の觀
光政策課や文化財課と
連絡を密にしながら、公
衆便所の設置も含め「旅
行者にやさしいまちづくり」
を多面的に押し進め
ることにしたものでした。



ます。また、「川尻史跡案内人制度」
の必要が見込まれたため、
文化を考える会では、
「川尻史跡案内人制度」
を設け、多くの案内人の
育成を行なうことになりました。
案内の資格等の詳細は次回の会報でご紹介いたします。

川尻文化を考える会便り

【発行】
川尻文化を考える会事務局
毎月1回発行
発行責任者 西 郊喜
☎ 096-358-5711
(熊本くまと工芸会館)



おめでとうございます！
片岡龍助さん、吉村浩平さん
二人の受(綬)章を祝う会が盛大に開催される



会、六工匠、開懐世利六
菫匠などの方々二百人が
駆けつけました。そして、
納子夫人を伴った片岡龍助
さんが両手を振りながら
満面の笑み浮かべて登壇。
この旭日単光章は県菫子
工業組合の全員に贈られ
たもので、私は代表して受
け取っただけです」と受章
を喜ぶとともに「今後もな
お一層和菫子作りに精進
します」と抱負を語り出席
者から大きな拍手を送ら
れていました。

また、瑞鳳株式会社の社
長、吉村浩平さん(七十)の
「旭日小綬章」授章祝賀會
が七月十三日同じく熊本
ホテルキャッスルで行われ
ました。祝賀會には県酒造
組合の関係者をはじめ政
財界、報道関係社、川尻
校区自治会、婦人会、社会
福祉協議会などから二百
十人が出席し、吉村さんの
綬章を祝いました。

開 懐 世 利

えびすのつぶやき・



開懷世利とは? 川尻は、明の時代に出版された『圖書編』の中に開懷世利の名前で紹介されています。

これは中国の明の地理学者、鄭若曾が日本の永祿四(一五六一)年に出版した『日本國纂』に開懷世利(川尻)・高瀬・八代・宇土・天草などと記されているからです。

少し苦しいですが辛抱して読んで下さい。鄭若曾は「朝鮮通信使」の一員として

来日しました。朝鮮通信使とは日本と朝鮮の友好使節団で、通常、日本の将軍が替わる度に来日しています。

一行は、畿勢三百人から五百人にものぼり、中には学者・画家・医師などもいました。

この通信使は、記録として日本国書を書いています。

予め日本の有名な港と書き場所を知つておいたのです。

開懷世利とは? 川尻は、明の時代に出版された『圖書編』の中に開懷世利の名前で紹介されています。

これは中国の明の地理学者、鄭若曾が日本の永祿四(一五六一)年に出版した『日本國纂』に開懷世利(川尻)・高瀬・八代・宇土・天草などと記されているからです。

少し苦しいですが辛抱して読んで下さい。鄭若曾は「朝鮮通信使」の一員として

来日しました。朝鮮通信使とは日本と朝鮮の友好使節団で、通常、日本の将軍が替わる度に来日しています。

一行は、畿勢三百人から五百人にものぼり、中には学者・画家・医師などもいました。

この通信使は、記録として日本国書を書いています。

予め日本の有名な港と書き場所を知つておいたのです。

開懷世利とは? 川尻は、明の時代に出版された『圖書編』の中に開懷世利の名前で紹介されています。

これは中国の明の地理学者、鄭若曾が日本の永祿四(一五六一)年に出版した『日本國纂』に開懷世利(川尻)・高瀬・八代・宇土・天草などと記されているからです。

少し苦しいですが辛抱して読んで下さい。鄭若曾は「朝鮮通信使」の一員として

来日しました。朝鮮通信使とは日本と朝鮮の友好使節団で、通常、日本の将軍が替わる度に来日しています。

一行は、畿勢三百人から五百人にものぼり、中には学者・画家・医師などもいました。

この通信使は、記録として日本国書を書いています。

予め日本の有名な港と書き場所を知つておいたのです。

開懷世利とは? 川尻は、明の時代に出版された『圖書編』の中に開懷世利の名前で紹介されています。

当時、朝鮮との正式貿易を行なうには朝鮮国から図書を授かる必要でした。

(授図書の制)

図書とは貿易を希望する人の名前を刻んだ銅製印のこと、「まり朝鮮国との「貿易許可申請印」です。

二十代が図書を授けられます。申請要項は、肥後國の守護で、二千の兵を擁していると記しています。

河尻実昭は、菊池兼朝

ますので、この時はすでに河

尻氏は滅亡しています。

ちなみに八代では、当時の

城主名和氏が文明九(一四七七年)から明応二(一四九二)まで毎年のように朝鮮

丸建造して翌年琉球と通商しています。また、弘治元(一五五五年)四月八日には、八代徳洲港を出发し

た渡唐船十八艘が嵐で吹散らされた慘状の記録も残っています。

次の城主相良氏は天文八(一五三九年)年、渡唐船市木丸建造して翌年琉球と通商しています。また、弘

治元(一五五五年)四月八日には、八代徳洲港を出发し

た渡唐船十八艘が嵐で吹散らされた慘状の記録も残っています。

河尻氏からの貿易に参加

していなかったとほほ間違いな

と思いますが、今残っている記録では、文明二(一四

七〇)年、菊池為邦菊池氏です。



中國の古書。○内に「開懷世利」の文字が見える

たのでしよう。

河尻氏からの貿易に参加していたことにほほ間違いな

たのでしよう。

河尻氏からの貿易に参加

していなかったとほほ間違いな

と思いますが、今残っている記録では、文明二(一四

七〇)年、菊池為邦菊池氏です。

河尻氏からの貿易に参加

していなかったとほほ間違いな

と思いますが、今残っている記録では、文明二(一四

七〇)年、菊池為邦菊池氏

です。

河尻氏からの貿易に参加

していなかったとほほ間違いな

思います

。

「熊本藩川尻米蔵跡」の報告会



熊本藩川尻米蔵跡(外城蔵跡・船着場跡)が国の史跡指定を受けるまで
の経過報告と外城蔵跡の
今後の運用等の報告会

(川尻文化を考える会、
川尻文化連合会主催)
が八月二十九日川尻公民
会堂で開かれました。報告
会には熊本市の教育委員会
観光振興部、また隣接の
校区自治会関係者、西南

ロータリー、教育関係者を
はじめ川尻地区住民、ら百
十人が参加しました。

報告会では、まず市文化

財課の河田謙長が国指定
の文化財になるまでの過程

を説明。熊本藩川尻米蔵
跡が熊本市下十番目の國
指定の史跡になつたことを
指定しました。続いて文化

の会の西会長がこの史跡
を学習の場となるよう大切

に残さなければならぬと
訴えました。また、会場は
からは国指定史跡とな
うらはれ、運用は、町は
どう変わるのかなど活発
な質問が相次ぎ。文化財課
の河田謙長、西島觀光振興
部長、田邊市議らがその
質問ひとつひとつに対応し
ました。

川尻文化を考える会で
は、前述の報告会を総括
し、今後「熊本藩川尻米蔵
跡」の保存と活用を進め
ながら、史跡案内人制度の
設置、史跡案内版の整備、
公衆便所の設置、川尻周
辺史跡のガイドマップ作り
も並行して行つることになりました。

川尻文化を考える会便り

【発行】
川尻文化を考える事務局
毎月1回発行
発行責任者 西 郁喜
☎ 096-358-5711
(熊本市くまもと工芸会館)



市文化財課 河田謙長

一、受講資格

① 川尻を中心とした熊本南部地区的史跡、歴史に興味を持
ち、休日・祝日等に史跡案内(面倒としてボランティア)

② 男女、年齢は問いません。全養成講座が受講可能な人。

二、養成講座

① 熊本南部地域歴史研究会の会員(ひがい川尻等の歴史、
史跡の説明と現地説明会を行います。

② 講座は毎月一回(二時間程度)、全十二回(一年間を

予定しています。

③ は毎月第三土曜日、または第3日曜日の午前中を予

定しています。

④ 講座受講終了後、実地試験を行い合格者は川尻史跡

案内人と認定いたします。

三、受講料・定員

① 受講料は無料です。ただし資料代として、初回に一千円

が必要です。

② 定員は申込み受付順の先着20人

史跡案内人養成講座

受講生募集

今年八月、熊本市川尻の御蔵と御蔵前の船着場が「熊本
藩川尻米蔵跡」(外城蔵跡・船着場跡)として正式に国指
定の史跡案内人養成講座告示第百二十三号になりました。
これを受けて川尻文化を考える会では、今後予想される
史跡めぐりの観光客等に対処するため史跡案内人制度の
設置を決め、その準備をすすめました。が、九月十六日の
議会で「史跡案内人養成講座」開催が正式に決まりました。
熊本市南部地区的史跡案内人養成講座の募集要項は
左記のことおりです。



御蔵前船着場

その一

えびすのつぶやき



平成十六年度から国土交通省綠川下流出張所は、加勢川護岸工事の一環として、撤去の激しい御蔵前船着場の手がかりが出れば」と、私なりに期待を膨らました。

工事は私の予想以上に周到な計画で、船着場前三十一メートルほどの所を土砂で埋止め、船着場側の水を完全に無くしてから始まりました。

歴史に記録ほど大切なものはありません。全長百五十メートル、十四段からなる埠頭がいく構築されたのか分からぬ江戸時代中頃の絵図にやつと現在の様子が描かれている程度で、多くの疑問を抱きながらもその絵図で納得するより他はありませんでした。

解体修復工事に着手しました。この時もしかして建造年の手がかりが出れば』と、した。トレンチ調査の模様

まずトレンチ調査です。トレンチとは、工事場所全体を掘り返す、「ある部分を帯状（幅約三メートル）に掘り上げて、その付近の状況全体を推察する部分調査です。

この調査で下から十三段までの石と十四段目（最上段）の石の質が全く異なっていました。十四段目は明らかに近山周辺で採れる安山岩※で、山周辺に採れる島崎石は青、白、赤とさまざまな色調をしており、松尾周辺の松尾石はアカイシントル等との所を土砂で埋止め、専門家の話によりますと、島崎周辺の島崎石は青、白、赤と言われる赤系統の石、また高野辺田（猪鉢山）は白系統

その目で見ると確かに金峰山周辺から運んできた石材であると判りました。

さて、第一回トレンチ調査の跡を見て驚きました。私は思わず「版築※だ」と心中で叫びました。撲き固められた粘土の段々が姿を現したのです。素人の私には、そのまま石を載せても良いような気がした。しかし、なぜかせないものでした。その粘土層を保護する内部

今年も厳かに 川尻精霊流し

六百年の伝統を誇る「川尻の精霊流し」は、八月十五日

。

加勢川新町橋上流一帯で行われ、大慈寺神社の住職の読経の中、万灯籠、統いて百六十基の精霊船が静かに流れ、河川敷は故人の冥福を願う家族や親族と水面を彩る幻想的な明かりを一日よ二日よと訪れたおよそ一万名三千人の見物客で賑わいました。

精霊流しの後、恒例の花火大会が行われましたが、今年は事故のため、一部の打ち上げ花火と仕掛け花火が見送られました。



した。十三段目までの石段は金峰崎周辺で採れる島崎石は青、白、赤とさまざまな色調をしており、松尾周辺の松尾石はアカイシントル等との所を土砂で埋止め、専門家の話によりますと、島崎周辺の島崎石は青、白、赤と言われる赤系統の石、また高野辺田（猪鉢山）は白系統

は版築ではない」といつづけた。

西 雄喜

※安山岩とは、南アメリカ大陸のアンデス山中の火山岩に付けられた名に由来する岩名です。

※版築とは、粘土を杵つき固める方法ですが、御蔵前の船着場は版築ではない」といつづけた。



国史跡熊本藩川尻米蔵跡の周辺整備等を協議



熊本市との協議

国指定史跡熊本藩川内氏
米藏跡の今後(外城藏跡)
の改修と運用周辺整備
公衆便所や案内標識の設
置等を行政と地区住民が
一緒になって検討協議
する」となりました。

川尻文化を考える会の重田和也
連合会の荒金鍊一会长、
健蔵顧問、くまもと工芸会
会館の宅野雄二朗館長、
熊本市議の田辺正信議員
が熊本市を訪れ、熊本市で
十番目となる国指定史跡
が川尻に誕生したことの

員会(仮称)」等の特別プロジェクトを設け、十二月一回程度の会議を行なつたものです。

場の確保また外城蔵修復、利用等の方針地区住民と行政が多に話し合いを行う確認しました。具体的十一月中に熊本市の部局から四人程度を含む二部屋活用申請

御礼と今後考え方られ
問題にどのように対応す
いかがを協議したもの
協議には熊本市か
宮原國臣経済振興会
高田音都市建設局長
悟教育次長ら十五人
席、今後熊本藩川尻
跡周辺の整備、公衆

〔発行〕
川尻文化を考える会事務局
毎月1回発行
発行責任者 西 柳喜
☎ 096-358-5711

今年八月、熊本市川尻の御藏と御藏前の船着場が「熊本藩川尻米蔵跡(外城蔵跡・船着場跡)として正式に国指定の史跡(文部科学省告示第百一十三号)になりました。

史跡案内人養成講座

始まる

12回	11回	10回	9回	8回	7回	6回	5回	4回	3回	2回
9月17日(土)	8月13日(土)	7月16日(土)	6月16日(土)	5月21日(土)	4月16日(土)	3月19日(土)	2月19日(土)	1月15日(土)	12月18日(土)	11月20日(土)
聖誕試験	史跡案内会場と田舎案内指導	古代からの河川による物資の流通	現地見習い(川尻作事所・瀬戸内湖)	現地見習い(日吉神社・内渡水路・護津神社・奈良社・十輪大寺等)	現地見習い(天明橋・元気橋・喜連川街並・西花神の森・3番神・法家寺・六地蔵・延喜寺等と宝鏡印塔)	現地見習い(大慈寺等)	現地見習い(天明橋・元気橋・喜連川街並・西花神の森・中澤湯瀬・日和山・唐方寺所・川尻作事所・瀬戸内湖) * 全講話参加	現地見習い(日吉神社・内渡水路・護津神社・奈良社・十輪大寺等)	現地見習い(天明橋・元気橋・喜連川街並・西花神の森・3番神・法家寺・六地蔵・延喜寺等と宝鏡印塔)	国指定史跡を中心とした田尻地区の史跡

御藏前船着場

その二

(長さ十四センチ、幅二センチの木簡が建築年代を語る)

平成二十一年五月末、解体修復中の石積み護岸船着場(通称「殿様ガニ」)下流部の根石と根石の間から米の荷札らしい木簡(もうかん)の発見を知りました。水中だから木簡の腐蝕はあります。木簡の両面に墨書きで「一米三斗入」「矢部之内袖口組」とあります。



「熊本県の地名」—平凡社

—で調べると口の字は木で、

木簡は柚木(ゆのき)村の年

貢米荷札と思われました。

加藤家支配時代は郷組制で

矢部郷(現山都町)柚木組

細川藩時代は手永制なので、

矢部手永柚木村となりました。

米一俵は当時、大俵(だいのひょう)三斗五升。小俵(しょのひょう)三斗二升。山村

からは輸送の関係で三斗俵

と区分けされていました。

なお、木簡と一緒に出土し

た中国青磁の破片の年代と

も合致しているとのことでし

た。

さて、加藤家支配の四十四

年間のうち益城(矢部)は慶

長五(一六〇〇)年十一月

からで、それ以前は小西領

でした。とすれば、護岸船着

場は加藤清正公治世の二十

三年間のうちの築造と考え

られます。が、加藤家一代忠

広(治世二十二年の)工事と

は到底考えられません。

清正公の無二の忠臣、飯田

覺兵衛は豪勇無双の士であ

り、土木や築城の名手でした

ので工事の殆ど推進役

を務めていました。しかし、

清正公が亡くなると、忠広

を見限り、お暇乞いをして

浪人となり、熊本を去って

います。



西輝喜会長が受賞 川尻文化を考える会

平成二十二年度地域文化功労賞

各地の芸術文化の振興、文化財の保護に尽力し地域

個人及び団体を文部科学

大臣が表彰する今年度の

地域文化功労賞受賞式が

十一月九日、東京の文化庁

でありました。熊本県から

は、永年にわたり熊本市など

の歴史・史跡の研究、保存

に当たってこられた熊本市

南部地域歴史研究会の会

長で川尻文化を考える会会

長、西輝喜氏(89)が妻の

淑子さん(79)を伴って式

奉行の飯田覺兵衛が手代の

横手五郎などを指図し、練

川放水路として、川尻への

曲流部より小岩瀬までの長

さ一五〇〇メートル、川幅

一三〇メートルの畠川掘削

工事をしてドンド石疊を築

きました。その工事に平行し

て川尻への水を塞ぎ止め、

御藏前船着場を築造したと

考察いたします。

西輝喜



川尻米蔵跡の周辺整備事業の協議会スタート

國指定史跡「熊本藩川尻米蔵跡の周辺整備等」を実務的に協議する初会議が、一月二十七日熊本市で開かれました。協議会には校区自治会連合会の荒金会長、川尻文化を考える会の西会長、重田顧問、校区青年協議会の福山会長、同、林書記、市から西島觀光振興部長、内田地域づくり推進課長、河田文化財課長、

川尻米蔵跡の周辺整備等を実務的に協議する初会議が、一月二十七日熊本市で開かれました。協議会には校区自治会連合会の荒金会長、川尻文化を考える会の西会長、重田顧問、校区青年協議会の福山会長、同、林書記、市から西島觀光振興部長、内田地域づくり推進課長、河田文化財課長、



方針が説明されました。方針が説明されました。

川尻米蔵跡の周辺整備等を実務的に協議する初会議が、一月二十七日熊本市で開かれました。協議会には校区自治会連合会の荒金会長、川尻文化を考える会の西会長、重田顧問、校区青年協議会の福山会長、同、林書記、市から西島觀光振興部長、内田地域づくり推進課長、河田文化財課長、

川尻米蔵跡の周辺整備等を実務的に協議する初会議が、一月二十七日熊本市で開かれました。協議会には校区自治会連合会の荒金会長、川尻文化を考える会の西会長、重田顧問、校区青年協議会の福山会長、同、林書記、市から西島觀光振興部長、内田地域づくり推進課長、河田文化財課長、

川尻米蔵跡の周辺整備等を実務的に協議する初会議が、一月二十七日熊本市で開かれました。協議会には校区自治会連合会の荒金会長、川尻文化を考える会の西会長、重田顧問、校区青年協議会の福山会長、同、林書記、市から西島觀光振興部長、内田地域づくり推進課長、河田文化財課長、

永目都市計画課長、園田土木総務課長らが出席しました。会議では協議項目として、川尻の史跡を中心に富合町の六殿宮や城南町の塚原貝塚なども含めた熊本市南部地区の史跡を県内から訪れる観光客が増加するための散策できるサイクリングロードを含めた「インフラ整備」、川尻米蔵の周辺整備、駐車場や公衆便所の整備設置、さらに「お船手渡し」の国指定申請、王子学園高校閉校後の跡地利用について等が取り上げられました。

そして、①お船手渡しについては、現在国指定申請に努力しているが、文化庁の現地調査待ちであります。②公衆便所は川尻町内の店舗便所を改装して運用するのもひとつとの意見が、③駐車場についてはJR鹿児島本線東側の市有地(多目的広場)と隣接空き地を利用できないかと考えている。

史跡案内人養成講座は、いよいよ現地研修に入り、寒風の中受講生たちは史跡を回わり、寒さと戰いながら「歴史」の勉強に取り組んでいます。

川尻文化を考える会便り

【発行】
川尻文化を考える会事務局
毎月1回発行
発行責任者 西 邦喜
☎ 096-358-5711
(熊本市くまと工芸会館)



寒風の中 史跡案内人養成講座



えびすのつぶやき。



御蔵前船着場

その三

「川尻町史」末尾の「写真圖版補遺」に「三角往還に架せる下町橋」(明治二十七年頃)の写真があります。

明治になると蒸気船の時代を迎えると、船は大型化します。川港では水の深さが足りません。時の富岡県令は熊本の貿易振興のために水深があり、地形もよく、人家もないところに、明治十七年から巨額の費用と四年の歳月をかけ七三〇メートルの石積埠頭を造りました。

二千トン級の船が出入りできる今の三角西港です。その頃、川尻の港では商い船や遠く乾塩魚を運んできていた北前船の姿はほとんど見掛けなくなっていましたが、外輪船(九州商船経営の外に輪がある蒸気船志水丸

だけが毎日通つて、三角島原付近との交易は続いていました。また、廻船問屋塩飽屋汲波(通称日の丸)には、大阪方面から来る船舶が時折碇泊していました。程度の寂れよう

でした。緑川・加勢川・熊本の内陸水路という水の道を巧に利用し、熊本平野の経済、交通の要衝の地位を失つてきます。

川の港から海の港への時代が始まつたものの、その海の港へ行く道がない。熊本県は川尻町岡町の西側、今の「一フ食品」敷地から瑞鷹の東肥薩、川尻公会堂、下町恵比寿の左側の奥にあります。この墓は解脫墓と呼ばれ

とくが川尻停車場(駅)ができ、汽車が川尻へ来るのが明治二十七年八月

年、三角線が明治三十二年十二月の開通でした。

十七日、宇土駅は二十八

ています。解脱とは煩惱(ぼんのう)の束縛から解放された人のことで仏となることを指してい

ます。悲しい歴史です。

「の方々の「冥福を心からお祈りいたします。」

西輝喜

「川尻百景」グランプリに田中君、金井さん

御蔵が国指定史跡になつたを記念して行われた第一回「川尻百景写真・絵画コンテスト」には絵画の部に三十四点、写真の部に二十点の応募がありました。

さて、三角西港はオランダ人ムルドの設計によってできた切り石積みの見事な埠頭です。しかし、その完成には、付近の急峻な岩山を削り、海を埋めるという命がけの難工事でした。その危険な工事に熊本監獄の囚人たちが使役されたのです。



田中君の「加勢川」



金井さんの「石垣」



表彰式

写真の部では川尻の主婦金井雅美さんの「石垣」がグランプリに輝き、村崎川尻商店街連合会長から自転車などの豪華な賞品が贈られました。なお、入賞作品はくまもと工芸会館二階ロビーに展示してあります。

早急に「お船手渡し」を国指定へ



お船手渡し

この要望は、五月十二日開かれた平成二十三年度の事業計画等を協議する川尻文化を考える会の会議で取りまとめられたものです。

会議は今年度から国交省緑川下流出張所の甲斐公久所長、南部公民館の村田眞佐夫館長をオブザーバーに加え、また8人の新入会員を含めての

新体制の下、新年度の事業案を審議しました。そして、①お船手渡しを早くに国史跡指定へ追加申請できるよう関係機関に要望する。②昨年国史跡指定になった熊本藩川尻米蔵跡周辺整備事業を具体的に展開する。③町民に親しまれ、今年設立八十年を迎える「川尻公会堂」の歴史と今後の役割を検証していくことなどが決まりました。

また、熊本市と川尻の協議会は、四月熊本市の組織改変に伴う人事異動があり、今後委員の人選を行つて再スタートする」となりました。

川尻文化を考える会便り

【発行】
川尻文化を考える事務局
毎月1回発行
発行責任者 西 邦喜
☎ 096-358-5711
(熊本くまと工芸会館)



桜花爛漫の下、西南の役薩軍戦没者慰霊祭



慰靈祭



川尻町の延寿寺（天台宗）一九八年開山寺、一八九八年延寿寺の末

は、明治十一年（一八七七）の西南の役で戦死した西郷軍のうち、三〇五名が國事犯として宮城県監獄に収監され、今年三月の東日本大震災で被災した宮城県内の港湾建設に従事された」とを書き添えます。



延寿寺

を提供し、薩軍兵士を埋葬して弔いました。九十六回目となる今年の「西南の役薩軍戦没者慰霊祭」は四月十日、関係者八十人が参列して延寿寺境内に建立された墓碑の前で行われ、熊本三州会（熊本在住の薩摩・大隅・日向出身関係者の会）の柏木明会長らが焼香して、戦没者の靈を供養しました。

ところで、西南の役で戦った西郷軍のうち、三〇五名が國事犯として宮城県監獄に収監され、今年三月の東日本大震災で被災した宮城県内の港湾建設に従事された」とを書き添えます。

えびすのつぶやき



国指定史跡 外城御藏

その一

加藤氏支配時代は郷組制でしたが、細川氏は藩内を六十二の手永組織にして農村を支配しました。手永とは、庄屋が治める村三十九ヶ所を惣庄屋が支配する仕組みです。

手永の成立は寛永十一年(一六三三)ですが、川尻町周辺の村々は四郡十七手永(十八手永の時もあった)に区分されました。(飽田郡の四つの手永、託麻郡の二つの手永、益城郡(上)下)の十の手永。宇土郡の二つの手永です。

さて幕府は幕領からの年貢米を収納し保管する倉庫を元和六年(一六二〇)に江戸浅草を中心によりました。倉庫は要所の各地にも造られましたが、浅草中心のものが幕府最大の御蔵群です。全国の名藩もこれを契機に御蔵の建築に乗り出します。

熊本藩では三代藩主綱利が延宝八年(一六八〇)二月一家中知行取は從来自分収納なりしを、此時より御蔵米を以て給付と改むとして本年より家中三十石手取、江戸御供四十石手取、御合力米・御切米歩一召上げとなる。(官職制度考)という通達がでました。

*注解

・通達以前、知行取には農民が直接納入する仕組みだったが、通達後は年貢米を藩に納入させ、藩から知行取に支給する。

・年貢は四公六民で、百石取を例にした給付です。江戸御供の場合は、余計に石取がかかるので四十石を支給する。

・合力米(加倍米)、切米(小禄の家臣に春、夏、冬の三回支給された扶持米)の歩(税、手数料)それが相当に差し引く。

延宝八年(一六八〇)五

月八日 是月高瀬・川尻・大津に新蔵出来す。

「肥後近世史年表」

たのです。ただし、火災でではなく水害に遭ったのです。

川尻史によれば天保二年(一八三二)五月、一

川尻には東蔵三棟、中倉三棟、外城蔵三棟ですが、「うち延宝八年にとの蔵ができたのかは不明です。一、二棟ほどの竣工だったと思われます。絵図で御蔵群の場所を推測すると、東蔵は「うなぎの若松屋前の駐車場付近」から「川尻公

会堂の東端」位。中蔵は「公会堂西側の駐車場付近」から「JR鹿児島本線」の東側辺り。外城蔵は現在の二棟とその北側に「南向きの一棟」。

寺財什器は勿論、仏体まで流失してしまった。本尊不動明王像だけは奉環する」と

ができました。

四月一十八日、川尻小学

校愛育会主催の歓送迎会が開かれ、校区自治会などの関係者が出席、転任の8

人の先生方に記念品を贈呈

した後、新しく来られた先

生方を交えて地域が一体となつた和やかな歓送迎が繰り広げられました。

江戸時代には町中に水四尺余、兩田町、小路町にては水六尺になんなんとす。野田村にては二階上へ水上り所もあり。

(大田黒家文書)

西輝喜

川尻小学校に9人の先生が配属

今年度新しく川尻小学校にお越しになられた先生は次の方々です。

藤田まり子教頭、樋口綱

子教諭(一年一組)、植村

安子教諭(二年一組)、渡

邊晶子教諭(四年二組)、

平井光代教諭(五年二

組)、江野謙二教諭(六年

二組)山下恵子教諭(音

楽)、堺愛美子技師(給

食)、田川悦子学級支援員



歓送迎会

くまもと工芸会館、工芸協会設立二十周年



二十周年記念のタペ

くまもと工芸会館は熊本市の工芸品の振興、後継者育成そして熊本市民部地区的経済振興を目的に平成3年7月30日、市川尻支所跡地にオープンしました。また、熊本市工芸産業振興協会は工芸会館の建設に合わせて、平成3年7月5日に発足したものづくり職人の団体で、現在は一般社団法人

川尻文化を考える会便り

【発行】
川尻文化を考える会事務局
毎月1回発行
発行責任者 西 郁喜
☎ 096-358-5711
(熊本くまもと工芸会館)



人くまもと工芸協会と衣替え、会員は66人を有しています。この工芸会館と工芸協会が設立から今年で二十六年を迎えた「記念のタペ」が6月6日、熊本市のマルク熊本で開かれました。記念のタペには熊本市、県、友好団体、川尻地区の諸団体と工芸協会の会員ら90人が出席、工芸会館と協会の20年の歩みが▽▽▽で紹介されました後、幸山熊本市長の祝辞(代読)、川尻校区自治会連合会の荒金会長のビデオメッセージなどが披露されました。そして出席者たちは、民謡歌手西村直子さんの歌の数々を楽しんだ後、温泉旅行等豪華なプレゼントを目指してのピンゴゲームに挑戦、会場は拍手と一緒に包まれていました。

肝付都市計画課長
田土木総務課長、内田
地域づくり推進課長、河
田文化振興課長と川尻地
区から校区自治会連合会



お船手渡し



新米蔵跡周辺事業協議会

新米蔵跡周辺事業協議会が始動

の荒金会長、川尻文化を考える会の西会長、重田委員、林委員、くまもと工芸会館の室野館長、オブザーバーとして田辺市議会議員が出席して新メンバーでの協議会を開きました。

協議会では①今年度中に歩行者対応等の史跡案内板の設置、②駐車場や公衆便所などを史跡公園(仮)構想のビジョンに位置づけ検討する、③雨漏り等が出始めた米蔵跡の内構造、観光案内版等の設置などを検討してきました。しかし、今年4月に熊本市の組織改変、それに伴う人事異動があり、協議会の開催が一時中断していました。そして、6月14日、熊本

えびすのつぶやき



国指定史跡 外城御蔵

その二

年貢の上納は毎年十二月二十日限りでした。蔵納の日程はあらかじめ、惣庄屋から庄屋へ通達され、庄屋は各頭(かしら)百姓、五人組べと連絡されました。納入が完了するまで、村には米商人の立ち入り禁止、祭り・祝儀・家の新築などと行ではならないきまりがありました。蔵納には農民の一年間の生活の全事がかかっていたのです。村々では、剽摺(もみ)たり・傍宿(たわらじゆく)しら・作番(さくばん)の履い入れ・夜業(よなご)の規則を定めて万全を期します。手永(てなま)ことお役家人の内から任命された抜米(ぬけまい)見しめ役が絶えず見回り、密売買、小作料、借米の取立てなどの取締まりに当たりました。

(取米を定める)機目(監視)、さし子(米穀審査員)、仲仕(荷物を運ぶ役)二十

年貢は各農家の借米と納入の日を惣庄屋に報告。榜記で払主の名、住所を書いた長さ十四センチ・幅二センチ位の木札(ぼんざつ)を蔵の中と上皮に付け、払主(ぱらいぬし)の内から抜頭(がしら)を立て、箕(み)・しおうけ・用心米(ようじんまい)を用意します。

また、払主たちは晴雨に関わらず荷庭(にむしろ)一枚ずつ持参するのです。年貢は緑川筋の村々は舟で、他の村々は人馬で川尻の御蔵の場内(にわうち)にわざわざ運び入れ、払頭は村庄屋の作った「送(おくり)」を増補(ましまし)めやくに差し出します。

米を受取る側には、根取り(取米を定める)機目(監視)、さし子(米穀審査員)、仲仕(荷物を運ぶ役)二十人で重量をばかり、軽儀(かるひょう)、重儀(じゆうひょう)に入るひょう(重量不足)はありました。

年貢は、米は山床(さんぢゆう)に入りきらない米を露天積みするところです。千両(せんじょう)を運んでいたときも、天積みなどといふことは大変な混雑でした。米を蔵に入れる儀は黒印を打つて払頭に取り出して検査を行いました。砂(さわ)くだけ、剽等の交りの有無を調べ、該当する儀には黒印を打つて払頭に戻しました。払頭はその儀について、払主に縁直し、または用心米による補充を命じ再検を受けました。

さし子の手を通った儀は秤(びん)で重儀をばかり、軽儀(かるひょう)、重儀(じゆうひょう)に入るひょう(重量不足)はあります。山床は温氣を防ぐため上部に一寸(三、〇三センチ)余りの位の石を一尺(十寸)余りの厚さに敷き詰め、その下に一尺ほど砂、さらにその下に栗石(栗の実位の小石)が一尺ほど敷き詰めてあります。

二十日限りでした。蔵納の日程はあらかじめ、惣庄屋から庄屋へ通達され、庄屋は各頭(かしら)百姓、五人組べと連絡されました。納入が完了するまで、村には米商人の立ち入り禁止、祭り・祝儀・家の新築などと行ではならないきまりがありました。蔵納には農民の一年間の生活の全事がかかっていたのです。村々では、剽摺(もみ)たり・傍宿(たわらじゆく)しら・作番(さくばん)の履い入れ・夜業(よなご)の規則を定めて万全を期します。手永(てなま)ことお役家人の内から任命された抜米(ぬけまい)見しめ役が絶えず見回り、密売買、小作料、借米の取立てなどの取締まりに当たりました。

庄屋は各農家の借米と納入の日を惣庄屋に報告。榜記で払主の名、住所を書いた長さ十四センチ・幅二センチ位の木札(ぼんざつ)を蔵の中と上皮に付け、払主(ぱらいぬし)の内から抜頭(がしら)を立て、箕(み)・しおうけ・用心米(ようじんまい)を用意します。

また、払主たちは晴雨に関わらず荷庭(にむしろ)一枚ずつ持参するのです。年貢は緑川筋の村々は舟で、他の村々は人馬で川尻の御蔵の場内(にわうち)にわざわざ運び入れ、払頭は村庄屋の作った「送(おくり)」を増補(ましまし)めやくに差し出します。

米を受取る側には、根取り(取米を定める)機目(監視)、さし子(米穀審査員)、仲仕(荷物を運ぶ役)二十人で重量をばかり、軽儀(かるひょう)、重儀(じゆうひょう)に入るひょう(重量不足)はあります。山床は温氣を防ぐため上部に一寸(三、〇三センチ)余りの位の石を一尺(十寸)余りの厚さに敷き詰め、その下に一尺ほど砂、さらにその下に栗石(栗の実位の小石)が一尺ほど敷き詰めてあります。

五人がいました。

常任の仲仕数人は絶えず御蔵の中に居るが、急に全ての仲仕を必要とする時

は、法螺貝を鳴らして召集します。杉島・御船手に分散在住中の仲仕は、直ぐ御蔵に駆付けていました。この

御蔵仲仕には不文律の株が付いています。杉島・御船手に分離が斤量を受け持つ仲仕頭さまで、増横目役は「送(おくり)」によって払主(ぱらいぬし)、借米数、差れなどを調べ、さし子は「儀(ぎ)

」にて竹の当たりさしを入れ、一俵毎に少量の米を取り出して検査を行いました。千両を運んでいたときも、天積みなどといふことは大変な混雑でした。米を蔵に入れる儀は黒印を打つて払頭に

それが仲仕の仕事でした。山床は温氣を防ぐため上部に一寸(三、〇三センチ)余りの位の石を一尺(十寸)余りの厚さに敷き詰め、その下に一尺ほど砂、さらにその下に栗石(栗の実位の小石)が一尺ほど敷き詰めてあります。

首尾よく納めが住んで帰る時、道中は「村はこれでお祝いだ」と頭、旗立てて喜び勇んで帰っていました。それを仲仕の仕事でした。



西輝喜

川尻文化を考える会便り

【発行】
川尻文化を考える会事務局
毎月1回発行
発行責任者 西 鞠喜
☎ 096-358-5711
(熊本市くまと工芸会館)



今年のお盆は
かわしり光絵巻



米蔵跡の視察

米蔵跡の修復には五年の歳月を要す
第3回米蔵跡周辺事業協議会
 これは、7月12日開かれた熊本市の関係部署と川尻文化を考える会や校区自治会などで組織する川尻米蔵跡周辺事業協議会で明らかにされたものです。第3回米蔵跡周辺事業協議会には、熊本市から観光文化交流局の多野春光局次長や仙波觀光振興課長、河田文化振興課長10人、川尻地区から校区自治会連合会の荒金会長、川尻文化を考える会の西会長、福山事務局長、重田委員、くまもと工芸会館の宅野館長が出席しました。

委員たちは、まず昨年8月国指定の史跡になつた熊本藩川尻米蔵跡(外城跡・船着場跡)とお船手渡しの史跡になつた熊本藩川尻米蔵跡(外城跡・船着場跡)とお船手渡しました。

局の多野春光局次長や仙波觀光振興課長、河田文化振興課長10人、川尻地区から校区自治会連合会の荒金会長、川尻文化を考える会の西会長、福山事務局長、重田委員、くまもと工芸会館の宅野館長が出席しました。

議論には、熊本市から観光文化交流局の多野春光局次長や仙波觀光振興課長、河田文化振興課長10人、川尻地区から校区自治会連合会の荒金会長、川尻文化を考える会の西会長、福山事務局長、重田委員、くまもと工芸会館の宅野館長が出席しました。

議論には、熊本市から観光文化交流局の多野春光局次長や仙波觀光振興課長、河田文化振興課長10人、川尻地区から校区自治会連合会の荒金会長、川尻文化を考える会の西会長、福山事務局長、重田委員、くまもと工芸会館の宅野館長が出席しました。

設計段階で米蔵跡の利用計画を取りまとめたいとの方針が示されました。ながら、修復工事前の失うことも併せて考慮してもらいたいとの説明がありました。その他、①今年度中に歩行者対応等の史跡案内板を設置、②駐車場や公衆便所などの設置、整備の検討。③川尻が持つている特長を生かしたものづくりのため樂城大学地域共創センターをとおして、は、現在国土交通省と文化庁との間で問題点等の話し合いが行われてお

いておりました。この状況下、川尻精靈流し実行委員会、校区五町内閑慶会、くまもと工芸会館などが協力して今年「かわしり光絵巻」を練り広げることになりました。期間は8月13日から15日までですが、五町内の小路(川尻小学校前通り)を期間中の夜、歩行者天国にしての「路あかり」にする予定です。

この小路の路あかりに使用する明かり(1,000個)作りが川尻小学校とくまもと工芸会館で始まります。小学校では6年生の児童たちがあかりに思い思いの絵を描き、色塗りを行い、工芸会館では竹工芸の関係者たちが直径15センチもある孟宗竹を切つたり、ドリルで穴を掘つたりしての作業を行つていました。なお、かわしり光絵巻に関する広報、お問い合わせはくまもと工芸会館までどうぞ。



第3回川尻米蔵跡周辺事業協議会



くまもと工芸会館の竹あかり作り



川尻小学校児童の竹あかり作り

一連の「あかり行事」がなお一層注目される」となりました。この状況下、川尻精靈流し実行委員会、校区五町内閑慶会、くまもと工芸会館などが協力して今年「かわしり光絵巻」を練り広げることになりました。期間は8月13日から15日までですが、五町内の小路(川尻小学校前通り)を期間中の夜、歩行者天国にしての「路あかり」にする予定です。

この小路の路あかりに使用する明かり(1,000個)作りが川尻小学校とくまもと工芸会館で始まります。小学校では6年生の児童たちがあかりに思い思いの絵を描き、色塗りを行い、工芸会館では竹工芸の関係者たちが直径15センチもある孟宗竹を切つたり、ドリルで穴を掘つたりしての作業を行つっていました。なお、かわしり光絵巻に関する広報、お問い合わせはくまもと工芸会館までどうぞ。

えびすのつぶやき



川尻公会堂創立八十周年によせて

その一

吉村太八(瑞鷹創業者)

太八は天保九(一八三八)年、川尻中町浅木屋要八の次男として生まれ、嘉永六(一八五三)年、十六歳のとき三郎兵衛の養子として大嶋屋分家に入家します。

大嶋屋三郎兵衛は異風人でした。家は売薬を業としていましたが商売を好まず、俳句を作り、書物を読むことを楽しみにしていました。俳人仲間ではその中心として信頼を受けていたが生計は苦しく、本家大嶋屋からの援助で暮らしている状態でした。従つて、養家の太八の仕事はありませんでした。このため、太八は町で産する桶類を担いで熊本方面へ行商するのが日課でした。また、家が売薬を

取り扱っている関係から、年に一度、富山から入れ薬商がやって来ると、太八はその供をして薬籠を担い、山村を廻る貢仕事もしていました。

安政四(一八五七)年、三郎兵衛は隠居して家督を太八に譲りました。太八は養家の家業を引き継ぎましたが、その時の商品棚卸総額は僅か六百四十文だったといいます。当時うどん一杯が十六文でした。太八は「懸命に働きさえすれば、必ず神が降りてくる」という実家の教えを胸に、大嶋屋本家の援助を辞退して、商売に勤しみました。

当初は、養父から引き継いだ売薬に加え草履等の小雑貨を商い、次いで米や雑穀の扱いも始めます。これが割と利があり、更に自宅で

麴の製造を手掛けました。

その当時、多くの家で自家用の酒を造っており、また酒屋も大量の麹を必要としていたので、秋から冬場にかけて麹はよく売れた。川尻が肥後五ヶ町の一つで、商業上の制約をほとんど受けない地域だったので、秋から冬場にかけて麹はよく売れた。

太八が文久元(一八六一)年に結婚した頃、客が店に置

いていない薬を求めるなど、夜

分店を開めてから熊本まで往復三里の道をその薬の仕入れに出かける程の商売熱心さで、次第に人々の信用を高めていました。

太八は養父三郎兵衛が近眼に加え老齢のため書物を読み難くなると、終日の労働で疲れ切つても、毎晩軍記物語を呼んで聞かせるなどの孝養を尽しました。そのことが町奉行の耳に入り、太八は親孝行と家業精勤により鳥目明治二(一八六九)年、太八は住宅裏の小屋で少量の濁酒を造りはじめました。酒造業の始まりです。

太八は酒造蔵一棟を建設します。太八が初めて作った建築物でした。そして、その年の二月三日、長男彦太郎が誕生。その後一年おきに次男藤吉、三男和七が産声を上げました。

西 輝喜



吉村 太八翁

錢で、一貫文が1000枚で一分、四分が一両です。

慶応三(一八六七)年十月、太八は住宅裏の小屋で

少量の濁酒を造りはじめました。酒造業の始まりです。

明治二(一八六九)年、太八は酒造蔵一棟を建設しま

荒天の中「かわしり光絵巻」



『かわしり光絵巻』三景

訪れた人々を魅了してい

工芸会館の水あかり展



水あかり展

そして、四百年の伝統行事、川尻精霊流しと花火大会は例年通り15日(夜)、新町橋上流の加勢川で行われる予定でしたが、14日の日曜日から雷を伴う荒れ天候が続き、当日も大雨警



くまモン登場!



花火大会

した。

17日もぐずついた天気となりましたが、今年は熊本市の火の国まつり恒例の花火大会が中止となつたこともあり、およそ1万人の人出があり川尻の町は浴衣姿の老若男女の家族連れで大混雑しました。



伝統の精霊流し

報の発令される状況になつたため、精霊流しのみ予定どおり実施、花火大会は要々日の17日に延期して開催されました。

【発行】
川尻文化を考える会事務局
毎月1回発行
発行責任者 西 邦喜
☎ 096-358-5711
(熊本市くまと工芸会館)



小路の路あかり

ました。ところで、路あまれた8月13日、各会場で開幕、二つの会場には竹あかり、工芸品あたり合わせて9個のあかりに火が灯りました。

まモン』が登場、会場に居合わせた子供たちは大喜びで写真に収めていました。

まつた。とこうで、路あかり会場の初日には「く

ました。ところで、路あまれた8月13日、各会場で開幕、二つの会場には竹あかり、工芸品あたり合わせて9個のあかりに火が灯りました。

まモン』が登場、会場に居合わせた子供たちは大喜びで写真に収めていました。

「かわしり光絵巻」は、

今年春発生した東日本

大震災の被災者の靈を慰める『鎮魂』をテーマに

川尻精霊流し実行委員会、校区五町内・閻魔会、くまと工芸会館などが協力して行つたもの

です。水あかり展く

くまと工芸会館の水

あかり展と五町内の路あ

かり、そして今に息づく

川尻の伝統行事川尻精

霊流し、花火大会を「『かわしり光絵巻』」と名づけた。「かわしり光絵巻」は、近年にない天候不順に振り回せられながらも無事行されました。

川尻文化を考える会便り

えびすのつぶやき



川尻公会堂創立八十周年によせて

その一

吉村太八、彦太郎

明治十(一八七七)年二月、西南の役が起り、四月川尻にも戦火が迫りました。

川尻にあった三軒の酒屋は早く避難しましたが、吉村太八家では女、子供だけを避難させて主と店員・蔵の殆どが店に残って営業を続けました。

四月十二日未明、杉合村廻江の緑川岸から官軍の砲撃五十発を受けましたが、幸い町には火災が起きませんでした。しかし、一発が太八家の酒蔵に命中、屋根を貫通して土間に大穴が空きました。恐怖に戦々、その日は全員避難しましたが、翌日には再び店に帰り営業を続けます。西南の役後、熊本市内の酒

屋は殆ど兵火に焼き払われており、川尻でただ一軒営業を続けた太八の店は面白いほど繁盛しました。しかし、その頃の熊本県の清酒醸造技術は劣等で、旨い酒は筑後、灘、伏見から移入されていました。

太八は何とかして良い酒の醸造をしたいと念じていた折、明治二十(一八八七)年、つてを得て兵庫県出身の丹波杜氏を招き、灘式の清酒醸造を試みました。県下では初めてのことでの、まさに太八の大英断でした。

同時に十九歳になった彦太郎には店務一般、十七歳の藤吉には販売、十五歳の和七には醸造を分担させて仕事の習熟と効率化を図りました。当時の酒造家では、醸造に関しては杜氏まかせで、

醸造に関する知識を殆ど持ちませんでした。太八は将来の酒造家は、それではやって行けないと予見していたのでした。

明治二十三(一八九〇)年、杜氏の失敗で酒の大部分が腐敗、酔に変成しなければならない始末となりました。これを機に丹波杜氏との契約を切り、翌年から從来の杜氏、古賀寿八と和七の二人に醸造を担当させました。

江戸時代細川藩は赤酒を「御國酒」とし、それ以外の酒の製造を禁止、他藩でつくられる清酒は「旅酒」と呼ばれ細川藩への流入は規制されました。このため、明治に入り清酒の製造が許可されても熊本県内では品質の良い清酒はつくれませんでした。

この頃、熊本税務監督局に「酒の神様」と言われる野白金一氏が着任します。これを機に

西輝喜

ところで、彦太郎は明治三十八(一八九五)年に川尻町下町の廻船問屋塙鮎屋からアサを妻として迎えます。



川尻に20基前後の観光案内板



歩行者用案内サイン(見本)



矢羽サイン(見本)

これは十月七日開かれ
た川尻米蔵跡周辺事業
協議会で明らかになつた
ものです。同協議会では
川尻米蔵跡、船着場跡
の国史跡指定を受けて、
史跡の活用と史跡周辺の
整備を進めており、協議
会の開催は4回目。会
議には熊本市から仙波英
明観光振興課長、河田
日出男文化振興課長、
肝付幸治都市計画課長、
平川英司土木総務課長、
木下智弘地域づくり推
進課主管ら9人、また

野雄二朗顧問が出席し
ました。そして今年春から検討
してきた「川尻エリアの
観光案内板」設置につい
て、熊本市から具体的な
プランが提示されました。
プランによりますと
観光案内板は①歩行者
用の案内サイン、②矢羽
サイン、③広域案内サイ
ンの三種類で今年度から
順次設置が始まります。

来年度に掛けて二十箇所
前後の設置が予定され
ています。設置場所はJR
川尻駅前や県道沿いなど
です。今後、設置個数、
設置場所、サインの文言
等の協議を重ねながら、
順次設置が始まります。

会議では、史跡周辺の
駐車場整備と公衆便所
の設置、米蔵跡の利活
用、御船手渡し跡の国
史跡指定申請についても
協議されました。駐車
場、公衆便所は政令都
市指定後の事業と相まつ
ており、今後も継続して
協議する。また、米蔵
跡の利活用については、
米蔵跡地の買収が終り
次第、建物の調査に入
るが、それと平行して検
討・協議する。そして検

討・協議する。そして
の事でした。

①江戸時代の水運など
を紹介する資料館、②
ギャラリーやコンサート
ホールなどに利用できな
いなどの提案があり、
今後検討を重ねて行くこ
とになりました。さら
に、御船手渡し跡の国
指定申請は東日本震災
で「災害時の緊急対応
策」の取り扱いなどで時
間を要しているが、来年
春の文化庁の審議会に向
け申請を準備していると

川尻文化を考える会から
西輝喜会長・重田健
蔵・栗崎第一委員・荒
金鍊一・田邊正信・宅

野雄二朗顧問が出席し
ました。

ま

【発行】
川尻文化を考える会事務局
毎月1回発行
発行責任者 西輝喜
☎ 096-358-5711
(熊本市くまと工芸会館)



御船手渡し跡

川尻文化を考える会便り

御船手渡し跡を国指定に追加申請



広域案内サイン(見本)

えびすのつぶやき



川尻公会堂創立八十周年によせて

その二

吉村彦太郎

アサは実家と吉村家の空氣の違いに戸惑った。実家は三角築港が完成した明治二十年頃から漁船の仕事が減り始め、十七年の鉄道開通後、仕事は激減して家は沈んだ雰囲気だった。しかし、吉村家は活気に満ちていた。日頃、蔵の方から威勢の良い掛け声やもろみの甘酸っぱい香りが漂ってくる。女人禁制の蔵の方には行けないが、一年で最も寒い時期には「寒仕込み」が行われ、蔵人は夜でも働いています。

夕刻、遮廻(あしまわり)の吉蔵が彦太郎に「お風邪の具合は如何ですか。今夜は寒九の水汲みですから早めに帰らせてもらいます」と告げた。「酒は米・麹・水が命」という。

吉村家では洗米とか雑用水は井戸水だが、仕込み用は緑川の水を使う。その水汲みは九州山地から流れ来る水が最も清浄な朝三時頃で、柄杓で二つの大桶に汲み入れる骨の折れる仕事です。櫓や竿を使って緑川を舟で運上し、加勢川との合流点より上流の水を汲まねばならないのでした。

柱時計の振り子が五時を告げた。アサは夫の寝息を確かめると、そつと起き上がり正中島橋へと急いだ。夫に代わって、吉蔵たちの乗つた数艘の舟を出迎えるためだ。荷揚げ場にはまだ誰もない。大渡橋下は急流でしかも橋杭も多く、一番の難所と聞いている。そこに祀つてある舟神様に無事の通過を祈つてみると、桶を運ぶ荷車を曳いた蔵子たちが集まってきた。杜氏の古賀寿八の顔も見える。

帰ってきた吉蔵はアサに「旦那様」と瓶を差し出す。寒九に汲む水は服薬に用いても特効があると伝えられていました。この「アサの出迎え」は蔵子たちに知れ渡り、アサは蔵子たちの信頼を一気に得ました。

彦太郎の仕事は弟和七と妻アサの支えにより順調に伸び続け、銘酒瑞鷹酒造の基礎を築き上げます。そして、熊本県酒造組合評議員、酒造研究所相談員として酒造界の向上にも取り組みます。

そんな中、彦太郎は瑞鷹の今日があるのは地域の支援あってのことと、大正七年川尻小学校運動場拡張のための土地一反九歩を寄贈、その上小学校の建築費・備費等々に多額の寄付をしました。

ところで、川尻町商工会は明治四十三年、町役場内に事務所を設け、伝統産業の振興、販路開拓のための共進会、講習会等を企画、会場は浦島劇場や小学校の教室を借りて行つてい

ました。このことをとても気に掛けていた彦太郎は、昭和五年病の床に臥し、「町のための公会堂建設」を遺言して長逝した。(享年六十二歳)

感動した町の人々は「彦太郎の遺徳を永久に伝えるため、公会堂の敷地内に懷德碑を建立しました。その碑文に『富は屋(おく)を潤し、徳は身を潤す』とあります。まさに至言です。

共進会は公会堂の使用を契機に更に販売が伸び、工芸のまち川尻の声価を高めたことはいうまでもありません。



川尻公会堂前の懷德碑



吉村彦太郎 翁

歴史資料館に、船の科学館に、川尻の民俗館に… 国史跡米蔵跡の利活用会議始まる



国史跡川尻米蔵跡

川尻文化を考える会では、米蔵跡、船着場跡、史跡周辺の駐車場整備と公共交通機関の利便性の改善、米蔵跡の利活用、御船手渡し跡の国史跡指定申請について協議を重ねていますが、この中で、米蔵跡の利活用については、米蔵跡地の買収が終わり次第、建物の調査に入るため、平行しての検討・協議が求められています。

そして、十一、十二月の会議で①江戸時代の水運などを紹介する資料館、②ギャラリーやコンサートホール③船の科学館

フェイス学院高校跡に市教教育センターを開設

百有余年の歴史に基を
開いた竹崎順子女史創設
フェイス学院高校跡に市教
育センターを開設

十一月十五日の陳情文には、荒金謙一、島田直衛
両自治会連合会長らが熊本
市を訪問、「熊本市千葉城町にある今の市教育セ

の熊本フェイス学院高校の跡地については、幾つかの利用が考えられます。歴史と史跡また文教地区として知られる川尻・城南校区両自治会連合会は、この熊本フェイス学院高校跡地に来春政令都市になる熊本市の教育センターの設置を求めるものです。



川尻米蔵跡内部



川尻・城南校区自治会の陳情

の熊本フェイス学院高校の跡地については、幾つかの利用が考えられます。歴史と史跡また文教地区として知られる川尻・城南校区両自治会連合会は、この熊本フェイス学院高校跡地に来春政令都市になる熊本市の教育センターの設置を求めるものです。

応対に当たった廣塚昌子教育長、岡昭二企画財政局長は「皆さんの要望と一定の理解を示しました」と一定の理解を示しました。

情書は市長に渡します」と一定の理解を示しました。

川尻文化を考える会事務局 毎月1回発行 発行責任者 西 邦喜 ☎ 096-358-5711 (熊本市くまもと工芸会館)



内塔の移設要請」があつた
内塔は、荒金謙一、島田直衛
両自治会連合会長らが熊本
市を訪問、「熊本市千葉城町
にある今の市教育セ

内塔アーリー前の壁が室内板張りを
内塔アーリー前に移設を検討
これは「川尻エリアの観光案内版設置」をすすめている熊本市観光振興課が明らかにしたもので

たということです。熊本市では同銀行敷地内での移設を要望しましたが、現段階では店舗建設に支障があるとのことで、川尻の陸の矢闇口、JR川尻駅前の緑地帯の中に移設を要望しましたが、現段階では店舗建設に支障があるとのことで、川



イラストマップ

えびすのつぶやき



伝統産業の町川尻の諸識

鍛治 その一

鍛治は室町時代の応仁年間（一四六〇～一四六九）に薩摩の刀工、波平行安が、焼き入れに使う良質の水を求めて各地を訪ね歩き、川尻の水を得て当地で刀鍛冶を始めたのが起源と伝えられています。

伝承によれば川尻の横町天満宮北側に刀工の祠（神を祀った社）があり、その付近から波平行氏の名を刻んだ石灯籠と無数の金屑、使い古した「ふいご」などが発見されたといいます。なお、石灯籠は、鍛冶の上達を祈願したもののです。

川尻町横町
（弟子入り）

高等小学校を卒業（一四歳）すると伝を頼りて弟子入りを希望する「徒弟制」でした。弟子入りが決まると親は酒一升と手土産を持ち、子供を連れて親方の家を訪ねて、親方と約束固めをしました。これは本人に厳しい修行の自覚を促す儀式でした。

その日から始まる親方と弟子



川尻町横町

の主従関係は年季明け後も長期に亘るのが通例でした。昔の年季は技術の習得が目安でしたが、昭和期になると年季はほぼ五年で「微兵により年季明け」とするのが一般的となります。

年季の間は無給で、時々小遣い用具を作り、商港川尻の盛んな水運とともに発展します。

（専門分野）

鍛治はそれぞれの専門業者に分かれています。昭和初期一七軒のうち刀鍛冶・燐鍛冶・野銀治（農具を中心）・包丁鍛冶・船釘・大工釘・馬車・蹄鉄などの分野がありました。

（弟子の仕事）

鍛冶屋の仕事は普通朝の八時頃から夕方六時頃まででしたが、新入りは皆より一時間程早くから仕事場の掃除、水床の水替え、炭割り（ほど）（火床）の火起しなどをして親方や兄弟子を待つていなければなりませんでした。

仕事が始まれば、包丁や鎌などの柄作り、刃物研ぎ、水汲みと休む暇は無く、その合間に親方や先輩たちの仕事を覚えていく「鍛治は見て技術を覚える」の生活でした。

真つ赤に熱した玉鋼を小槌（親方）大槌（兄弟子）で交互に打ち鍛えるさまに目を走らせる。仕事場は薄暗い。暗くしている

のは、焼き入れの火の色を見るため。温度は鐵の焼けた色で見る。鍛治は経験と勤が頼りで、焼き入れには全神経を使うといふ。

昔の「火床」には松炭が使われ、宇土半島や天草から船で船着場に運ばれて来ていました。炭には大小あるので、大きい物を割つて粒揃えをする「炭割り」という仕事もありました。

しかし、燃料は明治二十七（一八九四）年、鐵道が敷かれるといより熱量の高い石炭を使うようになります。河尻神宮前にあつた葦原商店が三池の石炭を貢車で注文し、駅から馬車に積替えて配達していたといいます。

西輝喜



川尻鍛冶発祥の地（横町天満宮境内）

国史跡「熊本藩川尻米蔵跡」の利活用について、これまで協議検討が重ねられてきましたが、二月二十二日開かれた会議で、これまで提案のあつた①戸時代の水運などを紹介する資料館②ギャラリー③船の科学館④川尻の歴史・民俗資料館、また、熊本市の博物館分館構想などについて話し合いました。そして、これらの提案を協議して、



国史跡川尻米蔵跡



御船手渡し場跡

また、御船手渡し場跡の国指定追加申請は、今月文化庁に申請されました。これにより、今後文化庁の審議会で審議される見通しとなりました。



川尻米蔵跡内部

た結果、今後川尻米蔵跡周辺事業協議会で「船の博物館(仮)」を骨格とした川尻米蔵跡の利活用を推進進めることになりました。

今後、周辺事業協議会で検討

国史跡米蔵跡の利活用

川尻文化を考える会便り

【発行】
川尻文化を考える会事務局
毎月1回発行
発行責任者 西 邦喜
☎ 096-358-5711
(熊本市くまもと工芸会館)



第1回 熊本城マラソン

川尻路を走る



瑞應寺前



くまもと工芸会館前

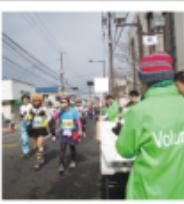
北部九州は雪、熊本県内も阿蘇など山間部では積雪を記録するこの冬一、二番の寒波に見舞われた二月十九日早朝、県内外から参集した一万人近くの老若男女が熊本城内二の丸広場を埋め尽くしました。熊本市が政令市都民移行を記念して行つた熊本城マラソンに参加する人々が川尻町では、随所で老人会、子ども会、婦人会、かわいりひよっこ愛笑会、川尻をどりの子供、商店街連合会などの方々がランナーたちを熱烈歓迎しました。県道沿いの肥後銀行川尻支店駐車場前では寒風を衝いて疾走するアスリート、あるいは自己PR満点のコ

そして、川尻や飽田地区の南部一帯を回る四十ニ、一九五キロのフルコースに分かれて健脚が競われました。フルマラソンの参加者たちはルネサス・セミコンダクタ九州・山口の西側を走って、九州新幹線高架橋の下をくぐりぬけ川尻町に入りました。川尻町に入りました。これにより、今後文化庁の審議会で審議される見通しとなりました。



九州新幹線架橋下

そして、校区体協、婦人会、川尻文化を考える会、七町内等が「史跡の町、川尻によこそ」と町のPRを兼ねた横断幕を設置して、町民が一体となって熊本城マラソン大会を応援、熱気で寒風を吹き飛ばした一日でした。



肥後銀行川尻支店前

えびすのつぶやき



伝統産業の町川尻の諸職

鍛冶 治 その二

柄作りは弟子だけの仕事ではない。子供や女が材料の皮を剥ぎ、後は全員暇をみては手分けして作つた。鍛の柄は櫻、鎌包丁は松、椎などで富合、城南、宇土半島の山から取り寄せていた。

昔は「ろくろがな」がなかつたので、短い柄の鎌や斧などで削り揃え、後は鉋で仕上げる。その切り屑や削り屑は、火床の火起しに使つて、鐵の柄などは曲がつて堅く工作中に難渉していた。後ではその専門の店、鍛形屋が横町に開業したので、皆はその店へ注文をしていた。道具の鏝(ふい)二(ふい)は大阪へ注文していたが、ビストンは狸の皮を指定していった。他の動物の皮では空気漏れが速いからでした。大正七(一九一八)年頃からモーターで風を送るようになつた。それで送風機が音場、轄に代わって送風機が音場、

砥石も動力で回すようになり刃物研ぎも簡単になつた。終戦後の昭和二十一年頃ベルトハンマーが導入されると、特別品でない限り向こう極(大極)もいらなくなつた。

鍛冶用具は鉋、小槌、大槌、金床、万力、ヤスリ、鎬(たがね)、水桶、水床、砥石(荒砥、中砥、仕上げ砥)などである。

* 銛景気

昔の釘材料は和鉄(砂鉄)で島根地方から購入していた。長さ約一尺五寸(四五、五センチ)、横幅三、四寸(一〇、一二センチ)、厚み一、三分(六・九ミリ)ほどの短冊形の鐵板です。この鐵板を切り割つて釘を作るから、大変な手間がかかつて、江戸末期から南蛮鉄が入手できるようになる。この鉄は線状になつており、一本一本切れば簡単に釘が作れた。このため釘専門の銀治屋は蔵を建てたとの話

が残っている。明治以降は八幡製鉄所の鉄を購入するようになつたが、これを洋釘と呼んでいた。

川尻刃物の特徴は硬い鋼を柔らかい軟鋼で挟み込む「割込鍛造」です。硬軟二種の鉄の塊が火床(ほと)の中で真つ赤に焼けると、鉄で金床に移し、大槌、小槌で交互に叩き不純物を除きながら、硬い鋼を軟鋼で鍛み形を作つていく。少し色が褪めたら、水床に浸して再び火床で焼く。形作りの作業を幾回となく繰り返し、最後は硬鋼の部分の刃先にヤスリをかけ、木製の柄を取り付けて完成する。一人一日の製作量は、鉋三本、鎌一二三本、包丁六本程度だったといふ。

* 鍛冶屋の風習

① 本立寺境内の三十番神堂は横町の人々が火災予防に島原の護国寺から勧請した神様で、毎日を交代で護る三十二神が祀られている。

② 女性は横座(仕事場で親方が座る場所)に近づいては

ならない。(禁錮)

③ 大晦日は午前中で仕事を終え、掃除、道具類を清め、荒神様を祀る。そして、火

を灯して一年間の無事を感謝し、来る年の安全を祈願する。家の門口や煙突には、注連縄を張り歳神を迎える。

(4)

一月二日は初仕事。朝二時頃起きて荒神様を拝み、一年間神棚に供える「かざり剣」を作る。その後得意先から頼まれた用具の製作に取り掛かる。「初仕事で作つた物は縁起がよい」と言つて早朝から購入に訪れた客を酒肴で接待する。仕事は午前中で終え、弟子たちは午後から里帰りして五日まで休みとなる。

(5)

十一月八日は仕事を休み「火の神様祭り」をする。縁祭と呼ぶこの日は、夕方集まる群衆に親方、弟子たちが屋根から魔払いの密密投げを行い、その後得意先を招いての酒宴を催す習慣であつた。

渋谷氏川尻米蔵跡を熊本市へ寄贈 熊本藩川尻米蔵跡の二棟



国史跡川尻米蔵跡

川尻外城にある御蔵は、一昨年八月五日、「熊本藩川尻米蔵跡」として国の史跡に指定されました。所有者の渋谷博司氏は、御蔵の文化財的価値が高いことに理解を示され、土地の売却を踏み止まれて、これまで川尻米蔵跡を考慮する会の会員となり御蔵の保存活動を続けてきました。熊本市に寄贈しました。

西南の役
薩軍戦没者の慰靈祭
慰めがね

西南の役は、明治十一年(一八七七)の西南の役に従軍し、川尻などで亡くなつた薩軍兵士を祀つてゐる川尻五丁目の延壽寺で四月八日執り行われました。

今後、二棟の建物は修復のための調査が行われた後、修復作業に移ります。ただし、熊本市の御蔵の土地買い上げに伴い、渋谷氏が川尻米蔵跡二棟を三月熊本市に寄贈しました。



川尻米蔵跡内部



延壽寺

今年で九十七回目を迎える慰靈祭は、関係者八十人が参列して行われました。

今年度の調査予算ですが、今年度の調査予算が組めなかつたことから、修復作業は一年近く先送りされる見通しです。



延壽寺

名称変更
「川尻文化の会」へ
名称変更
平成二十年春、歴史遺産を有効活用して川尻古の賑わいを取り戻そうと有志が集まりました。二十年九月には、この有志たちを中心とした「川



川尻町横町

熊本三州会(熊本県在住の薩摩・大隅・日向出身関係者の会)の柏木会長が、この地で亡くなつた薩軍兵士の靈を慰めるとともに、慰靈祭の日には玄関先に国旗を掲げています。天台宗比叡山延壽寺の末寺、延壽寺には西南の役で戦死した薩軍兵士八五三名が眠つており、薩州墓として広く知られています。当時の住職伝弘応師が「戦名を蒙つて祀られるのが僧の務め」と寺領を提供して薩軍兵士を埋葬、用いました。

今年で九十七回目を迎える慰靈祭は、関係者八十人が参列して行われました。今年度の調査予算ですが、今年度の調査予算が組めなかつたことから、修復作業は一年近く先送りされる見通しです。

川尻文化の会は、これまで川尻米蔵跡の利活用などに取り組んでまいりました。そして、四月十八日開催された川尻文化を考究する会の総会で、会の当初目的が達せられたことを踏まえ、会則の改正を行ふとともに、今後「川尻米蔵跡の利活用」や「川尻米蔵周辺整備」「川尻美術館構想」等の早期実現をはかるため、専門知識を有する方々の入会をすすめ「川尻文化を考える会」の名称を「川尻文化の会」と改め、再出発することになりました。

なお、川尻文化を考える会と熊本市との間で行われている「川尻米蔵跡周辺整備の交渉を行ひ、一部委員の交代を行ひ、本市の人事異動議事を踏まえ、本市の事業異動議事を踏まえ、今年度の川尻エリアの観光案内版設置等を話し合うことになつています。

川尻文化の会便り

【発行】
川尻文化の会事務局
毎月1回発行
発行責任者 西 勝喜
☎ 096-358-5711
(熊本市くまと工芸会館)



御船手渡し場跡を追加指定へ 国指定史跡「熊本藩川尻米蔵跡」



御船手渡し場跡

十五日、熊本市南区川尻にある御船手渡しを「国指定史跡熊本藩川尻米蔵跡」に追加指定するよう文部科学大臣に答申しました。

南区川尻町は藩政時代、年貢米の集積地として、また藩の軍港として栄え、その歴史遺産が数多く残っています。そして史跡の中で、年貢米を収納した「外城蔵跡(二棟)」、川藩の軍港として使われた「御船手渡し場跡」を

積み出しました。「船着き場跡(十四段積み・百五十メートルの石段)」は、関係者の努力によって、平成二十二年八月熊本藩川尻米蔵跡として国指定史跡(文科省告示第百一十三号)になりました。

川尻文化の会(当時、川尻文化を考える会)で

は、この国指定史跡に船

着場跡の下流にあり、「川藩の軍港」として使われた「御船手渡し場跡」を

追加指定するよう米蔵跡周辺事業協議会(熊本市関係部署と川尻文化の会で構成)等を通して要望してきました。この「御船手渡し場跡」の追加指定は、今度は、川尻文化の会でまとまりましたので、会議に

かれた川尻文化の会でま

とまつたもので、川尻文化の会で

大きく関係するため、川

尻文化の会と熊本市の各

部署で構成する「御蔵周辺整備事業協議会」の場

で検討して行くことにな

りました。

【発行】
川尻文化の会事務局
毎月1回発行
発行責任者 西 郁喜
☎ 096-358-5711
(熊本くまと工芸会館)



米蔵跡の利活用は 市との協議会の場へ



国史跡川尻米蔵跡



川尻米蔵跡(外城蔵跡)内部

これは六月二十一日開催された川尻文化の会でまとまりましたので、会議には、熊本市文化振興課の松石課長、原田課長補佐らが出席。御船手渡し場跡の国指定追加の見通しには選定される見込みで、それを説明しました。続いて、外城蔵跡(二棟)の利活用の協議に移りましたが、利活用の策定は文化振興課だけの意見を基に協議されるものでは

なく、観光振興課なども大きく関係するため、川尻文化の会と熊本市の各部署で構成する「御蔵周辺整備事業協議会」の場で検討して行くことになりました。

川尻文化の会と崇城大学は学地共創センターにて開催された協議が進められてきた双方が持つ「不特定ワークと情報」、「知的財産と人的資源」の交流と活用の連携協力内容がこのほどまとまりました。これによりますと、川尻文化の会と崇城大学は「研究者・学生の研究交流」「技術相談・イノベーションの創出」「歴史遺産の保存と活用」等の連携を行い地域社会貢献を行いううものです。この協定は近く調印式を行



崇城大学

崇城大学との 連携協力へ

復のための調査、翌年から修復工事の運びで工事終了までには約四年余歳月を要しますが、修復の答申を経て、九月までには選定される見込みで、それを説明しました。続いて、外城蔵跡利活用の基本構想が求められており、今年八月までにはその骨格をまとめる必要があり

えびすのつぶやき

伝統産業の町川尻の諸職



川尻桶 その二

材料
桶の材料は板目である。昔の材料は板目である。昔は吉無田官山の八十年物の杉古木を使っていたが、材料の枯渴で和歌山産の「さわら」、木曾産の桧(ひのき)を購入した時であった。しかし、それは一時の矢部、人吉方面の製材所からの取り寄せが殆どとなつた。

材料の杉は八十年物、さわらは百年物でないと良い製品にはならないと言われていた。

度と減つていて。

手の付いた木製の手桶で水汲みをしていったのが、

製品
明治時代まで総ての桶

はすし桶・湯桶・酒樽程度と減つていて。

度と減つていて。

手の付いた木製の手桶で水汲みをしていったのが、

製品
明治時代まで総ての桶

はすし桶・湯桶・酒樽程度と減つていて。

度と減つていて。

手の付いた木製の手桶で水汲みをしていったのが、

製品
明治時代まで総ての桶

はすし桶・湯桶・酒樽程度と減つていて。

度と減つていて。

手の付いた木製の手桶で水汲みをしていったのが、

製品
明治時代まで総ての桶

パリキや合成樹脂の軽い

削る)・内ゼン(内側か

も上げる。

お礼をいい、来る年の福徳を祈る。恵比寿さんを祀る神棚にも同じである。なお、元旦から三日まではお雑煮

供を駆走し、取引先の商店主を招待していた。

木製品の将来

昭和二十年代末より石油化学製品に押され、木製品は次第に寂れて行つた。今は、徒弟はおろか

桶削り(材料を割る)・

板削り(材を割る)・

正直(しようじき)鉋(が

んな)(正確に接着させ

だんぎり鉋(丸切り)・

内鉋・外鉋・底回し鉋・

金敷・錐などが主な道具

である。

仕事始め

元旦の夜から二日の朝までに、研ぎ水入れの内鉋・外鉋・底回し鉋・金敷・錐などが主な道具である。

桶・お櫃などを親方の指

示で作る。お櫃は普通一

日に十個ほど作るが、こ

の朝は六個で終わる。全

員が作り終われば酒肴が

出て、十日までの正月休

みとなる。

西輝喜

恵比寿祭り

桶屋祭りとしては特別

ではないが、桶屋は福の神、商売の神の一エベツサンを信仰している。

エベツサン祭りの十一月

二十日は休業で、床の間

に鳥帽子をかぶつて綱を

釣り上げている恵比寿様

の掛軸を掛け、鰯、お神

酒、ミカン、柿などを供



国史跡川尻米蔵跡は来年から改修調査へ



第5回川尻米蔵跡周辺事業協議会(7月30日)

国史跡の利活用、史跡整備等を話し合う「第五回川尻米蔵跡周辺事業協議会」が熊本市役所で開かれ、熊本市から木下修一観光文化交流局次長、仙波觀光振興課長、福原土木総務課長、杉田都市政策課長補佐、南区課長、松石文化振興課長、重田会員、田辺市議、宅野工芸会館館長らが出席しました。

会議では、国史跡川尻米蔵跡について熊本市側から「来年度から改修の用意を取りまとめる方向になりました。これまで、改修の実施に向けた取り組みとして話し合われ、改修の実施が決まりました。また便所は熊本城マラソンのことを考えても早く設置すべきとの意見が出され、便所については米蔵跡周辺の案、駐車場については「多目的広場を拡張して欲しい」などの要望がありました。

そこで、昨年から順次設置が行われている川尻地区の案内看板(サイシン)は「今年度も道路管理者と自治会関係者と協議して実施したい。設置場所の案内看板(サイシン)は、今年度も道路管

理者と自治会関係者と協議して実施したい。設置場所から案内看板(サイシン)を設置するが、川尻文化の会から木下修一観光文化交流局次長、仙波觀光振興課長、福原土木総務課長、杉田都市政策課長補佐、南区課長、松石文化振興課長、重田会員、田辺市議、宅野工芸会館館長らが出席しました。

会議では、国史跡川尻

米蔵跡について熊本市側

から「来年度から改修の用意を取りまとめる方向になりました。

これまで、改修の実施に向けた取り組みとして話し合われ、改修の実施が決まりました。また便所は熊本城マラソンのことを考えても早く設置すべきとの意見が出され、便所については米蔵跡周辺の案、駐車場については「多目的広場を拡張して欲しい」などの要望がありました。

そこで、昨年から順次設置が行われている川尻地区の案内看板(サイシン)は、「今年度も道路管

川尻文化の会便り

【発行】
川尻文化の会事務局
毎月1回発行
発行責任者 西 駿喜
☎ 096-358-5711
(熊本市くまと工芸会館)



地域住民の意見を尊重 「川尻公会堂」の今後の運用、

これは、七月三十日熊本市で開かれた「川尻米蔵跡周辺事業協議会」の席上、熊本市が明らかにしたものです。年間三百日近くの利用がある川尻公会堂は老朽化が著しく、さらに耐震強度もないうえ、早急な代替えあるいは全面的な改修が求められています。このため、昭和五十二年、平成十六年、老朽化・台風被害に際しての改築案について自治会、寄贈者は現状保

存を要望。平成十九年、コミセンへの転用案が出るものの「転用は困難」と判断される。平成二十一年から陳情してきた川尻コミュニティセンターの建設の要望も勘案して、川尻公会堂を今後どのようにするかを決定するが、文化財の指定基準を満たしていないとの結論がでています。

本市では、大改修等三つの計画案を策定、近く校区自治協議会に説明し、地域住民の要望を反映させたいとしています。

*川尻公会堂
昭和六年、瑞慶酒造の吉村彦太郎翁が町振興のために現在地に建設、川尻町に寄贈。昭和十五年、



吉村彦太郎翁



川尻公会堂

崇城大学と川尻文化の会が連携協力



西会長と塩谷捨明センター長

川尻文化の会と崇城大学との間で協議が進められ、既に双方が持つ「ネットワークと情報」、「知的財産と人的資源」の交流と活用の連携協力がまとまり、9月14日調印式がありました。

（崇城大学地元共創センター）は、「研究者・学生の研究交流」、「技術相談・イノベーションの創出」、「歴史遺産の保存と活用」等の連携を行い、地域社会貢献を行うというものです。

調印式には、崇城大学地域共創センターから塩谷捨明センター長（副学長）、永松俊夫副センター長、永松俊夫副センター長、塩谷捨明センター長（副学長）、本間康夫デザイン学科長ら六人が、川尻文化の会からは西郷喜会長、西橋勇副会長ら五人とオブザーバーの国文省総川下流地区所長、南区役所南部出張所所長、南部公民館館長、くまもと工芸会館館長ら合わせて九人が出席しました。そして、西会長と塩谷捨明センター長が調印を行った協定が結ばれました。



調印式

川尻文化の会は、平成二十年春準備会が発足、同年九月二十一日「川尻文化を考える会」として船出しました。会では川尻の歴史遺産を国重文に「を含め活動を続け、二十二年八月には船着場跡と御蔵が国史跡に指定される見通しが付きました。そして今後は川尻米蔵跡の利活用の検討、米蔵跡周辺事業の推進、崇城大学との連携協議、熊本市との協議など重要な事業、関係機関との協議が目白押しとなることを受けて、新体制でこれらに対応することになりました。

西会長に荒金鍊一氏を選出

西氏は名誉会長

西郷喜会長は川尻米蔵跡の利活用について、新会長に荒金鍊一氏、副会長に西橋勇氏、また、事務局長には杉本信一氏が選出されました。



御船手度し場跡

川尻文化の会便り

【発行】
川尻文化の会事務局
毎月1回発行
発行責任者 西 駿喜
☎ 096-358-5711
(熊本市くもと工芸会館)



今後、双方は連携して熊本藩川尻米蔵跡の利活用や駐車場、便所、案内標識等の周辺整備事業、さらには崇城大学の芸術

学部学生に活動の場を提供できないかを模索しながら川尻美術館構想の実現に向けて始動し始めます。

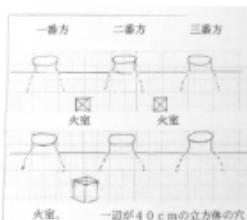
えびすのつぶやき

伝統産業の町川尻の諸識

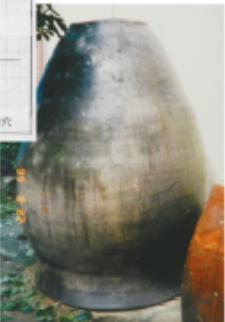
染物 その二

藍甕(あいがめ)

藍甕は、高さ一メートル三十三センチ、胴回り二メートル七十七センチ、口径八センチ程の陶器です。この藍甕の口部を十分に埋め込みます。そして「藍を出す」と言つて、藍甕と藍甕の中間に、しかも地中に埋め込んだ火(ひ)室(むろ)で鋸屑を燃やします。藍甕は一年を通じて温度が一定していなければなりません。この温度を保つことを「守りする」という程ゆるがせにはできない大切なことです。その温度は門外不出とされ、その店主の「秘伝」でし



藍甕の配置と火室



向井染物店の藍甕(八幡町)



肥後紺(ひごがすり)

午の節句前には、出世魚の鯉にあやかっての真鯉、絆鯉、子鯉の注文が相次ぎ、武者絵の染め抜き、名前旗等の作成と併せて日夜仕事に追われたといいます。

七(一九八二)年には姿を消してしまいました。貴重な動力織機、力(りき)織機は今は残念なことです。

川尻音頭に肥後かすりが謳われていますので紹介します。

三、さあさあ

あなたも

川尻名物、酒桶刃物

川尻音頭ヤレソレソレ
あの娘かわいい
肥後かすり

川は加勢川みどり川
みどり川

川は加勢川みどり川
みどり川

西輝喜

藍甕は従業員一人に三枚り染めと思われがちで本、予備の一本を加えて四本を受け持つのが一般的でした。従つて大店で五十本、小さい店で二十本は備えていたようですが、紋り染めには沢山の技法があり、特に図柄(模様)作りは苦労の多いものでした。なお、染色業の最盛期は大正末から昭和中頃ま

で、藍甕は從業員一人に三枚り染めと思われがちで本、予備の一本を加えて四本を受け持つのが一般的でした。従つて大店で五十本、小さい店で二十本は備えていたようですが、紋り染めには沢山の技法があり、特に図柄(模様)作りは苦労の多いものでした。なお、染色業の最盛期は大正末から昭和中頃まで

藍染めといえば単純な藍甕は従業員一人に三枚り染めと思われがちで本、予備の一本を加えて四本を受け持つのが一般的でした。従つて大店で五十本、小さい店で二十本は備えていたようですが、紋り染めには沢山の技法があり、特に図柄(模様)作りは苦労の多いものでした。なお、染色業の最盛期は大正末から昭和中頃まで



世界に発信できる「川と船と米の文化」を —国史跡川尻米蔵跡の利活用—



国史跡川尻米蔵跡(外城蔵)

熊本市南区川尻の国史跡熊本藩川尻米蔵跡（御蔵跡・船着場跡・御船手渡し場跡）の利活用、同史跡周辺の整備を協議している川尻文化の会の会議が、樂城大学関係者を交えて十一月二十一日開かれました。会議ではこれまで提案のあった「御蔵の利活用案」六件が説明されました。この利活用案は、今まで提案のあった「御蔵の利活用案」六件が説明されました。

本格的な調査に入る。件の利活用案は十分理解しているが、国史跡として難しい提案もある。提案として早く取りまとめたい」との見解を示しました。

会議には文化の会と地元漆原一宣芸術学部長が出席。漆原教授は、「御蔵等の史跡を点で捉えず縦、面で捉えて川尻の位置付けをどうするか。また交易の窓口としての川と船、そして米の文化を広く世界に発信することが必要である。そのためには、地区住民がみんな同じ知識を共有しなければならない」と提言しました。

また、昨年度から川尻町の道路等に觀光案内版の設置が行われているが、今年度も歩行者用の矢羽サイン」とバス停近くの「案内サイン」が順次設置されることなどが報告されました。この中で車両用の案内板は歩道上の設置が難しいため、現在熊本市で設置方策を検討していることも説明されました。

これらの五棟はいずれも明治後期に建てられた木造建築で、瑞鷹本社の同社倉庫、同社社長邸の

熊本市景観審議会はこのほど熊本市南区川尻四丁目の国道3号線熊本鹿島線沿いに並ぶ瑞鷹株式会社本社（旧醸造所）、同社の倉庫（旧大崎屋醸造店）と隣接する同社の吉村浩平社長邸を景観法に基づく「景観重要建造物」に、また瑞鷹本社の南側にある瑞鷹酒蔵資料館と設計事務所として使用されている蔵二棟を市条例の「景観形成建造物」に指定するよう熊本市長に答申しました。



酒蔵資料館

三棟は1995年に熊本市の景観形成建造物に指定されました。近く行われる見通です。今後、川尻四丁目の川尻四つ角から川尻三丁目の明善寺前（瑞鷹株式会社前から国史跡熊本藩川尻米蔵跡・御船手渡し場跡）までは「川尻の歴史・史跡ロード」として大きく脚光を浴びることになりそうです。

川尻文化の会便り

【発行】
川尻文化の会事務局
毎月1回発行
発行責任者：荒金謙一
☎ 096-358-5711
(熊本市くまと工芸会館)



瑞鷹本社など五棟を重要形形成建造物に

熊本市景観審議会が答申



瑞鷹株式会社



瑞鷹本店

三棟は1995年に熊本市の景観形成建造物に指定されました。

えびすのつぶやき

「御船手渡し場跡」



国史跡指定 その一

時代区分に鎌倉時代から室町時代にかけての狭間に南北朝時代があります。この時代から室町時代にかけての最大の軍記物が「太平記」で、全四十巻もある膨大な読み物です。そのごく一部を紹介します。

足利利直（ただふゆ）という人物は足利尊氏の長男として生まれましたが、母の身分が低かつたため仮門に入られようとするところを草氏の弟、直義（ただよし）が憐み、自分の養子として育てます。しかし、草氏と直義が仲たがいを始めたことから直冬は実父草氏を敵に回すことになります。いわゆる親応（かんのう）の擾乱（じょうらん）です。

（現在の広島県）の鞆津（ともりつ）（鞆津）として備後（現在の広島県）の河尻幸俊（なのはせゆきしゅん）の七代城主河尻幸俊（なのはせゆきしゅん）の手先に襲撃されます。押し寄せた來軍勢は二百余騎。弓矢で必死に防戦を続けます。いわゆる親応（かんのう）の擾乱（じょうらん）と船を寄せて直冬を招き



国史跡川尻米蔵跡（御船手渡し場跡）

萬里漂白の愁、一葉扁舟の憂思、涙駆衣袖朽ちて涙忘るり……と「太平記」は思い入れたっぷりに物語っています。貞和五（1349）年九月のことです。文中、「瀬の鳴戸にさして行く船は」とあります。鳴門は四国徳島県北部で、鞆津から西行する場合、潮の流れが速い来島海峡を避けて、伊予の港を経由して行くルートが古代から有力な航路として存在していたようです。太平記には記述はありませんが、四国を経由して無事川尻の港こそ「御船手渡し場跡」と考えられるのです。それでも幸俊はなぜ鞆津に居合わせたのでしょうか。当時の全国を見渡すと、地からすれば、肥後國の一人國人（鎌倉時代の地頭、領主）に過ぎない河尻幸

俊が足利直冬を招いたのです。苦戦を強いられていたとはいえ見も知らぬ人物の船に直冬が乗ったことは考えられず、以前両者はなんらかの接触なり接点があつたと思われます。



西
輝喜

知人から頂いた資料によれば貞和二（1346）年三月二十四日、藤原氏女（女は娘のこと）と「川尻肥後守」との間で、京都高辻高倉東南の地が現金二十貫文で三ヵ年間の貸借契約がなされています。川尻肥後守とは幸俊と考へて間違ひありませんが、「肥後守」補任の資料は見当たりません。貸借の地所から北に上つた高倉小路に直義の館があり、さらにはすぐ北の二条高倉小路には草氏の館があつたのです。

川尻月間の二、三月に米蔵跡見学会 ～国史跡川尻米蔵跡の利活用、周辺整備～

熊本市南区川尻の国史跡熊本藩川尻米蔵跡(米蔵跡・船着場跡・御船手渡し場跡)の利活用、同市で利活用の青写真(マスター・プラン)を作成して欲しいとの要望が出されました。これに対し、市側から来年度予算の折衝、市長査定、市議会等をクリアしなければならず、現段階での即答は難しいとの見解が示されました。

これはこれまでの「御蔵の利活用案」を総括して「避けは通れない経費、運営問題等があるため、熊本市民のための調査が一年間にわたって行われ、再来年度からの本格的な修復作業が終了するまでの合せて約五年間は内部に入ることが出来ません。このため国史跡を管理している熊本市と協議した結果、川尻月間開催中の二十五年二月二十四日、三月三日(いずれも日曜日午後一時)に米蔵跡の内覧見学会が許可されました。説明には南部歴史研究会の会員が当たりますが、この機会に「地区住民の歴史認識の共有」という観点からも住民の方々は勿論、小学・中学校の児童・生徒、先生方の見学を是非お勧めいたします。

096-3550-5711
川尻月間実行委員会まで



国史跡川尻米蔵跡(外部)



国史跡川尻米蔵跡(内部)

川尻文化の会便り

【発行】
川尻文化の会事務局
毎月1回発行
発行責任者：荒金健一
☎ 096-358-5711
(熊本市くまと工芸会館)



瑞鷹本社など五棟が 重要・形成建造物指定に



瑞鷹株式会社

熊本市景観審議会が熊本市南区川尻四丁目の瑞鷹株式会社の本社(旧醸造所)、同社の倉庫(旧大嶋屋醸造店)と隣接する同社の吉村浩平社長邸を景観法に基づく「景観重要建造物」に、また瑞鷹本社の南側にある瑞鷹酒蔵資料館と設計事務所として使用されている蔵のシンボルロード」としての指定で川尻四つ角から国史跡熊本藩川尻米蔵跡・御船手渡し場跡)までは「川尻の歴史・史跡のシンボルロード」として大きく脚光を浴びるになりました。



酒蔵資料館



瑞鷹本店

国史跡指定 その二

川尻の館に直冬を迎えた幸俊は、直ちに対立関係にあつた阿蘇社に、所領寄進をちらつかせながら尊氏・直義の恩災と直冬の目的成就の願を立てます。その願文でも幸俊は肥後守を称しています。これは勿論直冬から授けられたものです。もつとも直冬は「幕府の命を受けてきた」と言いつらし、近隣の武士たちを味方にするため、手形を乱発しています。河尻氏と連合関係にあつた詫摩宗直も筑後守護職に補せられました。

観応二(一三五一年)二月、中央では尊氏と直義が和睦すると言冬は九州探題に任命され、公的に入り、征西府が菊池氏への一連の動きはライバル菊池氏への対抗意識があつたのであります。それ

は尊氏の息災と直冬の目的成就の願を立てます。その願文でも幸俊は肥後守を称しています。これは勿論直冬から授けられたものです。もつとも直冬は「幕府の命を受けてきた」と言いつらし、近隣の武士たちを味方にするため、手形を乱発しています。河尻氏と連合関係にあつた詫摩宗直も筑後守護職に補せられました。

この一年半前、亡き後の尊氏は和親と直義の娘の良(かねよし)親王が肥後に入り、征西府を掌握してしまいます。幸俊は菊池に誕生してしまいます。幸俊の立場を失つた前九州探題の一族範氏は南朝方に走り、新たな対立が生まれるのであります。

えびすのつぶやき

「御船手渡し場跡」

です。

故北朝方にも、南朝方にも付いていない武士を集めまして。

幸俊の思惑通り、中央の貴種直冬の名声と幸俊の交易による資金で大勢力に成長の兆しが見え始めてます。

一方、少弐勢は南朝方の菊池を攻めるが肥後国

殺されると事態は急悪しく、直冬の勢威は一気に衰え、一色軍に追われ中国へと去ります。

一方、少弐勢は南朝方の菊池を攻めるが肥後国

殺されると事態は急悪しく、直冬の勢威は一気に衰え、一色軍に追われ中国へと去ります。

一方、少弐勢は南朝方の菊池を攻めるが肥後国殺されると事態は急悪しく、直冬の勢威は一気に衰え、一色軍に追われ中国へと去ります。

一方、少弐勢は南朝方の菊池を攻めるが肥後国殺されると事態は急悪しく、直冬の勢威は一気に衰え、一色軍に追われ中国へと去ります。



池氏に帰順しました。

延文四(一三五九年)

八月、筑後川の戦(福岡県小都市)は小武頼尚と

勢力の大拡大を図つたのです。幸俊等も直冬側に加わり、直冬方は九州を制圧したかのような勢いに

なつてきました。

十五年一月から行い、二十年七月完成、八月予定。(4)運営は社会福祉法人竹崎記念福祉会が当

たり、介護士・事務職百十床とする。(3)本工事は二

十五年一月から行い、二十年七月完成、八月予定。(4)運営は社会福祉法人竹崎記念福祉会が当

たり、介護士・事務職百十床とする。(3)本工事は二

十五年一月から行い、二十年七月完成、八月予定。(4)運営は社会福祉法人竹崎記念福祉会が当

たり、介護士・事務職百十床とする。(3)本工事は二

十五年一月から行い、二十年七月完成、八月予定。(4)運営は社会福祉法人竹崎記念福祉会が当

「ケアタウンかわいり」が開所

来年

「フェイス学院高校跡地」

これは肥後の四賢婦人のひとり竹崎順子女史が創設し、百有余年の歴史に幕を下ろした熊本工業高等学校の跡地について土地の所有者「医療法人聖母会」中村整形外科科」が十二月十五日(土)工事説明会を開き明らかにしたものであります。

計画によりますと熊本フェイス学院高校跡



電話387-6671まで



川尻の歴史と史跡文化を共有しよう ～歴史・史跡の副読本作りの検討始まる～

これは一月十六日開かれた川尻文化の会で提案されたもので、会議では伝統と多くの史跡が現存する「川尻地区の歴史文化」を地域住民が共同の宝として共通意識を持ち、その歴史文化を次世代に残そうというものです。

川尻校区には熊本県南部地域歴史研究会の方々が十年前作成された副読本「ふるさとの歴史(川尻校区区)」がありますが、そこには川尻米蔵跡が南

川尻校区には熊本県立川尻米蔵跡(外城米蔵跡・船着場跡・御船手渡し場跡)や景観重要建造物などの誕生により史跡的重要性が求められて来ています。このため文化の会では「ふるさとの歴史」をベースに「川尻地区の歴史文化の新しい副読本」を作成できないか



国史跡川尻米蔵跡(内部)

川尻校区には熊本県立川尻米蔵跡(外城米蔵跡・船着場跡・御船手渡し場跡)や景観重要建造物などの誕生により史跡的重要性が求められて来ています。このため文化の会では「ふるさとの歴史」をベースに「川尻地区の歴史文化の新しい副読本」を作成できないか

これは一月十六日開かれた川尻文化の会で提案されたもので、会議では伝統と多くの史跡が現存する「川尻地区の歴史文化」を地域住民が共同の宝として共通意識を持ち、その歴史文化を次世代に残そうというものです。

川尻校区には熊本県立川尻米蔵跡(外城米蔵跡・船着場跡・御船手渡し場跡)や景観重要建造物などの誕生により史跡的重要性が求められて来ています。このため文化の会では「ふるさとの歴史」をベースに「川尻地区の歴史文化の新しい副読本」を作成できないか

部地域歴史研究会の方々が十年前作成された副読本「ふるさとの歴史(川尻校区区)」がありますが、川尻校区には熊本県立川尻米蔵跡(外城米蔵跡・船着場跡・御船手渡し場跡)や景観重要建造物などの誕生により史跡的重要性が求められて来ています。このため文化の会では「ふるさとの歴史」をベースに「川尻地区の歴史文化の新しい副読本」を作成できないか

川尻文化の会便り

〔発行〕
川尻文化の会事務局
毎月1回発行
発行責任者 荒金謙一
☎ 096-358-5711
(熊本県くまもと工芸会館)



七十三人が新成人に 六十四回目の成人式

正月恒例の川尻校区区の成人式(川尻公民館主催)は一月三日川尻公民堂で開かれました。

い出話に花を咲かせて述べました。この後、参加者全員で婦人会の方々の手作りの食事を囲んで小学校時代の思い出話を花を咲かせていました。



平成25年成人式(中川写真館 提供)



えびすのつぶやき

忘れ去られる地名 その一



昨年末の文化の会会議で、議題の審議も終わり雑談になった時、ある委員から「町名改正で〇丁目〇番地となつた。味気ない呼称で、その場所も見えにくい。土地の親しみも薄れた」とのぼやきが上がった。多くの人々に使われてきた地名が今、消えつつある。その残念さが口をついたのでしよう。

地名とは、その土地の歴史を物語るもので、川尻と表記されるようになつたと考へます。そのように地名はその土地の歴史を話しかけてくれる妙辞(すぐれた言葉)です。

ところで明治四十四(一九一一年三月)、第八代川尻町長の栗崎達也氏が退任の時の引継ぎ書の中に次のことが記されていました。

雜事

一、川尻町ノ初メ(本町)、見世町、新町ナリ

一、外城ノ城下御茶城ノ間ノ通ヲ内堀ト云フ

一、外城村ト云フ本町、出来タルラ外城町ナリ

一、拾々所ハ役所敏治方、米木方、米穀方、薪材方、薪材方々ノ役所拾々所アル所ナリ

一、下町ハ本町ノ下手ニ町由来下町名付、此所ハ河尻家時代ハ知行取屋敷ナリ

一、本町ヲ中町ト云フ下町出来テ後ナリ

一、小路町ノ河尻家ノ中ヨフジ丁故小路町名付ケリ

一、岡町ノ若宮社ニ近ツキ館ヶ岡ヲリチ岡町ト名付ケリ

一、正中島ノ島云フ所琵琶島ニ止申中、町由来モナラ名付ケリ

一、正中島町弁天社河尻三郎心願ヨリ奉幣昌ノ島、鎌倉江ノ島弁天、分靈を勧請シタルト云フ

一、河尻城ヨリ主子(イ・ネ)ノ隅ニ当ルヲ以テ乾鈍イネズミト名付ケリ

* 明治二十二(一八八九)年四月一日 市町村制実施

初代川尻町長 小山豊蔵(明治二十二年五月~明治二十五年五月)

* 昭和十五(一九四〇)年十二月一日 熊本市と合併

西輝喜

ケアタウンかわらひの聖式

シフエイス学院高校跡地



起工式(中村理事長)

事の後、社会福祉法人竹崎記念福祉社会の中村幸子理事長が鍛入れを行い工事の安全を祈願しました。工事計画によりますと、ケアタウンかわらひは今年七月完成、八月に開所予定となっています。なお、工事期間中、城南中学校前の道路は大型車を含む工事車両五十台の出入りが見込まれることです。

背後の四賀婦人のひとり竹崎順子女史が創設し、百有余年の歴史に幕を下ろした熊本フェイスクール高校の跡地(熊本市南区南高江七丁目33)については、社会福祉法人竹崎記念福祉社会が特別養護老人ホームと有料老人ホームを併設した「ケアタウンかわらひ」(入所者ベット百二十床)の設置を進めています。

このケアタウンかわらひの起工式が、一月十六日同敷地内に関係者六十七人が出席して行われ、神



元 熊本フェイスクール高校



川尻市内に観光案内板の設置(サイン整備)をすすめている熊本市観光振興課は昨年度川尻校区内四ヶ所に矢羽サインと矢羽サインの設置作業を始めました。昨年度はJR川尻駅前に広域案内サイン、校区内四ヶ所に矢羽サイン、

いすれのサインも国史跡や薩軍本宮跡などへの方向が「日本語、英語、中国語、韓国語」で表記されています。



矢羽サイン

県道沿いの観光案内板設置始まる 川尻地区サイン整備事業

今年度は歩行者用案内サインが中心になります。この歩行者用サイン、北は南高江のバス停から南は川尻四丁目の川尻四つ角のバス停付近に設置されます。また、車両系サインは城南中学校前に設けられます。

熊本城マラソン 今年も川尻路を走る



くまもと工芸会館前

の朝方は各地で氷点下を記録するという昨年同様の厳しい冷え込みとなりました。この寒さの中、県内外から一人万人のアスリートたちが熊本市の中心街電車通りを埋め尽くしました。熊本市の政令都市誕生を記念して行う第二回熊本城マラソンに参加する老若男女です。



川尻岡町商店街通り



瑞應前通り



肥後銀行駐車場前

川尻町では、随所で老人会、子ども会、婦人会、かわいりひょっこり会が開催されました。

そして、校区体協、婦人会、川尻文化の会、七町内等が「史跡の町、川尻によこそ」と町のPRを兼ねた横断幕を設置して、町民が一丸となつて熊本城マラソン大会を応援、熱気で寒風を吹き飛ばした一日でもありました。



JR鹿児島本線架橋下

川尻文化の会便り

【発行】
川尻文化の会事務局
毎月1回発行
発行責任者：荒金謙一
☎ 096-358-5711
(熊本くまと工芸会館)



マラソン大会は、熊本市内の繁華街を周遊する四キロ、南部地区を折り返す三十キロ、そして川尻や飽田地区的市南部一帯を回る四十二、一九五キロのフルコースに分かれます。午前の天候は、昨年と違つて太陽が顔をのぞかれて健脚が競われました。

マラソン日和となり、フルマラソンの参加者たちはルネサス・セミコンダクタ九州・山口の西側を走つて、九州新幹線高架の下をくぐりぬけ川尻町に入りました。

走るアスリートの方々が声援を送りながら、町内のボランティアの方々が水分補給所が設置され、町内のボランティアの方々が声援を送りながら、「温かいものなし」をされました。

えびすのつぶやき

忘れ去られる地名 その二



東西五百メートル、南北二百五十メートルと推定される河尻城は鎌倉初期の館城(やかたじろ)です。城館要所の出入口は櫓門(やぐらもん)を備え、回りは堀や柵で守られた程度でした。後で堀や土塁を巡らしたものへ発展していきます。しかし、河尻城は水城で、周囲を川で防いでいたようです。外城町とは鎌倉から室町時代にかけて、河尻城の附いたその外側の町で、城内に住む人々や近くの集落の人達が賃物に集まる商店街の町だったようです。

唐(とう)の文字が三ヶ所記してあります。これは中国の交易船が来航した時の通訳とか、交易品の売買に携わる唐人の住居でした。

その相手をこつそりと殺害します。数年後この事実を知った妻女は、こんな情けない夫に仕えも益なしと趙を飛び出し、川辺に走り来ると両袂に石を入れ身投げします。日頃から妻女を尊敬する下女たち十五人も袂に石を入れて「奥方様」と叫びわれ(由緒)を記しますと、河尻城主は妻室が浮氣をしていると嫉妬して

十六番神は加勢川遊歩道の北への道は明治の頃までサギが遊んでいたといふ内堀跡で無田川との交差点辺りは、河尻城より亥(北西)子(北)の隅に当たるので乾角(イネズミ)の地名が付きました。また、外城郵便局横の道を少し北に進み、東に曲がると無田川から入り込んだ堀があり、藩



十六番神塔

決にあつた十六個の石を川辺に、後の十六個を河尻城境内に祀り供養を続けています。

船頭町 加藤忠広(清正の嫡子)が熊本藩主の時、河尻城は藩命により潰され、城跡は空地となります。その地を細川藩は水軍(海軍)つまり船頭(船長)加子衆(水夫)の居住地にしました。この町の下げ名(小字)に十ヶ所(じっかせい)があります。十ヶ所とは町奉行所直属の拾(十)の役所があつたところです。(第三十五号、雑事参照)

の役所材木方のあつたところで「オザイカタ」と呼ばれています。その他、地蔵町など歴史の一脉詰まつた全国的にもまれな誇り高い地名です。

小路町はしゅうじ町と呼びますが、小路とは狭い道の意ではなく、大路の技道を指すのが一般的です。「小路町は河尻家コフジ丁故小路町と名付た」、「小路町は河尻家コフジ丁故小路町と名付た」

*雑事
二つの解釈があります。
一、コフ(古府)または國府の転路。古代小路(コウジ)は、國府路の意で江戸時代から小路と変化したようで、河尻城へ行く道。

二、古語のコフ(雇夫)路。つまり、河尻城で働く人々の住む町。このどちらかでしょう。

西 振幕



これが衰れんだ里人は、

川尻歴史探訪本(仮称)製作決まる

これは、四月十六日開かれた川尻文化の会の会議で決まったものです。川尻文化の会では、伝統の歴史文化を地域住民が共同の宝として共有し、その歴史文化を次世代へ学ぶことを検討してきました。しかし、その後国史跡熊本藩川尻米蔵跡(外城米蔵跡・船着場跡・御船手渡跡)が誕生、川尻地区の史跡の重要性が一層増しました。



ふるさとの歴史

し場跡)、景観重要建造物(瑞鷹株式会社関係)などが誕生、川尻地区の史跡の重要性が一層増しました。

このため文化の会では、川尻歴史探訪本(仮称)編纂委員会を設け、「ふるさとの歴史」を参考に、資料調査、現地調査、本の項目決定を行いながら関連の写真撮り、資料掲載の許認可申請、編纂を行うことになったもので



す。この川尻歴史探訪本は、カラー写真を多く取り入れ「目で見る美しい、楽しい本」に仕上げる予定です。なお出版予定は平成二十七年二月です。

九十八回を数える薩軍戦没者の慰靈祭は西南の戦役(一八七七)の際に、川尻付近で亡くなった薩軍兵士の眠る天台宗比叡山延壽寺の末寺、延壽寺(川尻五丁目、横町)で四月十四日厳かに執り行われました。薩州墓として知られる延壽寺には、西南の戦で戦士した薩軍兵士八五三人が眠っています。



横町

今年熊本市立川尻小学校にお越しになられた方は、須藤聰教頭、津川時宏教諭(四年担当)、田邊輝教諭(五年担当)、野村光美教諭(五年担当)と井崎靖子講師(西由佳梨講師、大川洋美数学級支援員、また事務、図書関係に前田文人氏、堀川妙子氏、中山智恵氏の各先生方です)。

なお、川尻小学校の入学式は、四月十日に行われました。今年の新入学児童は、昨年より八人多い九十一人です。

西南の役 薩軍の慰靈祭



薩軍戦没者の慰靈祭

【発行】川尻文化の会事務局 毎月1回発行 発行責任者:荒金謙一
☎ 096-358-5711 (熊本市くまもと芸芸会館)



二十五年度入学式

川尻小学校に
先生ら十人が配属

が「賤名を要つても死者を成仏させ、供養をするのが僧の務め」と寺領を提供して薩軍兵士を埋葬、弔つたものです。

今年の慰靈祭には、熊本三州会(熊本県在住の薩摩・大隅・日向出身関係者の会)や川尻校区から百余名の方々が参列

説経の流れの中、墓前に献花、焼香を行い戦没者の靈を慰めました。ところで、延寿寺のある横町の家々では國を憂い日本で亡くなつた薩軍兵士の靈を慰めるとともに、慰靈祭にお越しくなれる鹿兒島、宮崎県の遺族たちを、今年も軒先に国旗を掲げてお迎えいたしました。

今年熊本市立川尻小学校にお越しになられた方は、須藤聰教頭、津川時宏教諭(四年担当)、田邊輝教諭(五年担当)、野村光美教諭(五年担当)と井崎靖子講師(西由佳梨講師、大川洋美数学級支援員、また事務、図書関係に前田文人氏、堀川妙子氏、中山智恵氏の各先生方です)。

なお、川尻小学校の入学式は、四月十日に行われました。今年の新入学児童は、昨年より八人多い九十一人です。

えびすのつぶやき

忘れ去られる地名 その三



「川尻町の初めは本町、見世町、新町なり」、「下町は本町の下手に町出来下町と名付、此処は河尻家時代は知行取屋敷なり」、「本町を中町と言ふは下町出来て後なり」(雑事)、川尻の集落は四つ角付近から形成されたようで、この辺りが町の中心地だったのです。

*一般的的な呼称として上町、中町、下町などの名称が付くのは川の上流から下流に向かって、その順序に並ぶのが原則です。正中島町とは正中年間(1324~1326)に琵琶島に町が出来、その時の年号をとつて正中島町と名付けられました。正中とは鎌倉時代末期の後醍醐天皇の年号で、当時の島は船が発着する川尻港の中心地だったと思われます。

新町の本立寺(ほんりゆうじ)境内に三十番神が祀つてあります。横町は鐵冶屋町です。火災予防に島原の護国寺(日蓮宗)から「蘇生三十番神」を勧請したのです。堂内須弥壇には八神が四段、合わせて三十二神が祀られており、順番に毎日一神が町を護られます。三十一日のある月は三十一年と三十二神が交互に祀られています。大渡町、川尻と富合町に琵琶島を結ぶ薩摩街道の舟渡し場を大渡といい、白川、緑川、加勢川が大慈寺のうことはなかったようですが、川尻港の中心地だったと思われます。

そこまで、番神の中に僧形が二、三見受けられます。「神仏習合」です。伊(いん)は四方に告げて勧請したのでしょう。川尻の町では「井天さんを祀つてあるから正中島の女性は皆美人に生まれる」との言い伝えがあります。

新町の本立寺(ほんりゆうじ)境内に三十番神が祀つてあります。横町は鐵冶屋町です。火災予防に島原の護国寺(日蓮宗)から「蘇生三十番神」を勧請したのです。堂内須弥壇には八神が四段、合わせて三十二神が祀られています。大渡町、川尻と富合町に琵琶島を結ぶ薩摩街道の舟渡し場を大渡といい、白川、緑川、加勢川が大慈寺のうことはなかったようですが、川尻港の中心地だったと思われます。

て溺死者も多く人々は難儀していました。建久二(1276)年、法皇禪師寒巣(かんがん)義(ぎ)尹(いん)は四方に告げて川尻大渡に長橋を作らし

ます。「神仏習合」です。伊(いん)は四方に告げて勧請したのであります。川尻大渡と名付けられ、弘安元(1278)年、長さ約百五十メートル、幅約五メートルの大橋が完成、大渡橋と名付けられ、この集落を大渡町と呼ぶようになります。

野田町、野は田畠、野田とは起伏のある平坦地の地名であります。田町の「タ」は方向、場所を示すもので、水田の意味ではなく、ハタ(端)、カナタ(彼方)、コナタ(此方)など地名では場所を示します。つまり中心地野田町は明治七年、西村・平野・方崎が合併して出来た町です。方崎とは国志草稿に「榜示」とは起伏のある平坦地の地名であります。慶長八年の榜示地帳に「榜示崎」と記してあります。野田町には荒野とか湿地(ヌタと同系)の意があるので、大雨で泥田のようにぬかるむ所もあつたのであります。野田には藤原時代、長徳寺(学承院)がありましたが、世安町の無漏寺、十津寺町の山王社(日吉神社)とともに、古代宗教文化の先進地でした。大切な地名としては談議所跡(仏教の意義を説く所)、



西
輝喜

国史跡米蔵跡の一般公開は平成三十年春

部出張所長らが出席。川尻文化の会便り

これは先月行なわれた第6回川尻米蔵跡周辺整備事業協議会で明らかになつたものです。熊本市役所で開かれた同協議会には、市から田上聖子観光文化交流局次長、仙波英明観光振興課長、肝太郎文化振興課長、肝付幸治都市政策課長、田口公徳商工振興課長、井上祐二土木総務課長補佐と南区役所から志垣まちづくり推進課長、能丸南部出張所長らが出席。



復工事が行われる国史跡川尻米蔵跡

川尻文化の会から荒金会長、重田・栗崎校区自治会長、田辺市議らが出席しました。そして、国史跡の熊本藩川尻米蔵跡の修復工事について、今年度に多目的広場川尻公会堂周辺の造構確認調査を実施する。造構確認は十箇所前後のトレーン方式を行うというものです。この調査予定地は細川藩の御茶屋、米蔵の中蔵・東蔵があつたと記されている場所です。



造構調査が行われる多目的広場

川尻文化の会と連携協定を結んでいる崇城大学(中山峰男学長)は、玉名市や山鹿市、小国町などと連携して活発な文化交流事業を実施していますが、この度、熊本市南区川尻町三丁目(外城)にある野田最さん所有の崇城大学芸術学部の中村教授や勝野教授らは、「歴史文化的な漂う川尻の街角に崇城大学の美術が調和すれば嬉しい。全国に誇れる美術館にして行きたい」と早くも創作意欲を語っていました。

これから崇城大学では、お蔵を活用した崇城大学芸術学部の美術館「崇城大学川尻野田美術館」を開くことになったのです。六月二十一日、崇城大学とお蔵所有の野田最さんがお蔵の使用貸借契約を取り交わしましたが、契約のため川尻を訪れた

ところ、お蔵の趣を生かし、国史跡米蔵跡と調和のとれた美術館として、今年度中にはオープニングさせたいとされていますが、外城町周辺に崇城大学芸術学部の学生さんが集まつて来るのも間もなくです。

川尻文化の会便り

【発行】
川尻文化の会事務局
毎月1回発行
発行責任者：荒金健一
☎ 096-358-5711
(熊本くまもと芸芸会館)



崇城大学美術館予定のお蔵

崇城大学が川尻に美術館を設置



えびすのつぶやき



忘れ去られる地名 その四

西村「肥後国誌」では託麻郡本庄手永に属し、若宮大明神社が記してあります。「国都一統志」には若宮親音が見えます。明治七年(1874)合併して元三村となりました。

平野 南北朝期に書かれたと推定される詫摩文書に「一所、平

野の屋敷事」と見え、詫摩氏が当地内に屋敷を持つていたことが分かります。

近世の「肥後国誌」では本庄手永に属し、天神社があります。「国

郡一統志」では「天神二所」と記されています。明治七年合併

して元三村となりました。

岡町 若宮神宮に近いため、鶴岡八幡宮の岡をとつて岡町。人々

の敬神の念が篤いことの表れが、岡町の町名となつたのでしよう。

椎田村 長慶十二年(1607)の検地帳に志井田村と記さ

れ、肥後国誌には椎田、北・中・南椎田と記してあります。

八幡町 八幡信仰は大分県の宇佐八幡宮に代表される信仰

で、平安朝初期の貞観二年(860)平安京鎮護として石清水

に勧請された後、清和源氏一族の氏神として、武神的性格を強

め武士の守り神として全国各地に勧請されました。河尻神宮の

主神が鶴岡八幡宮であり、その縁で八幡の地名が付いたと考え

られます。

明治七年(1874)、椎田村、北・中・南椎田が合併して八幡村になり、昭和十五年熊本市と合併して八幡(やはた)町となりました。

*地名の原点は小字(こあざ)です。参考までに椎田の下げる(小字)を記してみます。

高田 タカタ

北堀川 キタホリカワ

村東 ムラヒガシ

北村脇 キタムラワキ

老町畠 イツチヨバタ

東原 ヒガシバル

楠原 クスブン

北ノ前 キタノマエ

鳥居崎 トリイザキ

小碇 コイカリ

八反田 ハッタンダ

六反田 ロクタンダ

城ノ後 ジョウノシロ

椎田屋敷 シイダヤシキ

乾角屋敷 イネズミヤシキ

亥(イ) 亥(イ)は北西、子(ネ)は北

田湯、湯の意?

北方の用水溝

集落の東

分かれだ、分村

壠地の東、ハルは開くの意

砂地の海、崩壊地形を示す。

分は区分前面、特に寺社、仏閣の前方。

神社、鳥居のある所

田に引く水路の水門、堰(せき)

一枚で八反もある広い田圃

JR無田川鉄橋付近、広い田圃の意。

河尻城のうしろ

地名を多く使い続けること」も一つではないでしょうか。



川尻米蔵跡、御茶屋跡等の遺構調査始まる



遺構調査(川尻公会堂構)



天保三年川尻町絵図

国指定史跡熊本藩川尻
米蔵跡(外城蔵跡)の周辺には「天保三年川尻町奉行所等の存在が確認されています。



遺構調査(川尻公園)



遺構調査(川尻公園)

車場、川尻公会堂構内、
多目的広場の順に九月二十日まで行われます。十箇所にトレンチを設
け、関係者が重機で幅一メートル、長さ二メートル以上、深さ約一メート
ル前後を掘削した後、掘り出した土類に遺物が含

まれてないかどうか、また姿を現した礎石や石垣を丹念に調査していくま
したが、調査(遺構確認調査)で、御茶屋や町奉
行所等の遺構、遺物が確
認されれば、本調査の検討が行われます。

川尻文化の会では、伝統と史跡が残る川尻地区の歴史文化を地域住民が
共同の宝として共有でき
るよう、「歴史本」の制作を検討。二十五年四月に川尻歴史探訪本(仮称)
編纂委員会を開設し、各編纂委員が担当して資料調査、出筆活動、写真撮影等に当たる

ことになりました。なおこの川尻歴史探訪本(仮称・カラー写真刷り、百二十頁予定)の出版は平成二十七年の三月の見込みです。

そして、九月五日開かれた川尻文化の会の会議で、歴史本の本文項目は「肥後の川尻」に始まり、「お寺・地蔵尊」等の項目に分け、縦じ込み式の地図や年表を入れる

川尻文化の会便り

【発行】
川尻文化の会事務局
毎月1回発行
発行責任者：荒木謙一
☎ 096-358-5711
(熊本くまと工芸会館)



川尻歴史探訪本(仮称)編纂胎動

これまでいかどうか、また姿を現した礎石や石垣を丹念に調査していくま
したが、調査(遺構確認調査)で、御茶屋や町奉
行所等の遺構、遺物が確
認されれば、本調査の検討が行われます。

國史跡熊本藩川尻米蔵跡(外城蔵跡、船着き場跡、御船手渡し場跡・平成十二~二十四年指定)は、来年度から外城蔵跡(通称二百坪蔵・六十坪蔵)の修復工事が始まります。

案が提案された承されました。



えびすのつぶやき

津方会所の顕彰標木



津方会所の標木

川尻三丁目(下外城)
下田精一さん方の駐車場
入口に表記の標木が立ち
ました。

津方会所とは江戸幕府
時代、熊本藩川尻町奉行
所支配で、現在の税関事
務に類する仕事をしてい
たところです。

川尻に入港する船舶は
川口の番所で調べを受けて、
更にこの津方役人の臨檢
を受けて運上金を納める。
出港する時は、津方の手
形交付を受け、河口の川
口番所の取調べを再び受
ける仕組みでした。

川尻町史掲載の川尻津
方運上銀覚(物資の輸出
入税年平均)によれば「宝
暦年中より明和、安永、
天明年中まで銀百貫目余
宛御座候」とあります。

の細川藩主は六代重賢公
で、今から二百五十年ほ
ど前のことです。しかし

残念ながら、重賢公が亡
めました。交易がスムー
リ年間銀百貫目(現
在のお金に換算して二億
五千円ほど)が藩に入っ
ていたのです。この收入は、

赤字続きの肥後藩に大き
な潤いとなつたでしょう。

宝暦(一七五〇年代)か
ら天明(一七八〇年代)

くなられた以降は交易が
減り、運上金は年々減少
していくます。

の細川藩主は六代重賢公
が藩に入つて、以前のこと
で、河口番所の繁栄
に従つて種々の規則を定
めました。交易がスムー

リ年間銀百貫目(現
在のお金に換算して二億
五千円ほど)が藩に入つ
ていたのです。この收入は、

つまり年間銀百貫目(現
在のお金に換算して二億
五千円ほど)が藩に入つ
ていたのです。この收入は、

西輝喜

港湾管理規則

細川藩は川尻港の繁栄
度で、河口番所の繁栄
に従つて種々の規則を定
めました。交易がスムー

りました。

川尻三丁目(下外城)
下田精一さん方の駐車場
入口に表記の標木が立ち
ました。

津方会所とは江戸幕府
時代、熊本藩川尻町奉行
所支配で、現在の税関事
務に類する仕事をしてい
たところです。

川尻に入港する船舶は
川口の番所で調べを受けて、
更にこの津方役人の臨檢
を受けて運上金を納める。
出港する時は、津方の手
形交付を受け、河口の川
口番所の取調べを再び受
ける仕組みでした。

川尻町史掲載の川尻津
方運上銀覚(物資の輸出
入税年平均)によれば「宝
暦年中より明和、安永、
天明年中まで銀百貫目余
宛御座候」とあります。

の細川藩主は六代重賢公
で、今から二百五十年ほ
ど前のことです。しかし

残念ながら、重賢公が亡
めました。交易がスムー
リ年間銀百貫目(現
在のお金に換算して二億
五千円ほど)が藩に入つ
ていたのです。この收入は、

赤字続きの肥後藩に大き
な潤いとなつたでしょう。

宝暦(一七五〇年代)か
ら天明(一七八〇年代)

くなられた以降は交易が
減り、運上金は年々減少
していくます。

の細川藩主は六代重賢公
が藩に入つて、以前のこと
で、河口番所の繁栄
に従つて種々の規則を定
めました。交易がスムー

ズに行われるための配慮
です。これを「川尻町支
配定式」といい、藩が川
尻町奉行に命じたもので
す。それが、下町の「和
泉屋」に保存されています。
泉屋は、西日本新聞

であります。

古文書から港湾管理規
則に関する事件を拾つて
みますと、昔も今も変わ
らぬ世情を窺い知ること
ができます。

西日本新聞

馬原家は川尻町内随一の
資産家、有力者で町頭役
など末端行政を委託され
ていました。

毎年港の様子を推察でき
ます。

河口の番人は常々油
断なく通行させねばなら
ない。

他国の人河口で宗
宿泊する時は、河口で宗
泊させてはならない。た
だし、直ちに他国へ去る
者は通してよい。

一、廻船が港に入る場合は、
猪荷内容を河口番人に報

文政十二年丑
九月二十五日

稻津
久兵衛

この古文書から「手形を
運搬なく出せ」とのお達し
だったようです。

稻津久兵衛は文政十一年
(一八二八)から天保元
年(一八三〇)まで川尻
町奉行を務めた人です。



西輝喜

大型バス対応の駐車場を 川尻米蔵跡周辺整備事業協議会

川尻文化の会便り

栗崎会員、田辺市議会議員、宅野事務局補佐が出席しました。

会議では外城蔵跡の修復工事を来年に控えて米蔵跡周辺の整備、特に観光客への対応について話し合われました。この中で文化の会から熊本市觀光振興課管の「多目的広場」の有効活用について意見を拡張(土地所有者から購入又は借用)して大型バスが利用できる駐車場の整備(国史跡の管理のため熊本市と川尻文化の会とで組織する協議会(第七回)が十月十八日熊本市役所で開かれました。熊本市からは光輝さん、川尻文化振興課長、肝付都市計画課長、福原土木総務課長、商工振興課長、仙波觀光振興課長、広岡南区まちづくり推進課長補佐、能丸南部出張所長、また川尻文化の会から荒金会長、



川尻米蔵跡周辺整備事業協議会

國史跡に指定された外城蔵跡等の周辺整備を進めるため熊本市と川尻文化の会とで組織する協議会(第七回)が十月十八日熊本市役所で開かれました。熊本市からは光輝さん、川尻文化振興課長、肝付都市計画課長、福原土木総務課長、商工振興課長、仙波觀光振興課長、広岡南区まちづくり推進課長補佐、能丸南部出張所長、また川尻文化の会から荒金会長、



多目的広場

これまで席上、外城蔵跡(東蔵、通称二百坪蔵・西蔵、通称六十坪蔵)の利活用案内また懸案のトイレを併設した管理棟の設置などが希望されました。これに對して熊本市は「外城蔵跡二棟の修復工事は平成二十九年に終わる、翌三十年春には一般見学の方々の車両駐車場の確保とトイレ設置は從来からの課題となつてお



遺構調査(川尻公会堂西側)

た。この案によりますと、東蔵については各種機関の「御蔵を学ぶ施設」としたいとしています。これに対し文化の会から「東蔵は町おこしの起爆剤としてもつ

と充実した施設に、西蔵はコンサートや美術展示が出来るようにして欲します。

川尻文化の会事務局 毎月1回発行 発行責任者 荒金健一 096-358-5711 (熊本市くまと工芸会館)



天保三年川尻町絵図

と充実した施設に、西蔵はコンサートや美術展示が出来るようにして欲します。

いなど要望があり、今後さらに協議をすることになりました。

お茶屋跡等の遺物の確認出来ず

川尻遺跡群(外城跡、川尻城跡)遺構調査

お茶屋跡 川尻町奉行跡の位置と縮尺関係の遺構が今一度必要と思われる。将来的に調査する機会があれば調べたい」との意向を示しました。なお、来年一月からは、熊本市が明らかにしたものです。川尻公会堂、多目的広場周辺で熊本市文化振興課が行った「お茶屋跡」の調査が行われました。外城蔵跡(国史跡熊本藩主ら二十八ヶ所で攝削を行つた)このトレーナー調査で、「一ヶ所(川尻公会堂西側)で硬い粘質土が確認したもの、後の全川尻米蔵跡(周辺での遺構調査が行われます)」と確認したものの、後

えびすのつぶやき

砂利取り舟 その一



私がこの川尻町に居移した昭和二十九年、五・六艘の砂利取り舟が連なつて棹を巧みに操りながら緑川を遡上していた姿に接した時、その牧歌的な風景に感動を覚えました。

当時、砂利は道路工事や鉄道関係からの需要が多く、川尻に荷揚げるする舟は百艘を数えたそうです。まず、日本の道路行政を考察してみると、江戸時代まで人馬による徒步交通で車輛の普及は制限されていました。また、軍事的考慮からか、道路の新設とか改修にはいろいろ制限がなされています。

文久三年(一八六三)、十四代将軍家茂(いえも)ち)が上洛、箱根山中のぬかるみに丸石を入れた道路の補修をして通行した記録がある程度の道路行政でした。

明治維新前後から道路が碎石道、砂利道になつていくと駕籠にかわって人力車、荷馬車、客馬車、自転車、自動車等が相次いで登場するなど一気に交通形態が変わり、砂利

バラス、砂の需要が高まるばかりでした。ちなみに川尻町の重要幹線、薩摩街道は幅員僅か五メートル余。しかも屈曲急な部分もあつて危険な常態でしたので、昭和九年十一月に新町橋まで幅員十三メートルの直線砂利道に改修されました。



西輝喜

河岸に砂利の採取は、河岸で幅員十三メートルの直線砂利道に改修されまし

る砂利の採取は、河岸で砂利の採取許可区域でした。川尻近くで砂利が多いところは採取禁止区域の河川敷(高水敷)近くです。

河川敷には養蚕農家が桑を植えていたので、この近くの砂利を掬い揚げると桑畠が崩壊する恐れがあり、農家との対立が絶えませんでした。農家からの連絡があると、

舟から「マイタ、マイタ」と叫ぶと、番人が八番線の針金を三本より合わせたロープの引っ掛け器で掬い揚げる。舟一杯に積み込むと下流の川尻へ橹を漕いで下る。(上流へ向かう時は棹) 高村の千本杭の難所を通過し、

舟から「マイタ、マイタ」と叫ぶと、番人が八番線の針金を三本より合わせたロープの引っ掛け器で掬い揚げる。舟一杯に積み込むと下流の川尻へ橹を漕いで下る。(上流へ向かう時は棹) 高村の千本杭の難所を通過し、人達は、その代金二、三

人を払つて通過すると、次は最大の難所「大渡橋下」が待ち構えている。

川尻文化の会

熊本城マラソン



川尻四つ角

一万三千人が川尻路に



川尻町商店街前

第三回目を迎えた熊本

城マラソン、今年も例年
どおり市内繁華街を周遊
する四キロコース、南部
地区を折り返す三十キロ
コース、そして市南部の
川尻や飽田地区を回る四
十二・一九五キロのフル
コースの三つのコースに
別れて行われました。



文化の会の横断幕



川尻米蔵前



瑞慶本蔵前

今年は、フルコースが
これまでより三千人多い
一万三千人のアスリート
が参加、午前九時、熊本
城をむか電車通りを
各コース毎に一斉にス
タートしました。

十六日は絶好のマラソ
ン日和に恵まれ、川尻町
内も町民総出で「おも
なし」の応援合戦を繰り
広げました。

川尻文化の会便り

【発行】
川尻文化の会事務局
毎月1回発行
発行責任者：荒金謙一
☎ 096-358-5711
(熊本県くまもと工芸会館)



川尻公会堂前



給水接待所

国内外から参加したラ
ンナーたちに各町内毎に
それぞれ工夫を凝らし、
子ども会や職場、町内会、
婦人会の面々が鉦、太鼓
を鳴らし、声を振り絞つ
ての声援を贈りました。

関係者へ感謝の意を述べ
ての声援を贈りました。
また、肥後銀行川尻支
店には、水・バナナ、
黒砂糖・塩の接待所を設
けボランティアの方々が心
のこもったおもてなしを
続けました。

八十三人が新成人に

「六十一回目の成人式」

今年の成人式は正月
三日、川尻公会堂で行
われ、式では、お祝い
に集まつた校区の自治
会長や民生委員、婦人
会ら各種団体の役員、
川尻小学校当時の諸先
生たち八十余人が見守
る中、新成人になられ
た三十四人（校区出身
の新成人は八十三人）
が紹介され、米澤祐二
川尻公民館長、中村亮
一自治会連合会長らが
お祝いの言葉を述べま
した。これに対し、成
人になられた一町内の
岡本昇悟さん、「こ
れから社会人として責
任と自覚をもつて生き
る決意」を誓つた後、

十三町内の住吉沙織さ
んが成人式を挙行した
関係者へ感謝の意を述べ
ました。この後、参
加者全員がテーブルを
囲んで新成人の門出を
祝うとともに、成人と
なられた若者の小学校
時代の思い出話に花を
咲かせてました。



平成26年成人式

えびすのつぶやき

砂利取り舟 その一



券倉庫として活用されました。

大渡橋下は「百端」

とも呼ばれ恐れられていました。流れが速い上、

後一回の砂利掏いであつたが、後半は腰が痛く、腕もしびれる重労働でした。

沢山の橋柱が立つていて、舳先がこの橋柱に当たれば、舟はその衝撃で沈没するどころか、投げ出される船頭の命さえ危ない。

五、六艘連なつて通るが、後ろの熟練者から「おさえろ」「ひかえろ」と注意が飛びます。それでも命がけで櫓を操りながら、舟を右へ、ひかえろとは左へという指示である。誰れしも命がけで櫓を操る。何十年船頭をやつても、「この難所を過ぎるとほつとしていた」という。御蔵前の船着場で砂利を降らすとすぐに引き返す。

普通午前中二回、午昭和十八年末、加勢川は現在の川筋となりました。大渡橋下を通る河川は廃止された。従つて、マイタ、マイタの施設も不要となり撤去され

ました。

それ以降、舟は大津寺河原に係留して置き

丹生宮で探つた砂利は服装は筒袖の着物に素足のため、冬は背中に綿入れ半てん等を着込んでいたが、腰まで水につかるので、寒さで手足はかじかみ紫色になつて行った。昭和の

最初頃から作業服が店頭に出回ると仕事もしやすくなり、昭和十六年ダバが発売されると、幾分かは寒さから逃れることができます。

昭和十八年末、加勢川は現在の川筋となりました。大渡橋下を通る河川は廃止された。従つて、マイタ、マイタの施設も不要となり撤去され

ました。当時は九州鉄道会社という民営の会社でした。この頃二棟の米蔵になりました。汽車が来ました。当時は九

大津寺河原に積み上げ販売されていましたが、丹生宮で探つた砂利は

大津寺河原に積み上げて手足はかじかみ紫色になつていた。昭和の年代、砂利取り舟はその姿を消してしまいました。

なお、業者が機械掘りに使用した巨大な道具も採算が合わないのか、中牟田閘門の少し上流に放置されたまま無残な姿をさらしています。

昭和十八年末、加勢川は現在の川筋となりました。大渡橋下を通る河川は廃止された。従つて、マイタ、マイタの施設も不要となり撤去されましたが、御蔵前の船着場で砂利を降らすとすぐに引き返す。

在の川尻小学校樹木園を通り、裏無田川の鐵橋を渡り停車場まで運んでいました。

引つ込み線はやがて米だけではなく、砂砂利の輸送にも利用され

收められた米の輸送は船、荷馬車、貨物自動車等と多様でしたが、遠方への輸送は船に代わって鉄道貨物輸送となつたのです。

停車場から鐵道線路の東側(現在は道路)に沿つて船着場の道路まで線路が敷かれました。米券倉庫(御蔵)に収納されていた米は關係の厳しい検査を受けけると、仲仕が担当で鉄橋の東側に待つ貨車へ積み込む。積荷を満載した貨車は重い。仲仕や屈強な若者たちが肩車を以て布を当て、貨車を押して無田川に架か



西輝喜

春雨の中厳かに慰靈祭～西南の役薩軍戦没者慰靈祭～

川尻五丁目(横町)にある天台宗比叡山延暦寺の末寺、延壽寺は明治十一年に起きた我が国最後の内乱と言われる西南の役で戦死した薩軍兵士八百五十三人が眠つており兵士は、薩軍の本営が置かれた川尻町に次々運び込まれましたが、安置するところもありませんでした。この時、当時の延壽寺住職伝弘応師は、「蟻

を斬つても死者を成仏させ、供養をするのが僧の務め」と寺領を提供して薩軍兵士を埋葬、弔いました。

薩軍戦没者の慰靈祭



熊本三州会 柏木会長

執り行われました。式では鹿児島や宮崎県の関係者を始め熊本三州会(熊本県内在住の薩摩・大隅・日向出身関係者の会)、川尻町民ら百二十人が参列、熊本三州会の柏木会長らが墓碑に献花、焼香を行ない戦没者の靈を慰めました。

また、延壽寺のある横町では今年も、國を憂いながら遠い地で命を落とされた薩軍兵士の靈に哀悼の意を表すとともに、慰靈祭に来られる鹿児島、宮崎両県の関係者を国旗を掲げて出迎えました。

ところで、薩軍戦没者は薩軍の敗戦が濃厚になつた頃、熊本市方面や川尻付近で戦死した薩軍は現在、延壽寺に埋葬された薩軍兵士八百五十三人全員の氏名の確認作業を行つており、来年春には戦没者全ての氏名を記した墓誌を建立することになつています。

今年度川尻小学校においては、御船手渡し場跡の下流にあり、細川藩の軍港として使われた御船手渡し場跡(平成二十四年、国指定史跡)等を管理する国土交通省綠川下流出張所は、平成十六年頃から加勢川の河川改修、史跡の修復工事を行つてきました。船着場跡の御船手渡し場跡はこれらの修復工事を経て国史跡熊本藩川勢川の河川改修、史跡の修復工事を行つてきました。

現在、国文省綠川下流出張所(後田浩二所長)では、加勢川右岸の護岸工事を行つていますが、元地区住民の意見や要望を聞きながら推し進めることですが、御船手渡し場跡から対岸の村田緑司書補助員です。なお平成二十六年度第百四十四回)の川尻小学校の入学式は四月九日行われ、両親に連れられた七十六人の新一年生が校門をくぐりました。



川尻文化の会便り

【発行】
川尻文化の会事務局
毎月1回発行
発行責任者：荒金謙一
☎ 096-358-5711
(熊本市くまもと芸芸会館)



国史跡御船手渡し場跡対岸に

国史跡熊本藩川尻米蔵跡の船着場跡の下流にあります。細川藩の軍港として使われた御船手渡し場跡(平成二十四年、国指定史跡)等を管理する国土交通省綠川下流出張所は、平成十六年頃から加勢川の河川改修、史跡の修復工事を行つてきました。船着場跡の御船手渡し場跡はこれらの修復工事を経て国史跡熊本藩川勢川の河川改修、史跡の修復工事を行つてきました。

現在、国文省綠川下流出張所(後田浩二所長)では、加勢川右岸の護岸工事を行つていますが、元地区住民の意見や要望を聞きながら推し進めることですが、御船手渡し場跡から対岸の村田緑司書補助員です。なお平成二十六年度第百四十四回)の川尻小学校の入学式は四月九日行われ、両親に連れられた七十六人の新一年生が校門をくぐりました。



二十六年度入学式

川尻小学校に
十二人の先生らが配属

えびすのつぶやき

草津餅の由来



川尻町史に「島津家止宿の折は必ず名産草津餅を白木の箱に入れて献上した」とある。世が戦国時代から江戸時代に変わると泰平の世になり、交通網も次第に整い、街道筋には人が集まる宿場町・港町等が形成された。

川尻名産の草津餅は「草津よいと一度はおいでドッコイシヨ」といって、昔の旅は、今の旅行のように快適なものではなかつた。江戸初期までは、宿というのは寝泊りをするだけ。食事は自炊、部屋は殆ど相部屋で夜具は汚れていた。その後では食事を宿が出すようになつたが、おい

しいものを食べさせるという接待ではなく、その土地に産するものばかりだつた。しかし、旅する楽しみは食べ物。世の中が進むと加工したもの、菓子や団子といった名産が各地に出

来あがつてきた。川尻名産の草津餅は、「草津よいと一度はおいでドッコイシヨ」と並んで有名な所です。泰平の世、旅人は増えなかつたとあり、地名は明ですが、岡町の偏照

から商業活動が盛んな土地柄、近江商人として全国的に活動していました。薬草の栽培も古来より盛んで、お灸のもぐさは殆ど近江の温泉ではなく滋賀県南部、琵琶湖東岸の草津がこの餅の誕生地です。

ここは古代から交通の要所で、近世には東海道と中山道の分岐点である陸津が草津となつたとあり、地名は明ですが、岡町の偏照

寺に草津屋のお墓が幾つかあり、古い墓石に享保十三年(一七二八)草津屋八良兵衛と記されたのもある。享保年間は江戸中期、將軍吉宗の時代、その前から草津餅が売られていた事は確かです。

當時、川尻の本場は本町・店町・下町・外城町で、船から汽車へと変わった。草津屋本家は家運を他に求めて餅屋をたたみ長崎へ転出するこ

とに至った。しかし、餅を求める人々が多くかつたので、近くの村上家が餅屋を代々受継ぎ、分家が草津屋薬局を経営して菩提を守っています。

大繁盛だったそうです。また、細川藩家の武士は、馬の遠乗りで川尻に来ると、必ず草津屋へ立寄つていてと伝えられています。

明治に入ると旅人は船から汽車へと変わつた。草津屋本家は家運を他に求めて餅屋をたたみ長崎へ転出するこ

とに至った。しかし、餅を求める人々が多くかつたので、近くの村上家が餅屋を代々受継ぎ、分家が草津屋薬局を経営して菩提を守つています。

この地に菓種屋・餅屋を開いたのも、港町・宿場町として繁盛していった川尻が最も適当だとして宿泊料は木貢と付けて取つていただけの木貢宿と呼ばれていた。対する陸津が草津となつたとあり、地名は餅が売られたのかは不明ですが、岡町の偏照



西輝喜

新田原坂資料館の建設始まる

～川尻文化の会員現地を視察～

熊本市は植木町と合併
(平成二十二年)と同時に、地元と連携して西南戦争遺跡(現・国史跡)の保存と活用を進めながら、老朽化が進んだ田原坂資料館を建て替えることにしたものです。

計画によりますと、新田原坂資料館には田原坂資料館東側に総工費四億二千万円をかけて、鉄筋コンクリート平屋建て(約七百平方メートル)を建設するというもので、現在の資料館の倍の広さがあります。そして、現在田原坂資料館の跡地には田原坂資料館は、西南戦争を起点でなく、ペルー来航から西南戦争までを明治維新としてとらえた「近代日本夜明けを学び伝える歴史学習施設」にしたいと語りました。

料館には明治十年、玉東・植木町方面で継り広げられた西南戦争の歴史を後世に残すべき資料の展示・説明が行われています。そして、展示場には西南戦争の際に、薩摩本陣が置かれた「川尻町」を紹介する特設コーナーもあります。

熊本市植木町豊岡にある「田原坂資料館」は昭和五十八年、当時の植木町が建設したもので、現在三万人の見学者が年間あります。この田原坂資料館には明治十年、玉



田原坂歴史資料館と弾痕の家

川尻文化の会便り

【発行】
川尻文化の会事務局
毎月1回発行
発行責任者：荒金謙一
☎ 096-358-5711
(熊本くまと工芸会館)



御船手渡し場跡対岸の建設計画 今年秋にも着手・国土交通省



御船手渡し場跡から対岸を臨む



中原主任主事の説明

国土交通省(緑川下流域出張所)は、平成十六年から加勢川の河川改修と史跡の修復工事を行ってきました。この中で史跡修復を終えた船着き場跡と御船手渡し場跡はそれぞれ平成二十二年、二十四年、熊本藩川尻米蔵跡として国史跡に指定されました。

細川藩時代に軍港として使用された御船手渡し場跡を管理する国交省緑川下流域出張所(後田浩二所長)では、以前から国史跡の御船手渡し場跡周辺の整備を進めていました。現在対岸(富合側)の河川掘削や護岸整備(加勢川御船手渡し流域河道掘削工事・大政建設)を実施しており、先日、御船手渡し場跡下流(川尻側)の水制の位置や対岸下流(富合側)を行なう加勢川尻地区築堤護岸掘削工事が発注(松本建設)されました。今後も特に加勢川対岸(富合側)の船着き場の整備を推進することになつていま



富合町側の御船手渡し場建設地

えびすのつぶやき

いかだ 筏流し その一



川尻町発展の基は筏だった、と言つても過言ではありません。その筏ではあります。その筏関連の文献を町史や資料から拾つてみますと

川尻町史 御作所事

「官職制度考」には船の作事、米倉、所々官署の造作を掌る。と定められています。これらは川尻御大工棟梁の竹内家当主が、代々大工を指図して御用を勤めていました。御用材は砥用、甲佐御山から伐り出され、筏で緑川を下り運んでいたのです。

肥後国誌

桑津留村の小村として「舟場村」が記載されている。文化十(一八一三年)の「緑川上流通漕

碑」によりますと「文化四年から同九年にかけて河浚をした結果、桑津留から豊内(甲佐町)まで通漕が可能になつた」と記しています。

砥用町史

「明治四十(一九〇七)年頃には、柏川奥の国有林の直径六十センチメートル位の大きな木材で柏川をせき止め、水が深くなつたところで放水して木材を流し、明無瀬の緑川本流で筏を組んで流していたが、だんだん水が濁れて、大正三四年には宮内(甲佐町)の淀瀬までバラで流れていたのです。

木に傷がつき易い)。木を運ぶのを生業としていた。山師を職業とする家が川尻町には五、六軒の山師を職業とする家がありました。山師とは山林の賣付けを仕事としました。御用材は檍用、甲佐御山から伐り出され、檍で緑川を下り運んでいたのです。

筏の段取り

一日目 「藤カズラタチ」と言つて、グループ全員が鉈と鎌を携え、幾キロも歩いて山奥に分け入り、藤カズラ取りです。採取したカズラは夕方、山ボコに差して担つて帰ります。

二日目 集めてある材木を八本横並びに藤カズラを廻して結び付ける。これを柵といい、その幅は三メートルになり、この柵を「メートルほど」の間隔で、四組をカズラで繋ぐ。つまり、四輪編成の電車のよう

センチメートルの五十年ものがほとんどで、その材木は一年間ほどそのまま。翌年、樵は山師から指示された日までに牛に材木を曳かせ舟場へ運びました(馬では材木に傷がつき易い)。

三日目 摘り飯を風呂敷に包んで腰に結わえ、地下タビ、キャバン姿の筏師達は朝三時に川辺に集まり一挺の筏に二人ずつ乗りります。普段七挺編成で、総勢十四人です。用意してある長さ四メートルほどのマタケの棹を各挺に五、六本積み込むと出発です。



西 輝喜

「ふるさとの歴史 川尻」を発刊 ～2年がかりの製作～

尻は、川尻文化の会（会長、荒金鑑一）が2年がかりで編集して出来たものです。川尻町の縄文・弥生時代から現在に至るまでの歴史をまとめたこの本は本文124頁ページ折り込み地図1枚の力ラーニングA4版です。この本の製作過程を、順を追ってお話を聞かせて顶きます。



細胞分裂

ます。これらの本は当時の歴史家たちの識者らが編纂した大変立派なものですが、史実の記述に専門用語や旧漢字が多く使われていて、現代版の肥後川尻町史を読まれる方や戦前（第二次大戦前）の川尻の様子を知つておられる方が年々少なくなってきたため、現代版の川尻歴史本が求められ

川尻文化の会便り

〔発行〕
川尻文化の会事務局
毎月1回発行
発行責任者 荒金眞一
☎ 096-358-5711
熊本ゆめと工業会館



委員会の執筆者たちでしたが、作業は当初から難航しました。平均八歳歳の古者の気迫は良いが、これまで出稿したこともないや本を作った経験がない面々。意見の対立は勿論、七人それぞれの文章がバラバラだったのです。主語と述語の関係で句読点、ルビ、禁止用語

された原稿の元年と西暦調査、史実の確認、尺貫法の取り扱い、各執筆者の原稿の整合などが山積し、年末も正月も無くなりました。印刷所への入稿まで一ヶ月あまりとなり、第十一稿の読み合わせと著作物の貼り付け作業に入りました。一月下旬のこと、数人の委員から「原稿の変更」が出た。もう頭はバニック状態。作業は一時中断し、史実の間違い以外は訂正が出来ないことを申し合わせ、文章・改

員も多く、居眠りも始まります。それでも執筆者はたちは辛抱強く担当項目の調査、原稿書きを続けられました。

昨年末の第十稿で原稿訂正受けを締め切り、出稿に伴う写真撮影と地図作り、そして著作物の利用許可申請などの作業に用移りました。また、出稿



完成した「ふるさとの歴史 川尻」

このように製作現場はドタバタが続きましたが「ふるさとの歴史川尻」は無事三月十五日に誕生しました。出来上がった本は、川尻小学校、城南中学校などへ寄贈、今後教育現場で活用して頂きます。なお、この「ふるさとの歴史川尻」の本限り版(は、一冊100円で、川尻校区の各自治長さん宅、くまもと芸会館1階売店で購入できます。

えました。一難去つて
また一難。朝9時に始
まつて、夜7時位まで続
く会議に古老たちの体力、
気力が追い付かないで
す。聴力も衰えがちな委
員も多く、居眠りも治ま
ないでいた。

えびすのつぶやき

いかだ 筏流し その二



先頭の挺には「親方」と呼ばれる統率者が乗り、最後尾の挺には手練の者が乗っていた。また、挺の先の棚は「舵取り」といい、熟練者が務め、前方の棚の者は筏が岩などにぶち当たらないように使うのが役目であった。

急流でカーブの箇所が多く、また浅瀬あり、突進する二人で力を合わせて漕ぐが、川底の石に當たると、ミザオの先が漕で漕ぐのにまた一苦労をする。二人で力を合わせて漕ぐが、川底の石に當たると、ミザオの先が漕れたり、折れたりする。(棹が折れると、そのはしが突風に煽られ櫂材にぶつかり、あわやと思われる危機となつたが、奇跡的に全舟乗り切ることが出来た。船頭たちはこの出来事に感謝した。)

山師や製材所では、着いた材木の直径を計り、大渡橋下は橋代の幅が狭く流れが速い。ここを通ります。

甲佐の筏師たちは朝食後、川尻電車、熊延鉄道を乗り継いで帰ったが、緑川沿いに歩いて帰る者もいた。帰家は午後二時頃になつて、宿泊所は正中島矢部方面の筏師たちは川尻に泊まつて翌朝帰つてました。

昭和二十六(一九五一年)、九州電力甲佐発電所の塚瀬ダム(砥用町古閑)が竣工すると砥用から淀洲までの木材は営林署のトロッコを利用した輸送

となり、淀洲からはトラック等で各地に運ぶようになり、川尻から筏の姿は消えてしまいました。

緑川に合流する黒谷川は、緑川左岸の矢部町と砥用町の境界をなし、その吐合に「カタ瀬」と呼ぶ瀬がある。近くの集落、下福良(砥用町)の聞書によれば、私の父は筏師だった。中村から雇つた筏乗りが五、六人、多い時には十人位泊り込むことがあつた。カタ瀬で筏を組んで甲佐の淀瀬まで流し日帰りしていた。川尻まで運ぶ時は、川尻のヒロセ旅館を定宿としていた。また、新町に「ひろせ」がありました。

いたが、甲佐までトロッコ運搬が出来るようになると筏乗りの殆どがトロッコに乗るようになつたという。

西 樽喜

川へタから岩下まで六キロメートルの難所を通じると、川幅も広く水深も深くなる。岩下ではしばしば休息後出発となる。

大の難所が待ち構えていた。このまでは舵取りの苦勞だつたが、これから先は、ぶのは昔、冬のある日、年貢を積んだ十五隻の舟が突風に煽られ櫂材にぶつかり、あわやと思われる危機となつたが、奇跡的に全舟乗り切ることが出来た。船頭たちはこの出来事に感謝した。筏師たちはこのでは神様に安全を祈願しながら通過するのを習慣となり、無事通り過ぎました。

昭和二十六(一九五一年)、九州電力甲佐発電所の塚瀬ダム(砥用町古閑)が竣工すると砥用から淀洲までの木材は営林署のトロッコを利用した輸送

川尻米蔵跡外城蔵の修理工事進む ～梅雨の合間に現場見学会～



熊本市南区川尻にある国指定史跡「熊本藩川尻米蔵跡」の外城蔵(東蔵・西蔵)の保存修理工事は、昨年十二月から第一期工事が始まりました。工事は東蔵全体をシートで囲った後、柱などの骨格を取り除いた後、柱を残して屋根瓦や壁、床を取り外す解体を行い、瓦や木材の傷み具合や建築時期の特定が進められています。

地元の方たちを対象にした現場見学会が六月二日に行われ、



東蔵に使用された瓦類

847)の文字がある」との説明を受けました。続いて、梁や柱などの骨格だけとなつた東蔵の屋根に当たる高さの足場か



東蔵屋根よりの見学

ら工事の現況を見学しましたが、参加者たちは改めて先人が残した歴史遺産米蔵の大きさに驚いていました。市文化振興課の担当者は「解体工事でいることや建築木材も時期を見て現場見学会を行いたいとしています。



説明を受ける参加者(東蔵)

の損傷が激しいことなどが分かった。文化庁と協議しながら、工事に連れ根に当たる高さの足場か



見学の川尻文化の会会員



「ふるさとの歴史 川尻」

なお、「熊本藩川尻米蔵跡」外城蔵の保存修理工事は、東蔵に統一して西蔵も予定されており、熊本市文化振興課では今後も時期を見て現場見学会を行いたいとしています。

川尻文化の会便り

【発行】
川尻文化の会事務局
毎月1回発行
発行責任者：荒金謙一
☎ 096-358-5711
(熊本市くまもと芸術会館)



前南史会会長

西橋勇氏逝く

前熊本市南部地域歴史研究会会長を務められた西橋勇氏(八幡十一丁目)が六月八日ご逝去されました。享年八十三歳。故西橋氏は農業の傍ら、郷土の歴史研究を行う熊本市南部からたびべ学習会、熊本市南部地域歴史研究会の会員として川尻地区の歴史史跡の勉強を行なうとともに、川尻ティアで案内されきました。また、川尻文化の会の副会長としても活躍され、2年前からは「ふるさとの歴史 川尻」の執筆に当たられました。西橋勇氏のご冥福をお祈りいたします。

えびすのつぶやき

お伊勢参り その一



「七くさに はやささや
くや ぬけ参りー
宝井(ときかく)

(江戸前期・薦門の高弟)
親や主人、また村役人の許可なしに伊勢参りに行くことを「抜け参り」といいます。勿論、江戸初期には禁止されていました。「せめて一生に一度はお伊勢参りをしたい」は、仰によることは勿論です。庶民の夢でした。お伊勢とは、天照大御神をまつる内宮、豊受大御神をまつる外宮、別宮など12社の総称です。大勢が安心して旅ができるようになつたのは、街道や宿場が整備された江戸時代の元禄期(一六八〇~一七〇四)以降です。しかし、明和二年(一七六五)に「農民の伊勢詣は、

村高五〇〇石毎に一人を認める。ただし、年賃未納者は認めない」というお達で制限されていました。民衆の寺社参詣は江戸時代、伊勢神宮に限らず行くことを「抜け参り」といいます。勿論、江戸初期には禁止されていました。「せめて一生に一度はお伊勢参りをしたい」は、仰によることは勿論です。庶民の夢でした。お伊勢とは、天照大御神をまつる内宮、豊受大御神をまつる外宮、別宮など12社の総称です。大勢が安心して旅ができるようになつたのは、街道や宿場が整備された江戸時代の元禄期(一六八〇~一七〇四)以降です。

男成守寿(山都町矢部)

著「郷党曆代拾穂記」に、寛延四年(一七五一)、御塩焼という御師が矢部の浜町に来て、手永会所に三泊した。その折、「会所玄間に神棚を設けたところ、老若男女が群衆してお賽錢が一日に八〇〇目も集まつた」とあります。神信仰の表れです。

このように、民衆の間で伊勢信仰が根付くと役員の旅費は一家の生活費の一端です。伊勢信仰が盛んだったのは、神社側が「御師」と呼ばれる伝導者を諸国に派遣して信仰熱をあおり、道中の手配や宿泊を請け負う現在の旅行業者の役割をしていたからで、見送り、帰着時には村

境に出迎える「坂迎え」の風習も生まれました。川尻町でのお伊勢参りは個人の希望でできました。

外城町の二軒に道中記が残っています。二軒は「入来屋」の屋号を持つ見原家で、もう一軒は坂尾家です。二軒は親戚ですが、ここでは墨字で詳しく記述してある入来屋の道中記を紹介します。なお、藩政時代の見原家は川平田船を持ち、甲佐や御船、碇用まで包丁」。

農具などの貿易製品や日用品から塩魚等を運び、帰りには納米や大豆、茶、などの農産物を積んで来るなど手広く商いをしていました。また見原家は、川尻町を支配していた町奉行所にも品物を納入していた関係で殿様と呼ばれる町奉行から入来屋の屋号を授かつたとの言い伝えがあります。



西輝喜

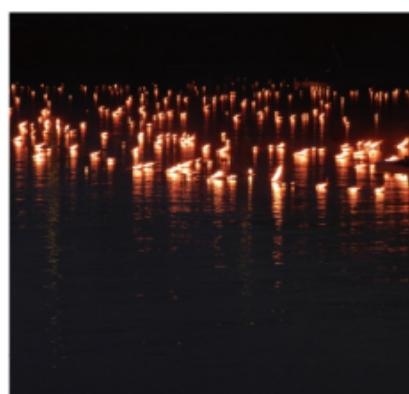
厳かに伝統の精霊流し

細川藩時代、川尻の年中行事として始まつたとされる玉蘭盆精霊流しが、今年も八月十五日夜、加勢川に架かる新町橋上流一帯で行われました。

川尻の精霊流しは、山鹿灯ろう祭り、宇土の地蔵祭りと並び肥後の三大夏祭りのひとつとされ、町住民が守り続けています。

四百年以上の伝統行事で、玉蘭盆精霊流しが、たそがれ時ともなると、川尻の町並みには、浴衣姿の若者達たちや子供やお孫さんの手を引いた家族連れが列を作つて会場に向かう姿が見受けられました。

お盆の最終日の十五日、慈寺の佐藤住職による読経が始まると、加勢川に万灯ろうが一斉に流されます。万灯ろうに続いて、川面は一面火の海と化します。万灯ろうに続いて、今年初盆を迎えたこの遺族たちが持参された精



川面に揺れる万灯ろう



加勢川を流れる精霊船



雅楽演奏と佐藤住職

新通路は從来よりも通

雅楽の演奏に統いて、大慈寺の佐藤住職による読経が始まると、加勢川に万灯ろうが一斉に流されます。万灯ろうに続いて、今年初盆を迎えたこの遺族たちが持参された精

「大正蔵の通路」を一新

焼酎貯蔵庫の見学通路完成、くまもと工芸会館に隣接する瑞鷹株式会社「東肥大正蔵」では、酒貯蔵庫の内部を見学できるガラス窓が配置され、焼酎を寝かせる五百リットル入りの樽群が一望できるよう配慮。さらに、通路の二ヶ所に焼酎貯蔵庫の内部を見学できるガラス窓が配置され、焼酎



通路の窓から工場内部を見学できる

する場として地元の方は勿論毎日県内外からの見学者が訪れていました。東肥大正蔵へは、工芸会館からの通路がありましたが、見学者からの要望の多かった「工場の見学」に応えて、通路をリニューアルしたものです。

路幅を広く、スロープの傾斜角度も緩やかに車いすの方に優しく利用できるよう配慮。さらに、「東肥大正蔵」での新通路は七月二十五日完成しましたが、大正蔵の酒類販売所の営業時間は、従来通り午前十時からは午後五時までとなっています。

大正蔵の酒類販売所の営業時間は、従来通り午前十時からは午後五時までとなっています。

大正蔵出入口(くまもと工芸会館より)

川尻文化の会便り

【発行】
川尻文化の会事務局
毎月1回発行
発行責任者：荒金謙一
☎ 096-358-5711
(熊本市くまもと工芸会館)



えびすのつぶやき

お伊勢参り道中記その二(見原家古文書)



西の宮 島 兵庫県南東部大阪湾沿岸に位置し、神功皇后ゆかりの広田神社の門前町。

尼崎 島 兵庫県東南端、尼崎藩の城下町。

二月二十九日 見学地 (※は注釈)

明石城 ※ 兵庫県明石市 近世の平山城

舞子の浜 本文 船より無趣程よし

一の谷 本文 山の峠に弁慶鍵懸の松見ゆ

須磨の浦 本文 神戸市須磨区 淡路島を望む景勝地

景色難尽筆 ※ 景色は筆に書き表すことも出来ないほどきれいだ。

生田の森 本文 淡路島を望む景勝地

いのくにの森 本文 淡路島を望む景勝地

本文 山の上にあり

本文 一の谷から生田の森までは源平合戦の歴史を色濃く残す。

神戸 泊 ※ 平安末期、平清盛が築造した港で日明交易の拠点

だったが、後で堺が日明の貿易港になる。

年貢米以外の納屋米、麦、大小豆などを積んだ川

民からの商い船に便乗して、神戸で下船。船は商

いをしながら大阪方面までも行くらしい。神戸か

らは伊勢往復は、馬か鷲籠だった。なお、ここま

での名所は帰りの船を持つ間の散策で説明します。

神戸の地名は神功皇后ゆかりの生田神社に由来す

ると言われます。また、平清盛が福原京を営み、源平争乱や湊川の戦いなどで戦場になつたところです。

三月一日 見学地

灘の大酒屋 ※ 兵庫県南東部、六甲山麓斜面一帯の灘は六甲山から

の急流を利用した水車で精米、酒造や絞油で栄えた。

三月一日 八ツ半頃 (二時) 見学地

安治川入り ※ 安治川は琵琶湖から大阪湾に注ぐ旧淀川の分流の一つで、中之島西端より大阪港まで。

天保山入口 ※ 天保二(一八三二)年、安治川の濱瀬(川底のさ

景よし)で出た土砂を安治川の河口左岸に積み上げた。この小丘に高灯籠を設置、河口の目標とした

目標山。幕末には砲台が築かれた。

大坂着船

土佐堀二丁目 油屋番兵衛方泊

同日夕、野庵町より新町まで (夜景) 見物

三月三日 見学地

西・東本願寺 ※ 見原家は先祖の供養を大切にした。京都市下京区御坊南寺

堀川の西本願寺、同じ下京区烏丸通りの東本願寺同日夕、夜店行

三月四日 見学地

堀川の西本願寺、同じ下京区烏丸通りの東本願寺同日夕、夜店行

三月五日 見学地

朝五ツ (七時) 頃より行き夜帰る。道頓堀角座磨

※ 道頓堀角(かどねぼりかどね)座磨此のあたり、見世物いろいろあり大あたり一切二十四文

大坂八軒家浜渡して朝五ツ半(八時)頃乗る。一人前百四十四文。二人前貸切る。

※ 座る場所が窮屈だったので、二人前を支払つてゆ

つくり座つたのでしよう。

えびすのつぶやき

お伊勢参り道中記 その三(見原家古文書)



三月十二日晴

四ツ頃より立打

※四ツ時は現在の十時

三月五日 見学地(※は注釈)

淀御城 ※京都伏見区にあった近世の平城。宇治川と桂川の合流点にある水車あり

側室の淀殿が入った。伏見城の築城で廢城となる。

※淀城は淀川の中州にあり、北と西の二カ所に揚水用の水車(淀の水車)を備えていた。

七ツ時伏見着船、※七ツ時は現在の午前四時、若しくは午後四時

夫より京都六条
吉田院に泊り

三月六日

六角堂 ※通称六角堂と呼ばれる頂法寺は、京都市中京区にある。

四天王寺の建立に際し、聖徳太子がこの地に六角堂を建て、如意輪観音を安置した。嵯峨天皇の勅願所。

清閑寺 ※京都東山にある真言宗の寺。長德二年(996)、勅願寺に指定されたが、大治四年(1129)焼失。再建後、

六条天皇、高倉天皇を寺内に葬る。

三月七日 三拾三間堂 ※京都東山区にある天台宗のお寺、蓮華王院の本堂。後白

川法王が平清盛に命じて堂舎、等身大的千手觀音像を造

當させた。本堂三拾三間堂で知られる本堂は国宝。

小町寺 ※京都市左京区にある補陀洛寺。小野小町終焉の地と伝えられ、境内には小町供養塔、姿見の井戸がある。

西宗寺 ※山科の道なり。この裏手に月見の石あり。蓮如上人御秘

藏南殿月見の石とあり。

二条城 ※京都市中京区にある近世の平城。世界遺産。

朱坂・桂川・嵐山蒸桂川のうち嵯峨から松尾にかけての流域を大堰川と

渡月橋など いう。嵐山・小倉山・渡月橋などのある著名な景勝地。「けいしゆふでにえがきがたし」

紫野大徳寺 ※京都市北区にある臨濟宗の寺。

神護寺 ※京都市右京区にある真言宗の古刹。高雄山寺とも言

清滌川此辺有 われ最澄、空海がここで法会を開いた。勅願寺。

北野 ※天満宮がある。

平野 ※平野神社

二条 ※二条河原の落書きで有名

三月十三日

金毘羅社参詣 ※讃岐の国刀比羅宮、つまり金毘羅は香川県琴平

なので、そこへ参詣する人々を運ぶ船の港ではないかと思われる。

それより蔽下 崇拜物に行く

三月十七日晴

西御本山御座敷拝見 虎の間 波の間 御対面処 鶴の間 雁の間 自書院 御能舞台 古

懇絵印事(俗称)※清淨光寺。時宗の總本山

遊行寺(俗称)※清淨光寺。時宗の總本山

東福寺 ※京都市東山区にある臨済宗東福寺派の總本山。寺名は東大寺と興福寺からとり、本草の根源如来像

は高さ十五メートル。

通天橋 紅葉の名所 秋は此處茶屋多く出来す 誠によき場所なり

藤の森 ※松高場と名つけし石あり(原文のまま)

かわしり春ものがたりがスタート 寺フェスタは大賑わい

川尻町内の各種団体とくまもと工芸会館が協力して15年間に亘つて開催してきた「川尻月間」が、今年から事業内容の一部を見直し、また新たなイベントも参加しての「かわしり春ものがたり」としてスタートしました。かわしり春ものがたりのイベントを2月の第一土・日と3月の第一土・日に集中させようというものです。



格揚体験(常清寺)

川尻の住職さんたちが宗派を超えてお寺で「川尻お寺deフェスタ」がお目見え。川尻地区にあるお寺の住職や副

は、2月6日(土)の和菓子とのふれあい工房で開幕、翌7日(日)には、

3月恒例の瑞慶酒造の「川尻の酒蔵まつり」でかわしり春まつりは終了しましたが、今年は修復工事中の国史跡川尻米蔵

として15年間に亘つて開催してきた「川尻月間」が、今年から事業内容の一部を見直し、また新たなイベントも参加しての「かわしり春ものがたり」としてスタートしました。かわしり春ものがたりのイベントを2月の第一土・日と3月の第一土・日に集中させようというものです。

川尻町内の各種団体とくまもと工芸会館が協力して15年間に亘つて開催してきた「川尻月間」が、今年から事業内容の一部を見直し、また新たなイベントも参加しての「かわしり春ものがたり」としてスタートしました。かわしり春ものがたりのイベントを2月の第一土・日と3月の第一土・日に集中させようというものです。



精進料理(正行寺)



ライブコンサート(西蓮寺)



川尻米蔵跡の見学会



ラックルくん



川尻町を疾走するランナー

第五回熊本城マラソン、 尻路を一万三千人が快走

跡の「外城蔵跡」が一般公開され大勢の人が驚嘆していました。なお外城蔵跡の内部公開は二十八年度も行われる見込みです。



文化の会もアスリートを応援

川尻小学校のシンボルマークスコット、ラックルくんが各お寺の掛け持ちでくる大忙しのイベントとなりました。

川尻小学校のシンボルマークスコット、ラックルくんが各お寺の掛け持ちでくる大忙しのイベントとなりました。

川尻小学校のシンボルマークスコット、ラックルくんが各お寺の掛け持ちでくる大忙しのイベントとなりました。

フルマラソンコースに当たる川尻地区の沿道には今年も町民が陣取り、めぐりフルマラソン(歴史めぐりフルマラソン)は2月21日(日)午前9時、熊本市通町筋をスタートし、熊本市南部、西部を駆け抜け熊本城二の丸をゴールとするコースで競われました。当日は朝から快晴に恵まれ、前年同様絶好のマラソン一日和となりました。

フルマラソンコースに当たる川尻地区の沿道には今年も町民が陣取り、めぐりフルマラソン(歴史めぐりフルマラソン)は2月21日(日)午前9時、熊本市通町筋をスタートし、熊本市南部、西部を駆け抜け熊本城二の丸をゴールとするコースで競われました。当日は朝から快晴に恵まれ、前年同様絶好のマラソン一日和となりました。

尾後大輔氏

川尻を支えて来た加勢川の護岸改修などを管轄する国交省緑川下流出張所長に

川尻を支えて来た加勢川の護岸改修などを管轄する国交省緑川下流出張所の新所長に、尾後大輔氏(国土交通省九州地方整備局・福岡市)が決まりました。

これまで熊本藩川尻蔵跡の国史跡指定後、加勢川両岸の整備事業に奔走されて来た後田浩二氏は大分川ダム工事事務所へ転任されます。

(平成二十八年四月一日付)

川尻文化の会便り

【発行】
川尻文化の会事務局
毎月1回発行
発行責任者 荒金鉢一
☎ 096-358-5711
(熊本市くまもと工芸会館)



えびすのつぶやき

お伊勢参り道中記その四(見原家古文書)



三月一八日 平等院 鳳凰堂(平等公墓) 救濟の院にある阿弥陀堂) 鎧かけの松 日野薬師 腹帶地蔵

※京都府宇治市宇治蓮華にある寺。藤原道長の子、頼通が別荘を寺として創建。天台宗、淨土宗。

三月一九日 本国寺 加藤清正公墓 当院消失の跡 普請

※阿弥陀とは淨土教の中心をなす仏。修業中に衆生願をたて、現在は成仏し西方の極楽淨土で教化しているとされる。自力で成仏できない人も、念佛を唱えれば、その教説によって極楽に往生すると説く。

平安時代に信仰が高まり、淨土宗、淨土真宗の本尊となる。

三月二十一日 東大寺

※大仏殿

柱数 四百七十六本
庫舎那(仏) (通常) 奈良 の大仏という)
御長サ 五丈三尺六寸
御頭 一丈六尺 巾九尺
眉 五尺四寸五分
御目 三尺九寸
御口 三尺七寸
御鼻口 三尺

※奈良仏教は、皇位の安泰、国家の平安。

五教(五種)を

相の山越

外宮 豊受大神宮 八十未社宮 めぐり

天の岩戸、高間ケ原
これより下り、かごに乗る

三昧縁ひき多し

※相の山、伊勢市の内宮と外宮の間にある
三昧縁ひきがすらりと道の両側にゴザ、ムシロを架けその前で三昧縁を弾いて通行をする人々から施しを受け取っていた。

西輝喜

三月二十四日 御廟所 蓬莱山 前に茶屋有 人皇十一代垂仁天皇御廟所 大池なり池中に大なる坊あり、樹竹多し

朝 三月二十八日 御雜煮(角餅二つ、花かつおキミ) そうめん 香の物(小皿) 右膳引籠本膳 青身 御汁 ブリ 枝とうふ スルメ 猪口 御飯

ひとりの接客人 一人前 百三十六文まで

折る護國家の仏教であった。特に聖武天皇の時代には変遷地異が相次いた。そこで國家を鎮護しため出されたのが國分寺建立の詔(738年、天平十一年)である諸国に國分寺、尼寺の建立工事が進められ、全國總国分寺として東大寺の造営が企図されたのです。

熊本地震の爪痕深い川尻 復興へ胎動

川尻小学校、南部万年青会館が被災者の避難所に充てられ多くの町民が避難所や車内などで不安な不自由な日々を送られました。が、校区自治会や社会福祉協議会、民生児童委員会が、校区の十三戸余りの家が



大慈寺

熊本地震から半年が経つ川尻町内は、今までの道のりに歴しきが感じられます。四月十四日位に続く十六日の本震では、瑞應酒造をはじめ大慈寺などの町内すべてのお寺、各家々が被災されました。

の方々などが「炊き出し」や「飲料水の確保」に奔走され、町全体が一體となって助け合いをしてきました。

川尻文化の会便り

【発行】
川尻文化の会事務局
毎月1回発行
発行責任者 荒金鉢一
☎ 096-358-5711
(熊本市くまもと工芸会館)



解体が始まった瑞應・大正蔵



新町横断



四丁目

被災した川尻町内

熊本地震での被害は余

りにも規模が大きく、ラ

イフラインが寸断された

ことと大きな余震が相次

いいため、各地の修復工

事は見通し立たない

不安な生活を余儀なくさ

れました。明治二十二(1889)年七月二十八日

の熊本地震では大渡町を

倒壊、七人の方が亡くなられましたが、今回地震で犠牲者が出なかつたは不幸中の幸いでした。町内では、至る所で復興、復旧への工事が始まっていますが、川尻の社の大半と一緒に家の代名詞ともいえる瑞應株式会社の本蔵、大正蔵の解体、修復工事もやつと始まつたばかりです。寺は、予定を繰り上げての西蔵の修復工事も視野に検討を始めています。

瑞應、復旧への工事が始まっていますが、川尻の社の大半と一緒に家の代名詞ともいえる瑞應株式会社の本蔵、大正蔵が落ち、東西の壁面が損壊しました。熊本市では、予定を繰り上げての西蔵の修復工事も視野に検討を始めています。

昨年から修復工事が進められています川尻米蔵跡の東蔵(通称二百坪蔵)は、熊本地震で大きな被害をどうにか免れました。しかし、西蔵(通称六十坪蔵)は、屋根瓦が落ち、東西の壁面が損壊しました。熊本市では、予定を繰り上げての西蔵の修復工事も視野に検討を始めています。



被災した西蔵



勢い余って...

しかし、熊本地震が終息しておらず、今後の川尻米蔵跡全体の工事、来年の「かわしり春ものがたり」での米蔵跡見学会について、熊本地震の余震の推移次第となりそうです。

その中には、川尻小学校、南部万年青会館が被災者の避難所に充てられ多くの町民が避難所や車内などで不安な不自由な日々を送られました。が、校区自治会や社会福祉協議会、民生児童委員会が、校区の十三戸余りの家が

川尻米蔵跡西蔵が被災

秋空の下「市民のつどい」

川尻校区体育祭

今年で二十五回を数え

る校区体育祭は十月九日

川尻小学校グラウンドで開

かれ、校区の市民1,000

人が参加しました。当

日は朝までの大雨が、

まるで嘘のように上がり

青空の広がる絶好の運動

会日和に恵まれました。

開会式で五町内の浅木紀

年自治会長が「転ばない

よう頑張ります」と選手

宣誓し、競技に移りました。

町内会代表の選手た

ちは、町内の応援団の声

援を受け力走、中に勢

い余つて転ぶランナーも

あり、会場は一日中大き

な歓声と笑い声が響いて

いました。

えびすのつぶやき

お伊勢参り道中記 その五(見原家古文書)



伊勢の旅籠屋の
献立などの原文
写し
ですが、「ご容赦ください」。

*江戸初期までの宿屋は、
自炊、宿屋は薪を提供するのみ。宿泊料は木貫(キスル)とし
て取っていた程度の接待でした。しかし、幕末の頃
になると、美味しい土地の名物を提供する食事へと
変わっています。



内宮



外宮

内宮(ないくう) *宮を清音に読むのが伊勢宮での慣習、外宮(げくう)

上記 本膳、二ノ膳 出発前のお茶菓子

体	林	小	一
休	林	休	休
休	休	休	休
休	休	休	休
休	休	休	休

二	膳	小	一
休	休	休	休
休	休	休	休
休	休	休	休
休	休	休	休

朝熊(あさま)
山登 六十丁
本社虚空蔵菩薩
合拾三坊〇〇
万金丹薬店
十七八丁メニ
茶屋有
峠茶屋にて太夫
殿〇馳走左之通
*途中に万金丹薬店あり。
遠眼ガネで街を眺める
峠の茶屋にて太夫殿より馳走を要ける

*料理献立表は紙面の都合により省略

*三重県伊勢市二見町の海岸の景勝地。東端に夫婦岩(めおといわ)
がある。日の出は特に有名で迎拜者が多い。

鏡社
二見町
まで百丁

これより二見

西輝喜
見店多し

天照大神宮
うじ橋
とんぼり

*皇大神宮の境内に架けた五十鈴川上の橋(同名が京
都府宇治市の宇治川に架かる)



宇治橋(御陵灌橋)

*朝熊山は、伊勢神宮の山宮として信仰されている靈山。
伊勢・志摩の境界 一丁は一〇九メートル

朝熊(あさま)
山登 六十丁
本社虚空蔵菩薩
合拾三坊〇〇
万金丹薬店
十七八丁メニ
茶屋有
峠茶屋にて太夫
殿〇馳走左之通
*途中に万金丹薬店あり。
遠眼ガネで街を眺める
峠の茶屋にて太夫殿より馳走を要ける

*料理献立表は紙面の都合により省略

一万二千人が川尻路を疾走

熊本城マラソン2017



工芸会館前



川原駅前通り

熊本城マラソンは二月十九日、市内繁華街を周回する復興チャレンジマラソン(3キロ)、熊日30キロロードレース、そして歴史めぐりフルマラソンの3つの部に分かれて行われました。熊本市通町筋をスタートして熊本市の南部・西部を回る4.2-19キロのフルマラソンは、参加者全員が熊本地震で亡くなられた方へ黙とう挙げた後一斉にスタートしました。

県内外から参加したアスリートたち、時代を反映したコスチュームに身を包んでマラソンを楽しむランナーたちに、町内沿道からは太鼓やラップに加え、酒樽を打ち鳴らしての大支援が贈られました。



酒樽を叩いて



瑞應本藏前

当日の天気は快晴、日中の気温は13度とアスリートにとっては気温が高かったものの、川尻町では今年も町民総出の「おもてなし」の応援合戦が繰り広げられました。

十一回川尻米蔵跡周辺整備事業協議会で明らかにされたものです。同協議会には、市から田上聖子経済観光局長、濱田安武士文化振興課長、佐藤士工芸課長、福島慎一商業金融課長、村恵章広都市政政策課副課長、岩坂隆幸土木総務課課長補佐、工藤忠義觀光政策課主査、小関秀典文化振興課主幹、南区役所南部出張所の菊地徹所長ら、川尻文化の会から荒金会長、牛島副会長、増永委員、田辺市議らが出席しました。そして、昨年春

の熊本地震で協議が中断していたため、改めて多目的広場の総合的な利活用、トイレの設置、米蔵跡の修復工事に全力

を上げており未定。今後

川尻米蔵跡全体の公開は平成三十二年度頃に



修復が進む東蔵

【発行】
川尻文化の会事務局
毎月1回発行
発行責任者 荒金鉢一
☎ 096-358-5711
(熊本市「まとも工芸会館」)

田原坂・熊本城・川尻の連携での日本遺産推進等の事業を確認しました。

の調査結果を踏まえて検討したいとの方針を述べました。この後、来年度に「川尻地区の傷んでいる史跡の標本・説明板の調査・新設のために本市関係部署と文化の会とで委員会」を設置。米蔵跡の一般公開に間に合わせることになりました。



川尻商店街連合会(福山龍太郎会長)では、各店舗で製造・販売する商品に下心〇〇と名付けた「下心シリーズ」の運動を始めた。今回完成した「下心どら焼き」

の調査・検査が必要で、予定が変わることもある」との見解を示しました。

また、西蔵の軸体解体損傷の状況次第では、

山龍太郎会長によると、「下心どら焼き」は菓匠雨田屋さんが作ったもので、「どら焼きに「心」の文字を焼き入れてあります。このどら焼き3個箱入りで600円ということがあります。川尻商店街では、今後各店舗でこの「下心商品」の開発を行うといふことです。

の調査結果を踏まえて検討したいとの方針を述べました。この後、来年度に「川尻地区の傷んでいる史跡の標本・説明板の調査・新設のために本市関係部署と文化の会とで委員会」を設置。米蔵跡の一般公開に間に合わせることになりました。

川尻文化の会便り

史跡説明板・標柱の刷新へ

これは、熊本市と川尻文化の会で構成する「川尻米藏跡周辺事業協議会」で、検討を進めていた「川尻町(周辺地区を含む)の史跡等の説明板・標柱の調査、説明用語の統一・多国語の対応を検討」を進めもので。作業に当たる委員は、川尻文化の会の荒金鍊一、牛嶋一實、河原良吉、増永栄の各委員と熊本市南部地域歴史研究会の白石肇会員の6人です。

史跡説明板・標柱の検討委員会は、5月に発足、これまで川尻文化の会(荒金鍊一会長、委員26人)で調査を続けてきた「川尻地区の史跡等の説明板・標柱の損傷、文面の内容が現代に通用するか否か、また各史跡の説明内容が現代性があるかなどの調査に入りました。

これら史跡の案内板や標柱の所管は、熊本市の文化振興課を始め、

観光政策課、教育委員会、南区役

川尻文化の会便り

【発行】
川尻文化の会事務局
毎月 1 回発行
発行責任者 荒金鍊一
☎ 096-358-5711
(熊本市くまもと工芸会館)



新会長に

肥後象がんの大住裕司
一般社団法人くまもと工芸協会、

熊本ホテルキャスルで開かれました。そして、任期満了に伴う役員改選が行われ、新理事9人が選出された後、肥後象がん

大住裕司理事(60)の第五代会長(代理)が就任されました。その後、肥後象がんは、「需要が伸び悩み、また後継者不足に苦しむ伝統工芸の振興に全力を上げて当たります」と決意を述べました。

から交流のある川尻の方々を交え「熊本市くまと工芸会館、くまもと工芸協会の創立 20+1 の記念の夕べ」のひと時を楽しみました。

史跡案内人養成講座始まる

ボランティアで川尻町の史跡を案内する人は、現在、平成24年に開催された史跡案内人講座を受講した牛嶋一實さん、村上

ふじ子さん、増永栄さん

所などにまたがるため、委員会では、今年一年間をかけて調査を行う予定です。そして、来年度には熊本市の各所管と協議を進めながら、説明板と標柱の文面の刷新を進めたいとしています。



JR 川尻駅前 伝統の町

駅前は、通勤・通学の方が駐車する自転車、バイクが路旁で溢れ町の景観を損なう上、観光客の不評を買つてしましました。

このため熊本市は、駅前の整備事業として、JR 所有の 775 平方メートルを借り受けた駐輪場を完成させたのです。新駅輪場は 6 月 10 日オープンしましたが、2 週間を超えると強制移動さざれるということです。なお、駅前は、ロータリー広場となり、一般車両の方向転換がスマーズになりました。

駅輪場は 6 月 10 日オーブンしましたが、2 週間を超えると強制移動さざれるということです。なお、駅前は、ロータリー広場となり、一般車両の方向転換がスマーズになりました。

その後、工芸協会の会議室で6月から7月までの毎週水曜日、午後1時から2時間のコースで行われ、受講



完成した駐輪場

川尻駅前に駐輪場が完成

R 川尻駅前の「熊本市川尻駅自転車駐車場」は、JR 川尻駅西側の駅駐車場の一角(自転車 422 台、原付バイク 18 台)と同駅東側の一角落(原分)と同駅東側の一角落(原

熊本市が進めていた)JR 川尻駅前の「熊本市川尻駅自転車駐車場」は、JR 川尻駅西側の駅駐車場の一角(自転車 422 台、原付バイク 18 台)と同駅東側の一角落(原分)と同駅東側の一角落(原



同総会の後、工芸協会の会議室で6月から7月までの毎週水曜日、午後1時から2時間のコースで行われ、受講

は無料です。川尻地区の歴史、史跡に興味のある方は、ぜひご参加下さい。

かわしり遍路

雨だれが石を穿つお寺

川尻町には、四百年という長い歴史を持つお寺が多く「川尻に十五寺あり」といわれるほどである。川尻の夏の風物詩として知られる精霊流しは、長い歴史を生き抜いてきた人々の信仰心に裏付けされていると言つても過言ではない。

旧市道沿いの河尻神宮を後に、川尻五叉路を経て、JR 川尻駅前の交差点を過ぎたところに、光明山遍照寺(川尻一丁目三十一)という古刹があります。寛永二(1625)年に了義坊祐謙が開いたとされる浄土真宗本願寺派のお寺で、十五世夏野憲浩住職が、往生札讀(1)と自信教人信(2)を寺の理念としており、「本尊は阿弥陀如来です。遍照寺は昭和の初め、失火により焼けて現在はこじんまりした本堂になっていますが、



境内の一角には藩政時代から川尻町で薬種問屋や草津餅店を営んだ近江商人、草津屋の歴代の墓があることで知られています。



光明山遍照寺

寺の正面道路に面して山門をくぐると、雨だれが時を刻み続けた石段が、忍耐が足りない、規則を守らないなどの相談、焼けて現在はこじんまりして地表には至らず、山門のスポーツを通して大成した

瓦から雨滴となつて基礎石を叩きます。降った雨が、音に「最後を恥じず」を口にします。たとえ遅くとも、休まず前に進めば、のでしよう。硬い石には座みができる、その座みは次第に大きく、深くなり、山門の屋根瓦の真下に雨穴が一列に並んでいます。

四百年の間にどんな出来事があったんだろうか。季節の移ろいは春夏秋冬の年輪を刻んで変わらないとしても、人の世には激しい盛衰があり、物言わぬ雨滴の跡には無常さを感じます。單なる石に刻んだ雨跡かも知れません。が、私は、「この雨滴の穴が、人生訓として忍耐の大切さ」を教えていていると思わざるを得ません。

私は、教壇に立つて大切さ」を教えているところ、保護者の方々から子供がものを大切にしない、思ふがものを持てます。山門の雨滴を数多く受けました。＊(1) 往生札讀 中國唐音に「最後を恥じず」を音に「時代の淨土教の高僧 善導大師(613~681)にします。たとえ遅くとも、休まず前に進めば、が、いつか目標に達するのでしよう。硬い石には座みができる、その座みは次第に大きく、深くなり、山門の屋根瓦の真下に雨穴が一列に並んでいます。

＊(2) 自信教人信 親鸞聖人が布教伝道の指針とした善導大師の「自ら信じ人を教えて信じせしむる」という教え。

＊(3) 采根譚 中国明時代の書で人ととの交わり、自然との楽しみを説いた処世訓の書。日本では加賀藩の儒教学者林藻坡によって文化5(1802)年に刊行され、禅僧2)年に発刊され、禅僧の間で広く愛読された。

＊(1) 往生札讀 中國唐音に「最後を恥じず」を音に「時代の淨土教の高僧 善導大師(613~681)にします。たとえ遅くとも、休まず前に進めば、が、いつか目標に達するのでしよう。硬い石には座みができる、その座みは次第に大きく、深くなり、山門の屋根瓦の真下に雨穴が一列に並んでいます。

＊(2) 自信教人信 親鸞聖人が布教伝道の指針とした善導大師の「自ら信じ人を教えて信じせしむる」という教え。

＊(3) 采根譚 中国明時代の書で人ととの交わり、自然との楽しみを説いた処世訓の書。日本では加賀藩の儒教学者林藻坡によって文化5(1802)年に刊行され、禅僧2)年に発刊され、禅僧の間で広く愛読された。

荒金 錬一



石段の雨滴

＊(1) 往生札讀 中國唐音に「最後を恥じず」を音に「時代の淨土教の高僧 善導大師(613~681)にします。たとえ遅くとも、休まず前に進めば、が、いつか目標に達するのでしよう。硬い石には座みができる、その座みは次第に大きく、深くなり、山門の屋根瓦の真下に雨穴が一列に並んでいます。

＊(2) 自信教人信 親鸞聖人が布教伝道の指針とした善導大師の「自ら信じ人を教えて信じせしむる」という教え。

＊(3) 采根譚 中国明時代の書で人ととの交わり、自然との楽しみを説いた処世訓の書。日本では加賀藩の儒教学者林藻坡によって文化5(1802)年に刊行され、禅僧2)年に発刊され、禅僧の間で広く愛読された。

川尻の酒蔵、第一期工事始まる

東肥蔵、本蔵で起工式

川尻の繁栄の歴史を今に留め、景観重要な建造物等に指定されている川尻中町一帯を形成する瑞鷹株式会社(本蔵・吉村邸など)と同社東肥蔵は、昨年の熊本地震で甚大な被害を受けました。同社は、事業部を開設したものの地震規格が大きくなり復の見通しさえ立たない状況でした。

そんな中、復興を急ぐ瑞鷹株式会社は、増永会社(本社・吉村社長)と工事請負契約を締結し、今年度(第一期工事)に①東肥蔵の酒蔵二棟を解体して工場一棟を新築する。②本蔵の床面積を縮小して、新築する。③本蔵の西の蔵等を解体する。来年度(第二期工事)に本蔵の大蔵

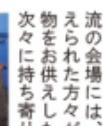


被災した東肥蔵事業部を開設したものの地震規格が大きくなり復の見通しさえ立たない状況でした。

川尻の繁栄の歴史を今に留め、景観重要な建造物等に指定されている川尻中町一帯を形成する瑞鷹株式会社(本蔵・吉村邸など)と同社東肥蔵は、昨年の熊本地震で甚大な被害を受けました。同社は、事業部を開設したものの地震規格が大きくなり復の見通しさえ立たない状況でした。

川尻の繁栄の歴史を今に留め、景観重要な建造物等に指定されている川尻中町一帯を形成する瑞鷹株式会社(本蔵・吉村邸など)と同社東肥蔵は、昨年の熊本地震で甚大な被害を受けました。同社は、事業部を開設したものの地震規格が大きくなり復の見通しさえ立たない状況でした。

川尻の繁栄の歴史を今に留め、景観重要な建造物等に指定されている川尻中町一帯を形成する瑞鷹株式会社(本蔵・吉村邸など)と同社東肥蔵は、昨年の熊本地震で甚大な被害を受けました。同社は、事業部を開設したものの地震規格が大きくなり復の見通しさえ立たない状況でした。



川尻文化の会便り

【発行】
川尻文化の会事務局
毎月 1 回発行
発行責任者 荒金鉢一
☎ 096-356-5711
(熊本市くまもと工芸会館)



加勢川に架かる新町橋上流の会場には、初盆を迎えた方々が故人の好物をお供えした精霊舟を次々に持ち寄りました。夕闇が濃くなつた頃、雅楽の演奏に続いて、大慈寺の佐藤住職が鐵入れを行つて工事の安全を祈りました。

「肥後彦がんや瑞應の記念酒」も、今年は、幕藩体制が終焉を迎えて、黎明日本の夜市ではこれを記念したプロジェクトを立ち上げて、各種行事を展開していくます。9 月には、事業に参画した十八の都市が、世界遺産の二条城内で「全国各地の伝統」を持ち寄つて、世界遺産の二条城での大行わ

月三日起工式が行われました。式には瑞鷹株式会社の社員や工事関係者ら五十人が出席して神事が行われました。吉村浩平社長らが鐵入れを行つて工事の安全を祈りました。

川尻の繁栄の歴史を今に留め、景観重要な建造物等に指定されている川尻中町一帯を形成する瑞鷹株式会社(本蔵・吉村邸など)と同社東肥蔵は、昨年の熊本地震で甚大な被害を受けました。同社は、事業部を開設したものの地震規格が大きくなり復の見通しさえ立たない状況でした。

川尻の繁栄の歴史を今に留め、景観重要な建造物等に指定されている川尻中町一帯を形成する瑞鷹株式会社(本蔵・吉村邸など)と同社東肥蔵は、昨年の熊本地震で甚大な被害を受けました。同社は、事業部を開設したものの地震規格が大きくなり復の見通しさえ立たない状況でした。

川尻の繁栄の歴史を今に留め、景観重要な建造物等に指定されている川尻中町一帯を形成する瑞鷹株式会社(本蔵・吉村邸など)と同社東肥蔵は、昨年の熊本地震で甚大な被害を受けました。同社は、事業部を開設したものの地震規格が大きくなり復の見通しさえ立たない状況でした。

お盆最終日の八月十五日、



川尻精霊流し



京都二条城

川尻の精霊流しは、細川藩時代に年中行事として始まり、四百年以上も続く伝統行事です。

川尻公会堂は再来年の春竣工

国史跡川尻米藏跡は四年後に

熊本市からスボーツ交流部の田代課長・土木建設部の猪俣課長、商業金融の猪俣課長、都政政策の岩崎副課長、公園課の高松主幹、文化振興の小林専門委員長、観光政策の小林主査、南部まちづくりセンターの菊地所長が出席、川尻文化の会から荒金長、河原・増永両委員長、オブザーバーとして田辺市議、熊本市議、くまもと工芸大



川深米蘭總經理會協議會



修復工事中の川尻米政跡



工事が始まつた
川原谷会堂

そして、文面が判読しづらい、劣化しているという指摘のある史跡等の看板・標柱35か所について、川尻文化の会の調査や文面・状況が提出された。協議では、今後の資料を参考にして①建て替え、②複数の文面の多言語化、③設置場所の順次検討する。また、文化の会では、米蔵跡の修復工事が終わる三十二年までに

蔵の復旧工事に伴い、工事関係者の車両、資材搬入場となるため、米蔵跡の一般公開に平行して、一般使用者用の駐車場整備など総合的活用を検討する。また、国指定川尻米蔵跡の修復工事は、東京跡（二百坪蔵）が先月

史跡川尻米蔵跡周辺事業化の会で行われている国際化の会で明瞭になつた協議会で明らかになつたもので、第十二回目の同協議会は、十一月十六

金館の花時回歌(五集)

[発行]
川尻文化の会事務局
毎月1回発行
発行責任者 荒金據一
☎ 096-358-5711
(熊本市くまもと工芸会館)



史跡案内板・標柱の調査資料

西南戦争と川尻

西南戦争と川尻
～錦絵でみるその時～
来年一月二十五日より展示会

春までに表示板の更新
新設を再度要請しましたが
合わせて、川尻四つ角を
ら多目的広場出入り口までは、
観光バスや自家用車の
車の増加が見込まれるた
め、交通の障害となるる
柱の地化中、無電柱化を
是非進めるよう申し入れ
ました。

各種展示会やイベントを企画していきます。政府軍と西郷隆盛率いる薩摩軍が激突した西南戦争は、熊本城から南に8キロメートルに位置する交通の要所として早くから人気を博していた川尻町を巻き込みました。北上を開始した薩軍にとって避けられることのできない「川尻町」にある川尻町は、「薩摩本陣」「後方基地」として多くの野戦病院、「戦死

「錦絵で見るその時」
来年一月二十五日より展示会



熊本川尻口本堂之因

者の收容、「緑川の戦い」に統じての「官軍の本陣」と半年近くの「官軍の本陣」も半ば同じである。まことに、身代金をめぐる少しき動きを強められ、船火から川民を守つた鎮撫隊の誕生と隊長上田休の処刑も悲しいことでもある。

くまもと工芸会館ではその当時の川尻の状況を貴重な錦絵(200点余)と県政資料、ジオラマで

かわしき遍路



薩州墓のあるお寺

バス通りの川尻四ツ角交差点を東に折れ、通称、横町筋に入るとその突き当たりに見えるお寺が無動山正

歴史の大変革の苦難を味わいながら、仏道を全うした第三十代住職、伝弘応師の言動、そして「義のためなら

す。町挙げての救護が行われたのです。

A photograph showing a man from behind, wearing a dark suit, standing at a memorial site. He is looking towards a plaque on a stone monument. A small shrine with offerings is visible in the background.

西南戦争薩軍戦没者慰靈祭
に慰靈します。哀悼の意を表すには川内市

お寺や町民の方々の博愛の心こそ、同じ自由民権を標榜した義烈の人たちが、立場の違いによって戦った西南戦争の中につつても、「愛を愛する」という薫り高い出来事ではないでしょうか。

地頭、河尻三郎実明によつて建立されたとされ、河尻氏の祈願寺です。山門を入ると古色蒼然とした本堂の前に広がる境内には四季折々の草花が咲き乱れ、大

無動山 無動寺



延壽寺館內

きな「西南役隨軍戦没者墓碑」、「薩軍本營並野戰病院跡」、豪潮禪師建立の「宝鏡印塔」の3つの石碑が目に飛び込みます。

二月二十二日の熊本城の戦いで火ぶたが切られ、熊本城西門側の段山の戦いや田原坂・山鹿口、高森とへと広がり、同時にそれらの激

ない、死者の埋葬、供養に悔いることなし」と述べたそうです。

毎年四月、桜花爛漫の頃、延壽寺の境内には薩摩・大隅・日向出身の関係者の本州主催の西南作戦で薩軍戦没者慰靈祭が執り行なわれます。横町の方々は各軒先に半旗を掲げ、遠く鹿児島から参列に訪れる遺族

鹿児島の私立学生を中心とした薩摩士族たちが、韓論に敗れ下野した陸軍大佐西郷隆盛を擁して政府軍と駆つた武力反乱。丁丑年ともいってもよい。(二月二十二日から九月二十四日の西郷隆盛らの自刃まで七ヶ月間に亘り、國を思う純粋な若者たちが戦死するという「源しても止まない」痛ましい戦いでした。

天台宗。河尻實明の建立で開祖は快智法印氏、本尊は不動明王。天保二（18

- 108 -

新酒蔵出し市、史跡巡り賑わう ～かわしり春ものがたり～

屋根瓦を既存のものと新規
屋本地震で修復工事の変
更を余儀なくされた「国史
跡 川尻米蔵跡」は、東藏
跡の修復が終わり、今年か
ら西蔵跡の工事が行われて
います。今年は、この米蔵
跡をかわしり春ものがたり
期間中に 2 回一般公開しま
した。東蔵跡（通称「O
坪蔵」）は、九龍の故のある
川尻文化の会便り



天井の竹野地

正月から始まった「20
18かわしり春ものがた
り」の弥生（三月）ものが
たりは、うるわしくコンサート、
米蔵見学会、瑞鷹新酒蔵
出し市などが行われ、季節
外の暖かさもあって、大勢の方
が訪ね、川尻の春を大満喫し
ました。



新酒蔵出し市会場

暖かさ
下旬の
4月
度を超
るとい
ます。今
年は、こ
の米蔵
跡をか
わしり
春もの
がたり
期間中
に 2 回
一般公
開しま
した。

川尻文化の会便り

に復元したもののが現在、美しいコンラストをなしています。また、内部は一事で新たに明らかになつた建築方法を基に、屋根裏を従来の「野地板」から竹組んだ「竹野地」仕上げがされています。さらに、本來の蔵は、現在より北方向に長く建てられていました」となどが見学者たちに説明され、瑞鷹株式会社の新酒蔵生産を祝う恒例の蔵出し市は、瑞鷹が先の熊本地震で工場のほとんどが被災し、今年も川尻小学校を通りを運営止め(歩行者天国)にして行われました。瑞鷹は、当初の予報が外れ、天候は、日中の気温が20度前後まで上昇するとい

川尻文化の会便り

【発行】
川尻文化の会事務局
毎月 1 回発行
発行責任者 荒金鉢一
☎ 096-358-5711
(熊本くまもと工芸会館)



の好天となり、会場には県内外からお酒爱好者の老若男女が行列をつくりました。新酒を販賣し求める人、車座になって話に花を咲かせるグループなどを会場周辺は終日賑わい、新酒蔵出し市を訪れた方は、数十人に上つたということです。

（以下略）

大慈寺の梵鐘 修復終わる



梵鐘の設置作業

二十七日には、大慈寺の
佐藤住職が梵鐘の突き初め
落成式を行ない、これまでと変わら
ず大きな鐘の音が野田町一
体に響き渡りました。

（以下略）

新成人四十四人が出席
式典

式は、一月三日、料亭いわ
村に自宅会や民生委員婦
人会ら 120 人が見守る
中、真新しい背広や晴れ着
姿の若者が出席して行われ
ました。式では、米津綱二
公民館館長が「これから社
設設が行われた元の場所への
修復は、奈良県の修理業
社が当たり、修復を終えた
鐘を慎重に鐘堂の中に入
れた後、ジャッキで少しす
り持ち上げ、元の位置に吊
り下げました。



川尻校区成人式

会人として、一人の人間と
して自分の人格、教養、技
術高揚に努め、規則正しい
生活を送って下さい。とお祝いの言葉を贈りました。これに対して、出席した新成人を代表して、八町内の開智太さんら 3 人が
「大人の一員として子供達のお手本になれるよう頑張ります。」と今後の夢を語りました。十町内の米津はるかさ
りが式典進行役・記念撮影等に
おられの言葉を述べました。
その後、新成人たちが再
会した同級生や小学校時の
恩師たちと、「思い出話を
に花を咲かせていました。

かわしり遍路



清正寺と言われるお寺

バス通りの川尻四ツ角交差点を東に折れ、川尻電車

が、熱心な仏教徒でした。



加藤清正像 (法宣寺)

終点の記念碑を通り過ぎると通称、横町筋に入る。この一帯は、一昔前まで鍛冶屋町と言われ、川尻の代名詞とされる川尻包丁を作る鍛冶屋さんが軒を連ねていたところです。この横町の一路に沿つて白い長塀が続きます。四百年以上の歴史を持った日蓮宗の常妙山法宣寺 (川尻五丁目四一—二十五) です。

清正公さんで親しまれる宣寺は、加藤清正の正室として、川尻町の法

院 (丁) に建立したものを清正が現在地に移転したと言えられています。祝迦年尼仏を本尊とする法宣寺は、明治期以降荒廃してしまいますが、昭和期に本妙寺から三十三世智顕上人を招いて再興が行われたと申します。

大きな楼門を抜けると、本堂前の境内の一角に供養塔があります。明治二年 (1869) に建てられたといふ清正の正室、清淨院 (かなめいん) の供養塔です。



清淨院像 (法宣寺)



清淨院供養塔

その他の妙宣寺、鶴岡の天澤寺、そして広島県福山寺など全国各地にあります。川尻町の法

院 (丁) は、知・仁・勇の三徳兼備の名将として、また



川尻小学校創立の碑

河陽小、河東小の二校を設立して学童を二分した」と記されています。明治の早い時期から教育にかけられた地元住民の熱意が感じられます。終日、鍔を鍛える槌音が響いていたという鍛冶屋町時代は、元気な幼児の声が響きわたる横町となりました。

境内には、いろいろな方々が眠っています。川尻の風景を五言絶句や七言絶句の聯語で表した漢学者の山田怡翁 (大追物) (*2) を伝えた肥後の儒学者江良英林・仲文 (1745-1789) 兄弟の墓もあります。

(*1) インド大乗仏教に始まる経典のひとつ、法華経 (妙法蓮華經) を唱えることにより善惡、男女、老若、貴賤、貧富の差別なく、すべての人が成仏できるといふ教え。

(*2) 大追物は、鎌倉時代に始まつたとされ、流鏑馬、笠懸と共に日本弓道の作法 (騎射三物) のひとつで、武芸の鍛錬とされた。十四方の馬場に百五十匹の大馬を入れ、三十六駒の騎手が特殊な鏑矢でこの大追物は、大慈寺河原や椎田で正月行事として行われた文献が残る。

日蓮聖人に始まる「法華経」を帰依の対象 (*1) とする日蓮宗への信仰心は人一倍強く、清正公ゆかりの日蓮宗のお寺は、淨池廟のある熊本市西区の本妙寺を始め、東京の實林寺・清正公寺、名古屋の妙行寺・妙延寺、京都の本園寺、尾道の妙宣寺、鶴岡の天澤寺、そして広島県福山寺など全国各地にあります。川尻町の法

院 (丁) が清正公と清淨院を祀っていることが清正寺

と言われる所以でしょう。

河陽小、河東小の二校を設立して学童を二分した」と記されています。明治の早い時期から教育にかけられた地元住民の熱意が感じられます。終日、鍔を鍛える槌音が響いていたといいう鍛冶屋町時代は、元気な幼児の声が響きわたる横町となりました。

築城、治水で名を馳せます。

本堂前の中庭の一角に供養塔があります。明治二年 (1869)

が眠っています。川尻の風景を五言絶句や七言絶句の聯語で表した漢学者の山田怡翁 (大追物) (*2) を伝えた肥後の儒学者江良英林・仲文 (1745-1789) 兄弟の墓もあります。

(*1) インド大乗仏教に始まる経典のひとつ、法華経 (妙法蓮華經) を唱えることにより善惡、男女、老若、貴賤、貧富の差別なく、すべての人が成仏できるといふ教え。

(*2) 大追物は、鎌倉時代に始まつたとされ、流鏑馬、笠懸と共に日本弓道の作法 (騎射三物) のひとつで、武芸の鍛錬とされた。十四方の馬場に百五十匹の大馬を入れ、三十六駒の騎手が特殊な鏑矢でこの大追物は、大慈寺河原や椎田で正月行事として行われた文献が残る。

街並みを彩るフレスコ壁画が完成

川尻の歴史を活かした復興と希望!

街並みを彩るフレスコ壁画が完成
川尻の歴史を活かした復興と希望!

古く、昭和初期の古戸ローラー機械で運搬される砂と石灰を混ぜたモルタルで壁を塗り、その上に水だけ溶いた顔料で絵を描く技法です。日本画は二カ所、油絵は油彩画はノリ等の溶剤を使つて描きこなす力と、色彩と反応して透明な色彩感覚となりました。

伝統の川尻町の歴史を後世に残すことを決意、従前使われた建材を使用しての古民家作りになりました。

これは、川尻町の岡町バス停前の椎葉製糸家の南側壁面です。イタリア語で新鮮という意味のフレスコ画の歴史は古く、紀元前約 1,000 年頃から現れ、ルネサンス期に大きく華開きました。ギリシャ、エジプト、トルコなどに広がったフレスコ画は、砂と石灰を混ぜたモルタルで壁を塗り、その上に水だけ溶いた顔料で絵を描く技法です。(日本画は二カ所、油絵は油彩画はノリ等の溶剤を使つて描きこなす力と、色彩と反応して透明な色彩感覚となりました)。

そして、長女で画家の椎葉聰子(註 1)さんが、生ま

れ育つた川尻の風景をフレスコ画で製作して、故郷の方々に見て頂きたい」と

九州では初めての壁画作りが出来上がった壁画は、フレスコ画(註 2)のひとつ、グラフィット技法(一般的な技法の作品より数段階多く優れて描かれた彩

り)で描かれた、川尻の風景をフレスコ画で製作して、故郷の方々に見て頂きたい」と

九州では初めての壁画作りが出来上がった壁画は、フレスコ画(註 2)のひとつ、グラフィット技法(一般的な技法の作品より数段階多く優れて描かれた彩り)で描かれた、川尻の風景をフレスコ画で製作して、故郷の方々に見て頂きたい」と

九州では初めての壁画作りが出来上がった壁画は、フレスコ画(註 2)のひとつ、グラフィット技法(一般的な技法の作品より数段階多く優れて描かれた彩り)で描かれた、川尻の風景をフレスコ画で製作して、故郷の方々に見て頂きたい」と

椎葉家の先の熊本地震で大きく損壊しましたが、伝統の川尻町の歴史を後世に残すことを決意、従前使われた建材を使用しての古民家作りになりました。

椎葉家の先の熊本地震で大きく損壊しましたが、伝統の川尻町の歴史を後世に残すことを決意、従前使われた建材を使用しての古民家作りになりました。

そして、長女で画家の椎葉聰子(註 1)さんが、生ま

れ育つた川尻の風景をフレスコ画で製作して、故郷の方々に見て頂きたい」と

九州では初めての壁画作りが出来上がった壁画は、フレスコ画(註 2)のひとつ、グラフィット技法(一般的な技法の作品より数段階多く優れて描かれた彩り)で描かれた、川尻の風景をフレスコ画で製作して、故郷の方々に見て頂きたい」と

九州では初めての壁画作りが出来上がった壁画は、フレスコ画(註 2)のひとつ、グラフィット技法(一般的な技法の作品より数段階多く優れて描かれた彩り)で描かれた、川尻の風景をフレスコ画で製作して、故郷の方々に見て頂きたい」と

九州では初めての壁画作りが出来上がった壁画は、フレスコ画(註 2)のひとつ、グラフィット技法(一般的な技法の作品より数段階多く優れて描かれた彩り)で描かれた、川尻の風景をフレスコ画で製作して、故郷の方々に見て頂きたい」と

椎葉家の先の熊本地震で大きく損壊しましたが、伝統の川尻町の歴史を後世に残すことを決意、従前使われた建材を使用しての古民家作りになりました。

椎葉家の先の熊本地震で大きく損壊しましたが、伝統の川尻町の歴史を後世に残すことを決意、従前使われた建材を使用しての古民家作りになりました。

そして、長女で画家の椎葉聰子(註 1)さんが、生ま

かわしり遍路



日本の歴史を語る寺

バス通りの川尻四つ角を

西に折れると、川尻の繁榮
を今に伝える瑞鷹(株)本
店・倉庫、今村家(塙鐵屋)

等の景観建造物が軒を連ね、
古の川尻にタイムスリップ

したような風景に一変しま
した。この道をさらに西へ進
むと、JR 九州の在来線、九

州新幹線高架橋に至ります
が、この高架橋の両側一帯が、
国史跡熊本藩川尻米蔵跡(船
着き場跡、外城藏跡、御船
手渡し場跡)です。外城藏
跡近くには細川藩の奉行所

お屋敷が置かれたと記され

ていますが、はつきりした
場所は分かつていません。J

R 高架橋をくぐると、外城
町です。地名は、河尻城(註
1)が城郭(内城と外城)
を形成していたところからの
地名と思われます。近代に
入つても第二次大戦前頃ま
では、お船手(富合町)や
外城の住民は、「外城内で食
料から日用雑貨に至る全て
の生活用品を買い揃えるこ
とが出来た」といいます。



明治初期の泰養寺絵図

この道をさらに西へ進
むと、JR 九州の在来線、九
州新幹線高架橋に至ります
が、この高架橋の両側一帯が、
国史跡熊本藩川尻米蔵跡(船
着き場跡、外城藏跡、御船
手渡し場跡)です。外城藏
跡近くには細川藩の奉行所

お屋敷が置かれたと記され
ていますが、はつきりした
場所は分かつていません。J

R 高架橋をくぐると、外城
町です。地名は、河尻城(註
1)が城郭(内城と外城)
を形成していたところからの
地名と思われます。近代に
入つても第二次大戦前頃ま
では、お船手(富合町)や
外城の住民は、「外城内で食
料から日用雑貨に至る全て
の生活用品を買い揃えるこ
とが出来た」といいます。



佛石山泰養寺

この外城に、歴史上重要な
な会議が開かれたお寺があ
ります。佛石山 泰養寺(川
尻三丁目四一—十七)です。
泰養寺は、今から約五百年
前に建てられた草庵(淨光寺)
に始まり、寶永六(1709)
年、泰養寺と改称にな
りました。

この外城に、歴史上重要な
な会議が開かれたお寺があ
ります。佛石山 泰養寺(川
尻三丁目四一—十七)です。
泰養寺は、今から約五百年
前に建てられた草庵(淨光寺)
に始まり、寶永六(1709)
年、泰養寺と改称にな
りました。



泰養寺の鐘楼堂



九曜の紋が入った瓦

もう一つは、明治十(1877)
年五月から始まった

河尻城 濱穂朝が征
夷大將軍に任せられた頃(建
久三年・1192)、地頭と

荒金 錬一

が戦死した。

この泰養寺で開かれた会

西南戦争(註3)で、新政

して下向した河尻三郎実明

厚徳を掲げて薩摩を発つた
西郷隆盛率いる薩摩一万二

兵が造ったとされる平城(河
尻氏は足利兄弟の対立(觀

利を総大将に数万の大軍を
出陣させます。その多くは、
川尻港より軍船で島原の原

命を受けた細川忠利は、光
の制圧に際し、幕府の

軍議を開いたと伝えられて
います。後に、細川忠利は、
城へ向かいいますが、この時、
多くの将が泰養寺に泊まり、
軍議を開いたと伝えられて
います。後に、細川忠利は、

このことを賞し、九曜の紋
入りの屋根瓦(庫裡、山門、
鐘楼堂)と鐘楼を泰養寺に

寄進しています。

永十四(1637)年、庄

城で開かれた泰養寺に泊まり、
政に加え三年生きの大飢饉、
と宗教弾圧を受けた天草、
島原のキリストンと農民ら

等を経ながら、宝永十五(1

408)年の夏、菊池貞一

に攻められます。十一代美

昭は城を脱出し行方不明、
河尻城が終焉します。

註2、島原・天草の乱 寛

永十四(1637)年、庄

城で開かれた泰養寺に泊まり、
政に加え三年生きの大飢饉、
と宗教弾圧を受けた天草、
島原のキリストンと農民ら

等を経ながら、宝永十五(1

408)年の夏、菊池貞一

に攻められます。十一代美

昭は城を脱出し行方不明、
河尻城が終焉します。

註2、島原・天草の乱 寛

永十四(1637)年、庄

城で開かれた泰養寺に泊まり、
政に加え三年生きの大飢饉、
と宗教弾圧を受けた天草、
島原のキリストンと農民ら

等を経ながら、宝永十五(1

408)年の夏、菊池貞一

に攻められます。十一代美

昭は城を脱出し行方不明、
河尻城が終焉します。

註3、西南戦争 鹿児島の

私学校生を中心とした薩摩

士族たちが、征韓論に敗れ
下野した薩摩大将西郷隆盛

を擁して熊本県内を中心の

政府軍と戦った国内最後の

内戦。二月二十二日から九

月二十四日の西郷隆盛の自

刃まで七ヶ月間に亘る血戦

が繰り広げられ、政府軍 6

923 人、薩軍 7186 人

厳かに伝統の精霊流し

今年も加勢川を彩る火あかり!



川尻精霊流し

今年は、台風のため開催されましたが、少し心配されました。

肥後の三大夏祭りの一
つに数えられる孟蘭盆会の
伝統行事「川尻の精霊
流し」が八月十五日の夜
ありました。地区住民の
手で四百年間近くも守り
続けられている川尻精霊
流しは、加勢川に架かる
新町橋上流一帯で行われ
ました。黄昏時になると、
親族を亡くした関係者が
供物を載せた精霊船を
次々と持ち寄りました。
雅楽の演奏に統一して、大
慈寺の佐藤住職の誦経が
始まるなど、今年初盆を迎
えられた遺族たちの精霊
舟(160)と万灯ろうが
が次々に流されました。

合志朗読会の代表、松
本武士さん)のメンバ
が行いました。作家とし
ても活躍している川尻出
身の古木さん(古木信子さん)
永こずえ・和奈さん(フ
ルートの吉永洋子さん)、
アナウンサーの藤巻さ
ん(元 RKK アナウンサー)
古木信子さん、等の小路

*朗読音楽劇の公演＊
国指定史跡の熊本藩川
尻米蔵跡を形成する船着
き場跡や御船手渡し場跡
を織り込んだ「船頭の恋
物語」の朗読音楽劇が完
成し、八月十日、くまもと
芸芸会で披露されました。
この朗読音楽劇は、

船頭の恋を描く御船手物語
＊朗読音楽劇の公演＊

川尻藩の軍港として、ま
れた御船手と行き来する御
船手渡し場を中心に、藩
政時代駆けつけた川尻町で
「船頭と少女との恋物語」
です。船頭と少女との恋
別れ、再会等心の動きを
古木さんや勝さんが感情
豊かに語り、場面、場面
の要所には等とフルート
の演技が織り込まれ、鑑
賞に訪れた人たちを魅了
しました。

地蔵堂、地蔵菩薩の修復が進む
史跡案内建て替へも始まる
お地蔵さんとして親し
まれる「地蔵菩薩」は、
川尻町には数多くあります。

川尻町史では二十ヶ
所)地蔵菩薩は、お仏迦
菩薩が出現された後、弥勒
菩薩が出現された後、弥勒
菩薩が出現されるので、その教
界となるので、その教
説を仏世尊(釈迦如來)
から依頼されます。です
からお地蔵さんは、その
広大な慈悲で「私たちの
世界を見守り、救つて下
さる」と言われているの
です。



朗読音楽劇

【発行】
川尻文化の会事務局
毎月 1 回発行
発行責任者 荒金鉢一
☎ 096-358-5711
(熊本市くまもと工芸会館)



間魔堂と間魔大王(八幅町)
川尻町や八幡町などの
地蔵堂やお地蔵さんの多
くは、先の熊本地震で
大きく損壊しました。心を
痛めた地元町の方々
は、お地蔵さんや恵比須
神社など下町恵比須(寿)神
の修復に奔走してきました
た。そして、地震から 2
年余でほとんどの修復が
行われ、地域の町角や路
地で再びやさしいお旗
が出来るようになりました。



一方、数多くの史跡を
残す川尻町ですが、幾つ
かの史跡の説明文は歳月
を経て判読できなくなつ
ています。川尻文化の会
では、これらの説明板や
標柱の建て替えを推進
しています。今年度は、熊
本市南区地域コミュニ
ティづくり支援補助を受け、
会費や寄付金で「歴
代の河尻城主を祀った古
城神社と下町恵比須(寿)
神」の説明板の建て替え
を進めています。二ヶ所
の説明板は共に金属製の
標柱で、十月初めには新
しい標柱が御目見えしま



地蔵堂と地蔵尊(岡町)

の修復に奔走してきました
た。そして、地震から 2
年余でほとんどの修復が
行われ、地域の町角や路
地で再びやさしいお旗
が出来るようになりました。

川尻町や八幡町などの
地蔵堂やお地蔵さんの多
くは、先の熊本地震で
大きく損壊しました。心を
痛めた地元町の方々
は、お地蔵さんや恵比須
神社など下町恵比須(寿)
の説明板の建て替え
を進めています。二ヶ所
の説明板は共に金属製の
標柱で、十月初めには新
しい標柱が御目見えしま



た。お地蔵さんに接すること
が出来るようになりました。

川尻文化の会便り

かわいり遍路



火伏地蔵を祀る寺

人々を古へ誘う瑞應通りを
西へ進むと国史跡熊本藩川

尻米藏跡を構成する外城藏
跡が姿を現します。平成三

十三年に修復が終えるとい
うこの米藏跡の西側に一本

木地蔵をお堂は倒壊しまし
た。更地となつた地蔵堂跡

からは火伏地蔵がありま
したが、平成二十八年の熊
本地震でお堂は倒壊しまし
た。更地となつた地蔵堂跡

見えてのが歓喜山 常清寺



歓喜山常清寺

（川尻三丁目四一五、第二
十八世 金井後賢住職）です。

幸清は、自宅敷地に地蔵堂
を建てて朝夕礼拝に努めます。



法要（七月二十三日）



本妙寺の末寺という常清寺
は、1615（元和元）年に
創建された日蓮宗のお寺
（註1）で、「この一帯は江
戸時代に地蔵町と呼ばれ、
町屋、御船手（船頭）、御作
事所（造船）、関係の屋敷が
建ち並ぶ町でした。

現在 地蔵町には「地蔵
さんのお告げ」が今も語り
継がれています。「この地区
で火災の兆しがある時は、
どこからか十一・三歳の少
童が現れ、走り回つて火事
を知らせる」というもので
す。信者の寄付で新築され
た地蔵堂は、先の熊本地震
で失われましたが、地区住
民の方々は、「地蔵さんのお
告げ」を今も大切にされ
ます。

常清寺に残る記録（常
清寺縁起）によれば、加藤
清正の肥後国主時代（15
89～1611）の家庭にて
安政市之丞好次という武士
がいました。晩年出家して
幸清と改名。川尻町の外城
町近くに庵を設けました。
幸清は、ある夜「此の地の
火災を免れんと欲せば、こ
れより南方の音寺（現
杉島御船手の觀音寺）の林
の中にある我が像を大事に
せよ」という靈夢を見た」と
いいます。その林の中から
地蔵菩薩の御首を見つけた
幸清は、自宅敷地に地蔵堂
を建てて朝夕礼拝に努めます。

幸清の嫡子、常清は、父の
志を継ぎ元和元年に常清寺
を建立して、地蔵堂を守り
ますが、晩年には家屋敷
地蔵堂とも他人へ譲り渡し
ます。

ところで、川尻町の各寺
院は神宮とともに手を携えて、
毎年春に川尻お寺でフェス
タ（註2）を繰り広げていま
す。常清寺を練り広げて副
住職らによる「日蓮宗提唱
の行動の変革」へのチャレ
ンジです。「お寺が、寺から
飛び出して人々の中に入
り、また本堂や境内を開放
してより多くの人が寺に集
まる」試みで、お寺で肝
精り料理、入浴体験、コン
サート、フリーマーケット
などです。

註1. 寛永年間（1624
～1643）に圓妙院日及
によつて開基されたとも云
われる。
註2. 川尻お寺でフェス
タは、毎年春先に実施されて
いる「かわいしり春ものがたり」の中で、宗派を超えて
お寺同士が、本堂や境内を
開放して人々が集まる「触
れ合いの場」にしようと行つ
ているものです。今年のお
寺でフェスでは、九つのお
寺院と川尻神宮が参加しま
した。

最後になりましたが、肝
心の火災除けの火伏地蔵さ
んは、現在 常清寺本堂に
祀られています。地蔵菩薩
が四百年の時を経て、再び
常清寺に帰つて来たので
す。本堂に静かに佇む地蔵



川尻お寺でフェスタ



荒金 鍊一



火伏地蔵

川尻文化の会便り

川尻公会堂 待望の再開



とほとんど
が完成した
とほどんど

川尻公会堂は、瑞應酒造(現、瑞應株式会社)の二代目社長 吉村彦太郎 爹が晩年、「川尻の発展には公会堂が必要」と決意、その寄贈を遺言しての遡去が始まります。昭和六(1931)年に完成した川尻公会堂は、回り廊下を持つ大部屋と小部屋からなる木造平屋建て(440坪)でした。以降、戦後を通して町内各種団体の活動の場として、また、講演会や冠婚葬祭の場としても活用されました。しかし、歳月を経た建物は、老朽化が進み、吉村家から寄贈を受けた熊本市が耐震工事を決め、平成二十六(2014)年運用休止になります。そして、改修計画が進む中、平成二十八年の熊本地震に見舞われ、工事は断延を余儀なくされ市民は不自由を強いられました。

工費一億
要した耐震
工費一億
とほどんど

川尻公会堂は、瑞應酒造(現、瑞應株式会社)の二代目社長 吉村彦太郎 爹が晩年、「川尻の発展には公会堂が必要」と決意、その寄贈を遺言しての遡去が始まります。昭和六(1931)年に完成した川尻公会堂は、回り廊下を持つ大部屋と小部屋からなる木造平屋建て(440坪)でした。以降、戦後を通して町内各種団体の活動の場として、また、講演会や冠婚葬祭の場としても活用されました。しかし、歳月を経た建物は、老朽化が進み、吉村家から寄贈を受けた熊本市が耐震工事を決め、平成二十六(2014)年運用休止になります。そして、改修計画が進む中、平成二十八年の熊本地震に見舞われ、工事は断延を余儀なくされ市民は不自由を強いられました。

川尻文化の会では、老朽化して解説が難しく、また、各所の説明会で「川尻の歴史跡の説明版(柱)」の名違いを指摘する声が、改修前とほどんど以前とんど以前の建築材を再利用する「柱は、川尻五丁目の横町天満宮内の「川尻鐵治発祥の地」と川尻三丁目の「国史跡御手渡し跡」の二か

史跡の標柱建て替え進捗

西熊本市長をはじめ、市や川尻町民の関係者百人が出席して行われ、町民は待ちに待った公会堂の再開を喜びました。

完成式は、四月十日、大西熊本市長をはじめ、市や川尻町民の関係者百人が出席して行われ、町民は待ちに

待った公会堂の再開を喜びました。

川尻文化の会では、老朽化して解説が難しく、また、各所の説明会で「川尻の歴史跡の説明版(柱)」の名違いを指摘する声が、改修前とほどんど以前とんど以前の建築材を再利用する「柱は、川尻五丁目の横町天満宮内の「川尻鐵治発祥の地」と川尻三丁目の「国史跡御手渡し跡」の二か

柱は、川尻五丁目の横町天満宮内の「川尻鐵治発祥の地」と川尻三丁目の「国史跡御手渡し跡」の二か

敵かに

今回新たに建て替えた標柱は、川尻文化の会では、老朽化して解説が難しく、また、各所の説明会で「川尻の歴史跡の説明版(柱)」の名違いを指摘する声が、改修前とほどんど以前とんど以前の建築材を再利用する「柱は、川尻五丁目の横町天満宮内の「川尻鐵治発祥の地」と川尻三丁目の「国史跡御手渡し跡」の二か

広がるフレスコ壁画

川尻一丁目の川尻バス停前の垂れ幕裏さんは、熊本地震で壊壊した住居の修復に際して「町の歴史を後世に残そう」と自宅の壁面につけていました。

新しい壁画は、上部に椎葉家の家紋(ウメバチソウ)、下に左右非対称の雲、もう一段下には、中央に菊の花をあしらう、ギリシャ神殿一枚のキヤンバスとなつて道行く人を魅了します。

川尻一丁目の川尻バス停前の垂れ幕裏さんは、熊本地震で壊壊した住居の修復に際して「町の歴史を後世に残そう」と自宅の壁面につけていました。



州墓のある寺で広く知られています。西南戦争の時、川尻町の多くのお寺や大家は、薩軍負傷兵を収容する病院提供したのが、延壽寺第三代住職伝弘成師(当時二十八歳)といいます。

化の会便りり5号掲載)。しかし、椎葉家の南壁面は広く「綠川と大慈寺、加勢川と七福神等」を描いたフレスコ画・彩鳳舞丹宵に賛美して作業に当たりましたが、今回は足場を組んでの施工で、友人や建築会社の方の協力を得て四月末に完成しました。

州墓のある寺で広く知られています。西南戦争の時、川尻町の多くのお寺や大家は、薩軍負傷兵を収容する病院提供したのが、延壽寺第三代住職伝弘成師(当時二十八歳)といいます。

化の会便りり5号掲載)。しかし、椎葉家の南壁面は広く「綠川と大慈寺、加勢川と七福神等」を描いたフレスコ画・彩鳳舞丹宵に賛美して作業に当たりましたが、今回は足場を組んでの施工で、友人や建築会社の方の協力を得て四月末に完成しました。

【発行】
川尻文化の会事務局
毎月1回発行
発行責任者 荒金謙一
☎ 096-358-5711
(熊本くまもと芸術会館)



かわしり遍路

閻魔様のお寺

法性寺

川尻小学校前を通り過ぎると白壁造りの民家が続き、この一帯は小路町と呼ばれています。自動車の離合に気を遣う狭い道をさらに南に進むと、無田川（川尻は幾つもの水路を活用して栄えた）に架かる小橋を渡ります。



川尻町小路の通り

肥後銀行川尻支店前のバスト通りの信号交差点を西へ曲がると小さな橋があります。裏無田川に架かる高札橋（註1）です。この橋の南北一帯は藩政時代に御本陣・町奉行所・御茶屋・御蔵など重要な施設があつた場所です。



帰命山無量寿院法性寺



無田川（柳原）

川尻小学校前を通り過ぎると白壁造りの民家が続き、この一帯は小路町と呼ばれています。自動車の離合に気を遣う狭い道をさらに南に進むと、無田川（川尻は幾つもの水路を活用して栄えた）に架かる小橋を渡ります。



無額の「敵」

法性寺については、肥後国史に「河尻小路町にあり、浄土宗の古刹なれども、開基年代は不明、多年退転に及ぶ処に、心蓮社信譽上人

土宗の帰命山無量寿院法性寺（二十六世 芥川隆淨住職、川尻四丁目六一ー）です。お寺の北側を流れる無田川沿いは、柳原といわれ、昔は賑やかな花街でした。

法性寺について、は、肥後土宗の帰命山無量寿院法性寺（二十六世 芥川隆淨住職、川尻四丁目六一ー）です。お寺の北側を流れる無田川沿いは、柳原といわれ、昔は賑やかな花街でした。

法性寺については、肥後國史に「河尻小路町にあり、浄土宗の古刹なれども、開基年代は不明、多年退転に及ぶ処に、心蓮社信譽上人

が再興す。はじめは、筑後善導寺の末寺たり」（註2）と記されています。そして、由来覚書によると、「相良藩の御一行の御用宿や薩摩屋敷は境内に出入りの門を設営した等の記録が見られます。町史に記載の川尻十五寺の中で真宗（浄土宗を開いた法然上人の弟子で、後に独自の教えを開いた親鸞聖人を宗祖とする）のお寺が多いものの、法性寺は唯一の浄土宗です。お寺所蔵の九曜の絵細川家の家紋入りの一対の花瓶、伝統建築の寺社や茶室等に見られる大きな扁額の「敵」の文字（細川代重綱公の筆とされるが、額縁には五代綱利公の文字がある）が目を引きます。



閻魔大王

荒金 錠一

（註1）高札橋：藩政時代、「藩の重要な通達」お触れを掲示する高札」が建てられていましたことに由来する。（註2）開基：弘安二（1279）年説 天正七（1579）年説がある。（註3）薩摩本陣：參勤交代のため、大名は年々交互に江戸と領地を往復した。この折、薩摩の島津公は川尻町小路の「御本陣」に泊まられた。

（註4）閻魔大王：本来冥界を支配する神だが、仏教においては、地獄の魔王とされ人間の生前の行為（善悪）を審判するとされる。

（註4）閻魔大王：本来冥界を支配する神だが、仏教においては、地獄の魔王とされ人間の生前の行為（善悪）を審判するとされる。

お寺の境内には、閻魔堂や観音堂、地蔵堂があり、閻魔堂には「二体の閻魔大王（註4）が鎮座」しています。

閻魔堂の前を通った時、学校の先生が「私の持つている通知表（評価簿）は、閻魔帳です」と言っていたことを思い出します。供たちに「善いことも悪いこともびっしり」と書いてある閻魔帳の話を上げたいものです。



川尻文化の会 会議録(総会を除く)

開催会議	開催日	会議の主な議題
第1回 準備会	平成20年 4月4日	川尻のイメージづくり、史跡の保護の団体設立の件
第2回 準備会	4月23日	人の集まる人の歩く川尻にするために
第3回 準備会	5月21日	歴史、史跡のまちづくりをするために
第4回 準備会	6月19日	外城のお蔵の存続が重要な課題
第5回 準備会	6月27日	会の名称、趣意書・事業計画書の策定へ
第6回 準備会	7月3日	発起人、「川尻に賑わいを取り戻す」について
第7回 準備会	7月18日	会の名称、発起人、会員について
● 川尻文化を考える会 発足式 (9月21日・川尻公会堂・120人)		
代表委員会	9月30日	川尻文化を考える会の活動を町民に伝える広報手段の件
代表委員会	11月14日	御蔵調査部会、お蔵利活用部会の件
第1回 委員会	平成21年4月16日	会則及び委員の確認、お蔵サミットの提案の件
第2回 委員会	5月27日	役員の変更、お蔵サミットの件
第3回 委員会	6月25日	御蔵サミット、熊本地名シンポジウム開催の件
第4回 委員会	7月24日	御蔵サミットの主催、共催、後援の件
第5回 委員会	8月26日	御蔵サミットの予算案、今後の会の活動方針の件
第6回 委員会	9月25日	熊本市西島副市長、市教育委員会への陳情の件
第7回 委員会	10月27日	熊本市へ補助金申請、盛岡市・湯梨浜町・宇土市参加の打診
第8回 委員会	11月25日	全国御蔵写真展開催の件
第9回 委員会	12月22日	御蔵サミットの事業経費の件
第10回委員会	平成22年 2月4日	御蔵サミットの進行表、説明VTR・小冊子製作の件
第11回委員会	3月4日	御蔵サミット参加団体、出席者の件
第12回委員会	3月30日	御蔵サミットの小冊子説明
第13回委員会	4月13日	御蔵サミットのプログラム(進行表)確認
第14回委員会	4月30日	御蔵サミットのチラシ配布、広報・業務担当割認
● 全国御蔵サミット 開催 (5月15日・16日、川尻公会堂・160人)		
第15回委員会	6月13日	御蔵サミット事業の收支決算報告、今後の事業の件
第16回委員会	6月23日	御船手渡しの国指定追加申請について
第17回委員会	7月22日	校区民への国指定史跡説明会、史跡案内人制度の件
第18回委員会	8月19日	校区民への説明会、会次第の件、案内標識の整備の件
● 校区民への説明会 開催 (8月29日・川尻公会堂、熊本市文化財課長)		
第19回委員会	9月16日	川尻史跡案内人制度と講習会の件、観光案内板の件
第20回委員会	10月26日	川尻観光散策マップ、観光案内所、レンタルサイクルの件

第21回委員会	11月25日	川尻米蔵跡周辺整備事業協議会の設置、委員について
第22回委員会	平成23年1月13日	川尻観光散策マップ、観光案内所、レンタルサイクルの件
● 国史跡川尻米蔵跡周辺整備事業協議会 始まる（1月27日、熊本市）		
第23回委員会	2月16日	米蔵跡周辺整備事業協議会の報告、西会長の受賞を祝う会
第24回委員会	3月16日	次年度の事業計画、米蔵跡周辺整備事業協議会について
第25回委員会	4月13日	新体制での委員、顧問の件、御船手渡しの追加指定申請
第26回委員会	5月12日	早急に「御船手渡し」を国指定へ
第27回委員会	6月16日	米蔵跡周辺整備事業協議会での提案（史跡公園、トイレ）の件
第28回委員会	7月21日	米蔵跡周辺整備事業協議会の報告、かわしり光絵巻の件
第29回委員会	9月13日	米蔵跡の購入、整備について、御船手渡しの国指定申請の件
第30回委員会	10月20日	今後の米蔵跡周辺事業協議会での協議事項について
第31回委員会	11月24日	米蔵跡の利活用案募集の件、御船手渡しの指定申請の件
第32回委員会	12月14日	米蔵跡の利活用案6件について説明
第33回委員会	平成24年1月24日	川尻町内の観光案内板（矢羽根サイン等）の設置について
第34回委員会	2月22日	川尻米蔵跡の利活用は、最重要課題と位置付ける
第35回委員会	3月22日	川尻米蔵跡の2棟の米蔵の寄贈について
● 川尻文化を考える会から川尻文化の会へ（平成24年4月18日）		
第36回委員会	4月18日	川尻米蔵跡周辺整備事業協議会の報告
第37回委員会	5月22日	川尻の史跡観光ルートづくりに崇城大学と提携へ
第38回委員会	6月21日	川尻米蔵跡の利活用は「見るコース」以外の方策も
● 崇城大学地域共創センターと連携協定（平成24年9月14日）		
● 御船手渡し場跡が国指定史跡に（平成24年9月19日）		
第39回委員会	9月20日	崇城大学芸術学部との連携で川尻にアトリエを
第40回委員会	10月24日	川尻米蔵跡、周辺にトイレ、駐車場の整備が必要
第41回委員会	11月21日	川尻米蔵跡の利活用案の総括、熊本市の見解について
第42回委員会	12月19日	川尻の住民が川尻の歴史情報を共有する方策づくり
第43回委員会	平成25年1月16日	川尻史跡巡りの副読本を製作するための試案づくり
第44回委員会	2月20日	観光案内板（サイン）と大型バスの駐車場設置の件
第45回委員会	3月27日	川尻歴史本の製作、外城蔵跡の改修計画について
第46回委員会	5月21日	第6回 川尻米蔵跡周辺整備事業協議会の報告 (6か年の修復工事計画、利活用、駐車場・道路の整備)
第47回委員会	6月20日	川尻歴史本づくり計画、崇城大学酒蔵美術館計画の件
第48回委員会	9月5日	米蔵跡東側の遺構調査、川尻歴史本づくりについて
第49回委員会	10月9日	川尻歴史本づくりの分担と助成金申請について
第50回委員会	平成26年1月28日	御船手（御船手渡し場対岸）の工事状況について

第51回委員会	3月26日	川尻歴史本づくりの編纂状況及び予算案について
第52回委員会	4月22日	川尻米蔵跡の利活用で文化の会は、プランの提出のみとする
第53回委員会	6月20日	川尻歴史本製作の現況について
第54回委員会	平成27年2月17日	川尻歴史本の寄贈・販売、加勢川右岸の工事の件
第55回委員会	3月13日	歴史本の編纂と収支、販売について
●「ふるさとの歴史 川尻」を出版（平成27年3月15日）		
第56回委員会	6月28日	川尻米蔵跡関連（管理棟、多目的広場の活用、トイレ）の件
第57回委員会	12月3日	川尻米蔵跡の修復工事進捗状況、歴史公園について
●熊本大地震、川尻地区も倒壊が相次ぐ（国指定川尻米蔵跡も被災）		
	(平成28年4月14日、16日)	
第58回委員会	平成29年3月20日	川尻米蔵跡の修復工事予定、史跡説明版の修復・新設
第59回委員会	12月21日	川尻米蔵跡の工事計画、多目的広場までの無電柱化
●熊本市より「川尻文化の会の事業（川尻米蔵跡の利活用）を校区自治協議会の文化財保存・活用委員会への統合」要請を受ける（平成29年7月19日）		
第60回委員会	平成30年5月17日	第12回米蔵跡周辺整備事業協議会の報告
第61回委員会	令和元年 5月 30日	史跡説明の案内板建て替え、米蔵跡の修復状況の件
同 日	総会開催 ●川尻文化の会の解散を議決	

米蔵跡周辺整備事業協議会 会議録

第1回 川尻米蔵跡周辺整備事業協議会	平成22年 1月 27日 (熊本市役所)
第2回 川尻米蔵跡周辺整備事業協議会	平成22年 6月 14日 (熊本市役所)
第3回 川尻米蔵跡周辺整備事業協議会	平成23年 7月 12日 (くまもと工芸会館)
第4回 川尻米蔵跡周辺整備事業協議会	平成23年10月 7日 (くまもと工芸会館)
第5回 川尻米蔵跡周辺整備事業協議会	平成24年 7月 30日 (熊本市役所)
第6回 川尻米蔵跡周辺整備事業協議会	平成25年 5月 9日 (熊本市役所)
第7回 川尻米蔵跡周辺整備事業協議会	平成25年10月 18日 (熊本市役所)
第8回 川尻米蔵跡周辺整備事業協議会	平成26年 5月 23日 (熊本市役所花畠別館)
第9回 川尻米蔵跡周辺整備事業協議会	平成26年12月 22日 (熊本市役所)
第10回川尻米蔵跡周辺整備事業協議会	平成27年 6月 4日 (熊本市役所 駐輪場会議室)
第11回川尻米蔵跡周辺整備事業協議会	平成29年 2月 20日 (国税局別館会議室)
第12回川尻米蔵跡周辺整備事業協議会	平成29年11月16日 (熊本市役所)

*熊本市：観光文化交流局、観光振興課、文化振興課、都市計画（政策）課、土木総務課
地域づくり推進課、商工振興課、公園課、南区役所

*川尻文化の会：荒金鍾一、重田健藏、栗崎勇一、福山龍太郎、田邊正信、増永榮、外

ふるさとの歴史

川尻



の表があり、肥後飽和橋
とよんだ場所はどこか
とだらうと書いています。
そこが水門の地、現在
残念でいたようですが、
港・港で、河川・運

舟に積み替えて川舟へ
した。こうして川尻(カワシ
ロ)です。

の説がありました。
う説がありますがど
川尻(コウ)の原
義)



「ふるさとの歴史 川尻」の本(124ページ)は、(まもと工芸会館の売店で販売しています。
価格は、1冊:1,100円(消費税込み)です。